川柳塔

平成二十九年一月一日発行（毎月一日発行）
創刊大正十三年　通巻一〇七六号

日川協加盟

同人特集・私の一句

No.1076

一月号

第五回 春の川柳塔まつり誌上大会募集

川柳塔社では、日頃句会などにお出掛けになれない方々を含め、結社を越えて広く川柳をお楽しみいただく機会として、第五回誌上大会を企画いたしました。参加要領は左記のとおりです。是非皆様のご参加をお待ち申し上げます。

川柳塔社

課題と選者（各題二句　共選）

課題吟
「友」　長島敏子（ふあうすと川柳社）　高瀬霜石（川柳塔社）
「書く」　平田朝子（川柳噴煙吟社）　新家完司（川柳塔社）

雑詠
植野美津江（番傘川柳本社）　小島蘭幸（川柳塔社）

投句要領　規定の用紙（コピー可）または、用紙の入手できない場合は便箋などご使用いただいても結構です。

投句料　一〇〇〇円（切手は不可）

投句締切　**平成二十九年二月二十日(月) 消印有効**

送付先　〒543－0052
大阪市天王寺区大道一－一四－一七－二〇一
川柳塔社　誌上大会係　宛
TEL／FAX（〇六）六七七九－三四九〇

賞及び発表　各題秀句に賞呈　発表は川柳塔誌五月号誌上
川柳塔誌を購読されていない方には発表誌呈

信頼され、社会に役立つ製品を作る

高級封筒専業メーカー

コーキ封筒株式会社

本　　社　富田林市若松町東３丁目７番８号　〒584－0023
TEL 0721－25－7210　FAX 0721－25－9484
東京営業所　東京都中央区日本橋本石町４丁目５番８号　〒103－0021
（日本橋川村ビル４F）
TEL 03－5255－5158　FAX 03－5255－5159
http://www.koki-envelope.com

川柳の旅

小島蘭幸

明けましておめでとうございます。本年が皆様にとって穏やかで素晴らしい年でありますように心から願っています。

昨年私は、本社句会をはじめ、多くの川柳大会に出席することが出来ました。6月の全日本川柳愛媛大会、7月の新潟柳都全国川柳大会、8月の四万十川川柳全国大会、11月の国民文化祭愛知川柳大会等々。9月には、竹原川柳会創立60周年記念川柳大会も開催しました。中でも特に印象に残っているのが、第17回四万十川川柳全国大会です。このことについては、10月の巻頭言に書かせて頂きました。又、1月6日の本社句会でもお話ししたいと思っておりますので是非ご出席下さい。

さて今年は酉年、旧い川柳たけはらの年頭吟のコーナーを見ていましたら、鶏を詠んだ懐かしい方達の名前を見つけましたので紹介させて頂きます。

昭和56年の年頭吟から

東天紅東天紅と聞えくる　橋高　薫風
還暦の一番鶏を聞きにけり　香川　酔々
鶏鳴に起きたはふるい物語　菊沢小松園

平成5年の年頭吟から

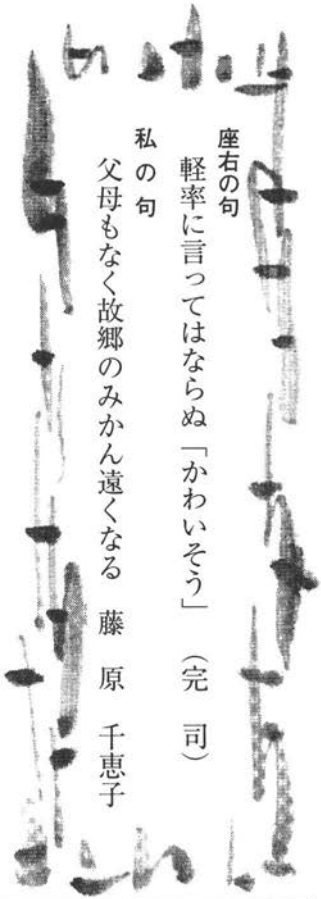
鶏の声も久しきもののうち　工藤　甲吉
元旦も卵を生んでくれていた　林　荒介
初春へ幸多かれと東天紅　西田柳宏子

私の今年の年頭吟は

軍鶏の眼を見よ逞しい足を見よ

としました。最近頓に体力の衰えを感じている私へ向けての一句です。

私の平成29年は、路郎先生のふるさと尾道千光寺の展望台から始まります。千光寺にお参りして、路郎先生の文学碑に竹原の銘酒をお供えしたいと思います。川柳の旅は、1月6日の川柳塔本社句会から、7日、新春たましま川柳大会、9日、番傘川柳本社新年おめでとうの会と続きます。今年も多くの川柳大会に出席して、多くの柳友の皆様にお会いしたいと思っています。川柳の旅は、本当に楽しいです。



座右の句

軽率に言ってはならぬ「かわいそう」（完　司）

私の句

父母もなく故郷のみかん遠くなる　藤　原　千恵子

川柳塔　一月号目次

題字・中島生々庵／表紙きり絵・前田　尋「エト　酉」

■巻頭言　川柳の旅……小島蘭幸…(1)
正坊さーん!!……髙瀬霜石…(2)
川柳塔（同人吟）……小島蘭幸選…(4)
川柳塔の川柳讃歌 ⑭⑤……木津川　計…(43)
自選集……(44)
■ショートエッセイ　鼠「ネズミ」……夏目一粋…(47)
温故知新……(47)
水煙抄……西出楓楽選…(48)
新川柳鑑賞 ⑤⑨……麻生路郎…(68)
橘高薫風句抄……(69)
誹風柳多留一二篇研究 43……(70)
英語 de Senryu ⑥①……吉村侑久代…(72)
追悼　春城年代さんを偲んで……奥田みつ子…(73)

正坊さーん!!

髙瀬霜石

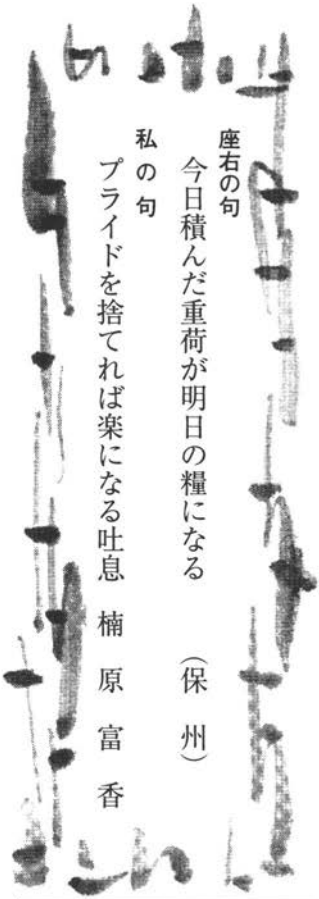
僕の趣味は映画。去年も、劇場で120本ほどの映画を観ることができた。僕も家族も会社も、無事だったという証だ。

映画ファンといえば、今は亡き田中正坊先輩を忘れてはならない。去年の10月、正坊さんの奥様、千代子さんから、

「配管工事をすることになり、押し入れの荷物を全部出したら、こんなのが出てきたので、ふと、あなたに送ってみようと思いました」と、映画のパンフレットがどっさり送られてきた。

中でも1番古いのは「戦争と平和」（1966～67）。世界文学史上最高最大の作品「戦争と平和」。年季の入った映画ファンならば――イタリアのプロデューサー、ディーノ・デ・ラウレンティスがパラマウントと提携して作った、オードリー・ヘプバーン、ヘンリー・フォンダ、メル・ファーラー主演の――上映時間3時間半の超大作「戦争と平和」（1956

愛染帖……新家完司選…(74)
檸檬抄「価　値」……北野哲男・安土理恵共選…(78)
第31回 国民文化祭・あいち2016 入選作品……(81)
一路集（「古　い」……吉岡　修選…(82)
「人　気」……栃尾奏子選…(83)
初歩教室「仲　間」……居谷真理子…(84)
川柳塔鑑賞……石橋芳山…(86)
水煙抄鑑賞……福西茶子…(88)
同人特集　私の一句……(89)
せんりゅう飛行船㉓……新家完司…(97)
インスピレーション・ナビ　印象吟……大西泰世…(98)
十二月本社句会……(100)
句会燦燦……岩崎眞里子…(104)
各地柳壇（佳句地十選／早川遡行・斉尾くにこ）……(105)
一月各地句会案内……(118)
柳界展望……(150)
■編集後記（ひとこと／岡崎美知江）……朱夏・まつお…(152)



座右の句

今日積んだ重荷が明日の糧になる　（保　州）

私の句

プライドを捨てれば楽になる吐息　楠　原　富　香

年）を思い出すはずだ。

作られたのは米国版の方が古いが――これに刺激されたというか――これに頭にきたソ連（当時）映画界が国家的規模で製作したのがこのロシア版である。

トルストイの偉大な構想を完全映画化するには、絶対にロシア人の手でなされなければならないと決意したからだ。

原作の執筆期間と同じ5年の歳月をかけ撮ったこの作品は、全4部からなり、まず第1部と第2部が公開された。出演者のべ53万人。上映時間は約7時間。

1年後に公開された第3部と第4部も同じく約7時間。主演のナターシャ役は――既製の映画・演劇人の中にはイメージがぴったりの女性がいなかったので、なんと、文化省が芸術のあらゆる分野にたずさわる少女の中から捜し出してきた――バレリーナの卵の新人リュドミラ・サベーリワ（19歳）が、抜擢された。

彼女は清く、可憐で、大きな瞳。それは可愛かったですよねえ、正坊さん。

もっと作品紹介したかったけれど、あれまあ、もう紙面が無くなってしまった。

ごめんなさい。正坊さん。

川柳塔

小島蘭幸選

鳥取県　斉尾　くにこ

一人だと立ち向かえたか震度6
ストレスを溜めていたんだヒビ割れる
泥水が出ますトイレが使えます
中継で知る御近所の惨状
傷ついていても守ってくれた屋根
両腕に抱くいたわりの花束を

札幌市　三浦　強一

ごゆっくりさせてあげたい両陛下
老後貧困自己責任とにべもなし
光るのはブランドスーツより笑顔
新米を日本人の貌で食べ
会釈された別嬪さんの名が出ない
傘寿まだ生臭さから抜けられず

大阪市　古今堂　蕉子

秋の奈良秋の京都へ句を連れて
厳冬も酷暑もドラマ　待つやがて
山なりのボール投げ合う自然体
七回忌兄と私は同い齢
霜囲い畑にも娘にも春よ来い
元気を過信　ヘルペスに襲われる

尼崎市　藤井　宏造

味しめじ強がり言ってしめじ買う
夕方にはおさまってくる二日酔い
おしゃべりな男は軽くみられがち
動じていない振りもする年の功
死んだこと口止めされる家族葬
反省会だれも反省していない

犬山市　金子　美千代

秋夜長チビリチビリと月と飲む
富士山が見えて得した気分なり
それなりの味が出ている古稀の会
新米を楽しむ麦は入れず炊く
救世主のもやしさまさま野菜高
友人の話すお金の桁違い

震度五と六の違いを見た地震
カメラ好き自分の写真だけがない
火を使う人間だけの凄い知恵
EUを抜けてイギリス月にいる
地下深く掘ればいいのか核のゴミ
一票の価値の差よりも貧富の差

鳥取市　岸本宏章

することが多くて何もせず終える
神在りの出雲に住んでいる誇り
良いことを願い明るい方を向く
忘れてた季節を拾う散歩道
街に出た子等は元気という無口
間の抜けたようなあくびもさせて古稀

出雲市　竹治ちかし

わたくしを変えたら替わるカレンダー
落花生カラカラふたりいて楽し
中途半端な有名人がよく喋る
久しく見ない虹の行方を誰に聞く
逆縁の哀しみがある草書体
人恋のひとつにあったみかんの黄

藤井寺市　鴨谷瑠美子

転がりは好きなようにと多面体
端役でも精一杯という枯木
解熱剤くらいじゃ収まらぬ炎

鳥取市　森山盛桜

右腕に異名の跡は最早無い
墓前では柔和な顔を見せておく
寝姿は涅槃像には程遠い

沖縄県　森山文切

ピクセルで表現されているわたし
真下から洗濯物を見続ける
歯軋りも鼾も聞こえなくなった
スーツケース抱えて泣いている女
無花果が今年も生っているお墓
どの祭りにも必要な警備員

松江市　石橋芳山

屈辱に耐えて私は二枚貝
まだ押さえ切れずに燃えている炎
わたくしの重さに足腰が負ける
破れ傘やってられないことばかり
富山湾栓がゆるんで蜃気楼
これからを考え続けてるレタス

豊中市　水野黒兎

脇役に徹し欠かせぬ紅しょうが
胃袋に謀反でござるバイキング
外来語ピントの合わぬ老めがね
切り出せずコップ持ったり離したり
哀楽を重ねこの世の橋渡る
喜寿にしてなおも思案の四コマ目

カープ女子の涙明日はレジェンドに　和歌山市　木本朱夏

星のない街に大人の忘れもの

夕焼けを見に行くだけの時刻表

不発弾抱えわたしを甘やかす

読んでいる端からこぼれゆく記憶

もう鳥の来ないベランダ毛布干す　倉吉市　牧野芳光

目力が失せた分だけ歳をとる

伸び代は尽きない前期高齢者

喫煙者に発言権は付与されぬ

なんだなんだと茸が頭上げてくる

七転八倒紙の上で跳ねる

釣り糸を垂れて言葉を待っている　大阪市　谷口義

かくれんぼしておりました三ヶ日

ポケットから雲を出してくる男

よろずの神さまはどこにおられます

主人に聞いてみますと言ったことはない

こうもしておれぬと思うことばかり

お正月動物園もお正月　弘前市　髙瀬霜石

加齢臭ガムでゴマ化しきれません

いっぽんの針があとあと効いてくる

とりあえず座るきれいな人の横

身の上話きちんと聞いてから無口

本人が書いたと分かる誤字脱字

先人を尊べばよし無神論　橿原市　居谷真理子

全力で闘えと播く花の種

白すぎる白で怖いもの隠す

正論をつぶやき免罪符としよう

赤んぼのように目覚めた今日は晴れ

わたくしを枝に突き刺す百舌のバカ

老いるとは死ぬとはこうと母は逝く　大阪市　川端一歩

ユーモアを食べたらお腹ふくらんだ

スランプを抜けたら次はトンネルだ

仲直りこんなに旨い酒はない

何となく定位置がある飲み仲間

年の暮れボクの10大ニュース選る

八十の夢はたくあん音立てて　河内長野市　山岡冨美子

電飾が都会の冬を告げている

自助努力だけが恃みの老いをゆく

仕舞い風呂もぬけの殻が浮いている

繕えば飛べる磨けばまだ光る

ちょっと好き唯それだけで暖かい

モノトーン過疎地を奔るからっ風

松山市　宮尾　みのり

アメリカの選挙がひびく台所
リフォームも想定内で家を建て
愚痴言っていい友言ってならぬ友
亡き息子なぞってるよう孫育て
胸キュンにどこかが違うカバー曲
アレンジが過ぎると懐かしさも失せる

和歌山市　土屋　起世子

有り難いひとりで風にまだ乗れる
口数は少ないけれどよく転ぶ
のんびりと暮しあちこち錆びてきた
喧嘩した朝の挨拶ていねいに
毒舌や嫌みにわたし奮い立つ
補聴器をはずして保つ自尊心

鳥取県　細田　裕花

赤信号じっくり考える時間
力にはなれそうもない悩み聞く
結果論賑やか柿の葉が落ちる
バタバタと朝のスープの味知らず
少年時代野山の風は友だった
古切手古い記憶を揺り起こす

寝屋川市　森　茜

滴　滴　滴　悠久への旅始まった
妹と結ぶ箱寿司　亡母を恋う
モラルからはみ出さないでいる自愛
葉は黄なに狐の小判降るような
お笑いにほろりこぼれる人のみち
ゆずり合った座席ぽつんと残される

松山市　栗田　忠士

口数の少ない人の一家言
すぐそこの記憶袋が開かない
振り向くと鬼籍の友が笑ってた
老い二人猫一匹の日が暮れる
横丁が僕の辞書から消えました
平均寿命過ぎて八十路をどう生きる

大阪市　榎本　舞夢

作品が朝日と共に出来上がり
夕茜悲しい思い消してくれ
サプライズ温泉めぐり食めぐり
早早と年賀御節と落ち着かず
あんたあっち　私こっちと出かけてる
大変だ大統領にトランプ氏

三田市　野口　晶子

子が巣立ち系図にのせたタマとポチ
ただいまと私の影がベルを押す
進化論　止まっています古時計
隙間風吹いて満たせぬ欲ばかり
千羽目の飛び出しそうな鶴をおる
願かけた鶴は千羽をすでに越え

札幌市　小沢　淳

衣食住足りて受け身になっていく
輪の中をはみ出しそうな正義感
碁に負けたくやしさ男目覚めさせ
納得の挫折であればそれもよし
マンションの中階ほどに子のあかり

青森県　松山芳生

封書切るその瞬間の愛と憎
昭和史をほじくる歴史家のように
たった一枚の感謝状にもほこり
父の皺むかしばなしの中で咲く
虹色に染める限りあるいのちよ

弘前市　浅田隆樹

電子辞書インクの匂い載せられぬ
ゆったりと過ごしていてもすぐ暮れる
朝起きて顔洗うまで一時間
何買いに来たのかレジに聞いている
柿の実が私はここと熟れていく

弘前市　稲見則彦

ソニー・クラークを聴いて吹雪に耐える夜
おぼつかぬ言葉で問うてくる二歳
それはそれこれはこれだと言えず除夜
鮟鱇の生き様知らずつつく鍋
白無垢の岩木嶺映える雪晴れ間

弘前市　岡本花匠

深呼吸無心に返り初詣で
限度知り心身正す三箇日
新玉の誓いにしみるお神酒酌み
初日の出テレビに拝み乾杯す
友の電話卒寿に構えよう喋る

弘前市　今　愁女

里山が熊の親子の散歩道
木守柿残し悠悠熊去りぬ
朝寝すれば半日減って日が暮れる
二時間半あら草刈って秋仕舞
野菜高もやし玉子に叙勲をば

弘前市　須郷井蛙

クレーン車でお祭小屋が即出来る
三割の負担に風邪もしておれず
肉筆で今年の元気発信す
おかわりをして元気を見せてやり
万葉も今も変わらぬ愛と恋

弘前市　髙橋洋子

氏神に足が向かない神無月
祖母の味レシピにはない目分量
勝って泣き負けても泣いて明日の夢
八十歳まだまだ行ける冬のばら
メディアからヒントを貰う春の彩

晩秋の小川錦繍敷き詰める
運転の仕種で酒を辞退する
何かした訳でないのに日が暮れる
期待する明日のドラマは不透明
極楽へ行く道筋を模索する

弘前市　福士慕情

男気を通し引退自分流
評価されるために生きることもある
季節の変わり目口紅選びから
日本中銀座と甲子園が好き
閉店貼紙に客のありがとう

さいたま市　星野育子

不安定　球体を積み上げてます
覚えてるかと問えば子は遠い目を
せめてこの表面張力を抜けて
死につつという進行形で生きている
包まれるなら永遠に雪降る夜

東京都　川本真理子

店さきのキャベツまぶしい高値かな
百円玉へいつものおつり「もやし」よし
あみ棒のさきはゆっくり老いの秋
暴言ばんばんことばどおりの人なのか
千客万来　首相の握手にむかえられ

東京都　まえでとよこ

ぴん札はしまっておこうお年玉
保護色に染める自分が情けない
元日も平日もない常備薬
突っかい棒はずし自立の芽を伸ばす
道聞くとスマートフォンを見せられる

横浜市　菊地政勝

学歴は無いが大きな知恵袋
地産地消心身共にまだ元気
ほっこりとこころ和んでいる食後
スイーツのようにフォークで薩摩芋
メルヘンの葉書で出したお礼状

富山市　島ひかる

楽しみにしていた飛騨は雨になり
両親の墓も疎遠となって老い
徘徊と思われたくはない散歩
親切か意地悪なのか歩道橋
ニワトリにも羽搏き飛べないくせに

愛知県　早川遡行

病得て残る命の日をめくる
あの世ではお酒の味を覚えたい
立ち話に割り込んでくる金木犀
時流かな軒の日の丸あちこちに
かしましいヒヨドリの声きょう立冬

京都市　清水英旺

京都市　藤井文代

年金生活揺れが吊り橋ほどはある
最後の橋神先導で渡ります
貯蓄無く年金だけで立つ打席
浄土への地図スマホ見たらと閻魔さん
お目がねに叶わぬお陰得た自由

京都市　三宅満子

鼻歌にシャンソンが出る秋日和
落葉掃く箒相手にダンスする
ひと枝を切り落とせない花鋏
サプリメント有名人に効くらしい
白菜が美味しくなるが値が高い

長岡京市　山田葉子

わたし色出るまで脱皮くり返す
今年もまた無事に新米届けられ
錆びついた脳に嬉しい日の記憶
予定終了自己満足の笑みこぼれ
とりあえず脂肪の備蓄しておこう

大阪市　池上清治

鍵探し後で自分のズボンから
神様の名前も知らず伏し拝み
神様がそこに居るよう声をかけ
日々祈る神にも機嫌ありそうな
伊勢神宮歩けば足もしずしずと

大阪市　井丸昌紀

おしゃれ着を着たらきっちり食べこぼす
戻すことできる時計は捨てられた
年毎に掻けない背中広くなり
あせるなとお地蔵さんの丸い顔
足を踏んばり地球支えているつもり

大阪市　宇都満知子

コンサート音色に酔ってリフレイン
ホットミルクまろやかに朝のはじまり
鳴る喋る家電に返事してしまう
長風呂で心ふやけて今日終える
天女か鬼か私の度量試される

大阪市　江島谷勝弘

本年もどうぞよろしく電子辞書
喜ぼうひしひし迫る喜寿傘寿
イエスマンにならぬと決めたヘソ曲がり
ともすれば周りが見えぬ熱心さ
爺ちゃんを跨ぐ二歳児四歳児

大阪市　榎本日の出

歯目耳近所の医者と仲が良い
お出掛けの化粧五分と決めてあり
日本茶を世界の人に飲ませてる
アンテナの高さ余計なことも知り
ちょっぴりと刺激欲しくてするイケズ

閉塞感世界がなんか変ですね
隠し場所変えて家中掘り返す
原発のつけ国民が皆被る
八代目の江戸っ子粋な片ピアス
呼び鈴へ返事より先歯を入れる

大阪市　大川桃花

爺ちゃんと婆ちゃんが居て三代目
お遍路で近江訛に出合いけり
紅葉狩赤い落葉を持ち歩く
言い訳は拠ん所なく申しません
後先を考えないで飛び込んだ

大阪市　大治重信

遊びから社会のルール子は習う
目の前の運を掴めぬ鈍な奴
大樹でも中は空洞軽い音
勤勉な蟻の老後を覗きたい
夏花火終り山にも色が着く

大阪市　奥村五月

謎とけてウツも笑いの種にする
五重塔御縁うれしい仏さま
血管年齢急に上がって老けました
地震予告あっても恐い震度3
昔仮装行列今ハロウィーン

大阪市　笠嶋惠美

デイの友また一人増えはずむ声
思い出が時々胸をうずかせる
負け惜しみ言いつつ今日も過ぎてゆく
真夜中の静けさ亡母を思い出す
手作りの亡夫の湯のみに語りかけ

大阪市　熊代菜月

正直に書けないこともある日記
虚も実も生き抜くための護身術
中の下の暮しに慣れて日向ぼこ
螺子一つ緩めて溜めるエネルギー
性善説信じて生きて来た轍

大阪市　小谷集一

TPP世界の空気よめぬアベ
トランプを引き抜きました病める国
上海はマスク全く要らなんだ
中国流仕方ないとは長寿術
戒名はマイナンバーにでもするか

大阪市　近藤正

ちょっと目をつぶって先が見えだした
好き勝手出来ると何か物足らん
間違って無かったようだ回り道
その内に言わせてもらうつもりです
失敗の中にもあったうまい味

大阪市　坂裕之

大阪市　佐藤忠昭

根菜シッカリ喰えと保健婦さん
年寄りは減塩多酢の根野菜
モーニング町の噂で盛り上がる
趣味違う夫婦に欲しい思いやり
節約し来年四月に備えてる

大阪市　田浦實

女房が一目惚れした阿修羅像
身の丈に合った暮しの心地好さ
苦の種が多くて呆けておれません
ぽっくり寺妻に内緒で参ります
小吉がだんだん好きになってきた

大阪市　津村志華子

初日の出も少し生きて居たくなる
新春の空お静かにオスプレイ
素っ気ない人だメールでおめでとう
転ぶなよ呪文のように唱えてる
オリンピック目標にして生きてゆこ

大阪市　津守なぎさ

足腰の弱りは口がフォローする
毎日の散歩犬とも顔なじみ
スロープがあって嬉しい河童橋
水分を控えツアーも車椅子
お隣が空地になった風当り

大阪市　寺井弘子

宝くじ引き当て友を遠ざける
地ビールが一番里のクラス会
阪神が負けて茶の間が黙り込む
邪魔立てを掃除ロボにも嫌われる
ワンテンポ遅いふたりで波長合う

大阪市　寺本実

ほめ言葉聞こえてるけど耳に手を
タラップのてっぺんあたりで胸を張る
やっとこさ格差社会の中くらい
メニューでは心惹かれる機内食
迷信とわかっていてもクジ結ぶ

大阪市　栃尾奏子

年賀状きりりと配る赤バイク
折り合いに負けて雑煮は白味噌に
爺ちゃんに習う凧揚げこま回し
三が日明け誘惑のカツカレー
おかしいな抱負が部屋の隅にある

大阪市　中井萠

外出をせぬ日の紅が欠伸する
古希まぢか狂い咲きなどうふふふ
逝く順を夫婦で競うあみだクジ
気にもせず食べております飲んでます
欲少し色気少しの心電図

大阪市　原田すみ子

枯れてゆく花を見届けありがとう
仏壇へ小菊白菊日本晴れ
男のプライドには停年が無い
笑い上戸秋のお酒も賑やかで
手が繋げぬ中途半端な年である

大阪市　平賀国和

フルムーン行けるうちにと欧州へ
パリの街人の景色は多国籍
モナリザの前に世界の人がいる
ミケランジェロと並び聳えるダンテの碑
聖堂で平和を祈り灯をともす

大阪市　藤田武人

雑音を払う男の一本気
人間の情すれ違う交差点
母の海出て人間はまだ未完
狼の目覚め五欲を解き放つ
隅っこに相合傘を描いておく

大阪市　藤原千恵子

窓辺の陽もったいないと布団干す
あれこれと考えた末意志通す
都知事殿分かる言葉で話してネ
路上ライブ唯一曲で盛り上がる
スプレー缶穴あけ最後まで使う

大阪市　升成好

人生の隙間を埋めるみすゞの詩
反省をする度酒のいる仲間
秋風に暮しのリズム取り戻す
輪の中の定席にいる安堵感
パレットに女は生涯赤をとく

大阪市　吉内タカ子

出直しの赤飯届く誕生日
断捨離で昭和すっきり心太
デイ仲間零して笑って支え合う
まだ田舎フルイしがらみ曇り空
前向きに庭の千両いろ少し

大阪市　若本安代

団栗をキャキャと拾う子見上げる子
濃淡が活きる若冲水墨画
老犬の傍を離れず秋の蝶
年金でそこそこお洒落旅もして
悩んでも荒んでみても朝は来る

堺市　奥時雄

嬉しさに口惜しさ交ざるタイ記録
記録的大雨だけの所為だろか
老夫婦やりとりずれたまま眠る
より多く殺めた国に裁かれる
頼みごとふたつ返事が気にかかる

焦ってるらしい何時ものギャグ出ない
ゴミ袋ひとつで足りる老い二人
豊洲市場の地下に土より盛り塩を
役者でも芸の肥やしは許されず
言うことがあるらし妻の濃い化粧

堺市　柿花和夫

日本晴れ五楽庵師の句碑除幕
津軽三味が煽る地酒の飲み比べ
じゃんけんの弱い男の野球拳
大器晩成親の年金かじってる
これが俺風呂の鏡はあいそない

堺市　加島由一

被爆国の重みを示すチャンスです
文化祭学園祭と秋多忙
赤い羽根のバッジをつけて善意振る
小銭入れぶっちゃけ払うレジスター
クリスマスおせち料理と気忙しい

堺市　源田八千代

外人のうしろで並ぶ紅葉狩り
草だんごダイエットなどほど遠い
差し向かい喧嘩したって差し向い
百度石平均寿命目差してる
頑固やな言われる前に堪忍な

堺市　齋藤さくら

避けていた日向を探す秋日和
猪の齧った芋を豚汁に
師の恩を歌った式は遠い春
エンジェルのような孫だが羽根が無い
天使のような孫が曽孫を見せに来る

堺市　坂上淳司

ご来光ああ神神が目を覚ます
手作りの妻のお節で祝う屠蘇
年頭に誓う力まない力むまい
染みやしわ痛くないのに気に掛かる
人生にトレードはない明日を向く

堺市　澤井敏治

真心をつくして信頼をつかむ
一命がオートファジーにまた延びる
夢たくす空飛ぶ翼ほしくなり
鈍くなる足だが老いは早くなる
木枯らしに老いの背中がまた丸い

堺市　遠山唯教

英文字だけで何の会社かわからない
核廃絶足踏みなんか許さない
青春の詰まる母校の名が消える
脱げそうなジーンズはギャルだけにして
安全神話じわじわ減って行く日本

堺市　内藤憲彦

免許更新あと三年はＯＫだ
三年後には返上をするつもり
三年のために新車に買い替える
乗り心地やはり新車は気分良い
スーパーと医者しか行かぬ車だが

堺市　村上玄也

脇見せずもう道なりに行く歳
美しい慰めくれる他人様
鍵付きのショーケースです目の保養
肩触れる距離でそのままそのまんま
夜が更けて電話の声の少し濡れ

堺市　矢倉五月

口数が多い本音を測りかね
商売気出した和尚の口に乗る
ノーギャラで妻を畑に連れ出した
緩やかなそんな坂でも嬉しい歳
ルール知らぬ母は野球ファンです

和泉市　横山捷也

歳時記の暮らし歪めてゆく文化
十年ぶりふたつ返事が囲む鍋
漆黒の闇から届く怪メール
騙されはしない辺野古のつむじ風
葬列へ善人面が畏まる

茨木市　島田誠一

改札で薬局を聞く旅の風邪
叱る医者横でナースが微笑する
子供部屋乱雑だけど夢を貼る
海峡はくにを出る訳聞きたがる
下校の児道草春の水溜り

茨木市　藤井正雄

喪の葉書日毎に増えて暮れに入る
沢山の想い出の人天国へ
後一枚いろいろあったカレンダー
栗茸メニューに迷う今年米
薔薇一輪また一輪と咲く安堵

大阪狭山市　矢野梓

ガードマンと親しくなった散歩道
白菜の甘味が秋を深くする
通販で買ったおんなじ服と会う
淡白なしらすで昼の一人膳
単線に乗って行きたい白い雲

貝塚市　石田ひろ子

上げ膳据え膳何もしないが今日も暮れ
静かになって個室へ皆帰る
秋が好き静かに静かに暮れていく
三年手帳頂いたが生きれるかな
老人と思うなよそ見してたらおやつない

河内長野市　植村乭代

河内長野市　大島　ともこ

すっぴんを狙い来る来る不意の客
若いネとデイサービスで声かかる
一杯のワイン美人度アップさせ
モテ期まで人生を巻き戻したい
昨日とは違う私を模索中

河内長野市　梶原　弘光

泰然自若ゴリラのようにしてみたい
これからはスピードよりも持続力
口噤むあとは切り出すタイミング
自尊心よりも大事な今日のメシ
マンネリの暮らしに四季のアクセント

河内長野市　木見谷　孝代

優しさに触れ優しさを取り戻す
じんわりと親の教えが効いてくる
懸命に生きた自信の笑い皺
嫁姑心交わる台所
鈍足のＤＮＡを嘆かれる

河内長野市　黒岩　靖博

妻の手の中で気ままに暮らす日々
煩悩の渦に流されあの世まで
目くばせで阿吽の呼吸老い二人
パーフェクトの人生なんてありますか
キウイの木漏れ日の下猫ひる寝

河内長野市　谷　久美子

一粒の米を大事にした昭和
母は海家族見守る父は空
後継とＴＰＰに泣く棚田
荒れてゆく棚田案山子も淋しかろ
孫七人私を囲む天使達

河内長野市　辻村　ヒロ

腐れ縁びくともしない歴史あり
古希過ぎて我が身に迫る検査票
勝手だがずっと元気と決めていた
音楽祭午後のひとときパリジェンヌ
シャンソンに映えるドレスの友若い

河内長野市　藤塚　克三

まだやれる深呼吸して夢を追う
老いの身も種火絶やさず灯してる
頑張るも明日の風に任せてる
都合よく昔話にしてしまい
女房はきついやさしい日替りや

河内長野市　村上　直樹

あの検査しなけりゃ多分もうあの世
渋も抜け歯も抜けぶらり吊るし柿
朋友の訃に飲みすぎたなと捨て台詞
ポックリの覚悟してるが今日はイヤ
満月のやさしさ妻と新走り

河内長野市　山室光弘

ステンドの窓に讃美歌マリア様
挨拶が大きく出来る子に育て
情熱を捨てぬ心が若づくり
大事には至らぬ浮気数知れず
年金日おでんが誘う縄のれん

岸和田市　岩佐ダン吉

原点は何だったろう僕に問う
ペースなどおまへん道は真っしぐら
言いたいことたくさんあるが空晴れる
小心を見せた言わずもがなのこと
簡単に結論出していいですか

岸和田市　雪本珠子

人生の誤算娘が先に逝く
逝きし娘と共に生きてる八十路坂
胸に住む亡き娘と今日はハルカスへ
仲間にも意見の違うのが一人
愛猫の仕種に今日も和まされ

四条畷市　吉岡修

金ピカより剥げた仏の方が好き
貰うのは以下同文の賞ばかり
実績はタラレバモシで飾られる
マニフェスト幻のまま風化する
生きているアートでしょうねこうの鳥

吹田市　太田昭

ひとり居の気まま演歌を口ずさむ
明日は明日今日の命を惜しまない
昭和史の生き証人も徐徐に逝き
生きるぞと決め血圧計を買いにゆく
晩秋に老春の笛塗り替える

吹田市　木下敏子

ゆっくりと年を取りたい松生けて
コスモスの優しい風に背を押され
花の名を教えて貰う散歩道
公園の朝の紅葉に励まされ
一歩引く事には馴れた右の足

吹田市　須磨活恵

松活けて南天添えて福とする
柏手を打って今年も健やかに
ひと椀のお雑煮仏壇へ供え
ひ孫五人お年玉も用意する
松の内八十路を二つ越えました

吹田市　野下之男

行き先で口調を変える技術です
定年を伸ばしてもらい有難う
生地です台湾の記事気にかかる
ハロウィーンにあれだけ人が平和です
あごひげがぐんと伸びても気にしない

吹田市　山本　希久子

美しい雲善人が群れている
再会へ言葉は宙を舞うばかり
頭に霞手足に錘ついている
和服着てはんなり彩を持つ言葉
老いらくの恋幻想がつきまとう

高石市　浅野　房子

デイサービス弾まぬ会話塗り絵する
御先祖様に頼めば雨も晴れとなる
あの世から母は見ていてくれるだろ
酒の味知らぬ不幸な私です
アメリカはやっぱり広い選挙戦

高槻市　井上　照子

多事多忙御身大事に小池知事
おどろいたおせちの注文九月末
私でも美顔水だけ顔にぬる
いつの間に忘れられたか赤い羽根
理不尽に堪えているから顔いがむ

高槻市　指宿　千枝子

てくてくといつまで続く好奇心
川柳のとりこになってまだ未熟
外出のマークで埋まるカレンダー
秋晴に春日神社へ行くリュック
只今と独りの城のドアを押す

高槻市　片山　かずお

差引きゼロなら生きた分だけ丸もうけ
撒き餌は笑顔みごと幸せ釣り上げる
任せると口もお金も引っ込める
中身より形に自信ある頭
やはりセンスだなと柳誌に教えられ

高槻市　島田　千鶴子

天気予報鵜呑みに出来ぬ秋の空
姿見が今日の私を映しだす
実家まで手足伸ばしに行って来る
日だまりに猫の親子と乳母車
実りの秋災害続き物価高

高槻市　初代　正彦

アイマスクちょっと午睡の小宇宙
トランプさんのようにでっかい熟柿
生真面目なお方の忘れ物まさか
アメリカの恥部も曝した選挙戦
天災も人災も嫌繭の中

高槻市　杉本　義昭

孫四人茂る枝葉は希望です
血管の太さはいつも褒められる
曲がってる腰だが物が拾えない
人間を揺すると嘘がこぼれ出る
貧富の差大統領をすり替える

痛いとこ突かれ返事も上の空
日なたぼこすればかすかな草いきれ
言い訳に困り真面目な顔をする
思いっきり走れば見えてくる明日
どこでどうねじれたのだろこの話

高槻市　左右田　泰雄

ご長寿をお祈りされて年が明け
少しずつ端に押されて生きている
平凡な健康寿命わたしにも
病院の全科巡って生き残る
のんびりと生かされ老いの愚痴不満

高槻市　富田美義

たくましく生きて鎖骨が浮いている
たこ焼の好きな家族にある笑顔
少子化が日本の柱細くする
深々と頭を下げる白髪だ
子育てを終えて昭和は遠くなる

高槻市　富田保子

言い切った後でふらふらする背骨
あいまいに終わった秋を掃き寄せる
引き際がまずい靴ひもほどけない
星屑を入浴剤に露天風呂
桜餅葉を食うべきかハムレット

高槻市　原洋志

敬老の日いつに間にやら済んでいた
ユルキャラのワースト逆に知名上げ
古里の銀座通りに閑古鳥
まだ若い酒のピッチは落ちてない
私の音痴湯船は知っている

高槻市　松岡篤

幾つものトンネル越えて東北路
越後路に架かる虹見て明日思う
晩秋の八郎潟で見る夕日
夕日見てメロスの気持よく分かる
紅葉に挟まれ走るハイウエイ

高槻市　安田忠子

ふる里が本に載ってる誇らしさ
お似合いです老眼鏡をほめられる
節くれた指を労り亡母思う
ママとカフェちょっと気取った女の子
青春のページめくればボブディラン

豊中市　池田純子

まずまずと言えばまあるく収まる世
聞こえないふりで避けてるカタカナ語
若冲の絵にポケモンも目を伏せる
輪ができる人の痛みが分かる人
巻き舌のお世辞に伏して畏まる

豊中市　藤井則彦

豊中市　松尾　美智代

振り返ればいろいろあった長い道
やっさもっさ区切りをつける旅の空
少し風邪引いて記念の旅終わる
清清しい青空神のプレゼント
久し振りのテニス夫婦で汗流す

豊中市　松村　里江

自画自賛デコボコ坂を越え卒寿
老いてまだライバルと呼ぶ友がいる
デパ地下でお一人様のお献立
道連れが出来てやすやす歩数計
転びぐせ情けの杖に立ち直る

富田林市　片岡　智恵子

病気博士が診療順を待っている
平均寿命ならばここらで終わりそう
右脳左脳てんてこ舞いのトレーニング
元気出るようにみんなでどっこいしょ
ベッドに入りやっと人の名思い出す

富田林市　関　よしみ

あらたまの闇に真っ直ぐ火を起こす
箱入りで育つ尾長の自尊心
書き初めの命の文字がジャンプする
離れ住む子を客として母は愛
一日を出で湯で遊ぶ冬銀河

富田林市　中井　アキ

里便り秋の匂を連れて来る
遊びましょ喋れる脳のあるうちに
野菜高騰青汁のコマーシャル
小綺麗な嘘を並べて生きのびる
良い頃もあったとコーヒー飲んでいる

富田林市　中崎　深雪

身心の痛み命の音がする
難病とつき合うコツは笑顔だと
楽しいと病苦もしばしひと休み
菊日和お出かけしたい車椅子
散りぎわの苦しみあったはずだろう

富田林市　中村　惠

心無い言葉に微笑みを返す
殿になって目標見失う
煮え切らぬ男も一度火に焙る
大雑把な人に任せたのは不覚
残酷な神の仕掛ける罠もある

富田林市　肥山　一文

夕飯を食べたあとからすぐ薬
やっかいな家事に追われて今日も暮れ
バッチリと目と目でわかるペアルック
ブレーキを踏んで迎える高齢期
夜明け前ウォーキングで出会う人

富田林市　山野寿之

芸の道終着駅のない線路
ノーベル賞世界に誇る日本人
たてがみは奉納秋の奈良の鹿
楽しくて寂しい酒は妻の留守
フルムーンまで歳月のペアルック

寝屋川市　伊達郁夫

笛太鼓みんなうれしい阿呆になる
ピエロ役代わりにやって止められぬ
勘定になると居眠る癖がある
コスモスに惚れた男の旅かばん
雲ひとつないので帽子脱いでます

寝屋川市　籠島恵子

ちぎれ雲あれはわたくしだと思う
賢くはなれず娘を叱れない
そうかそうかとわかっていなくても言おう
角とれた人になってた久しぶり
孫恋の形家来になっている

寝屋川市　冨山ルイ子

しじみ蝶まだ大根にたまご生む
野菜の高値値を見て何も買わず
年金がどんどん下がりむつかしい
草引きにお腹が邪魔になり困る
アメリカにキズあと残る選挙戦

羽曳野市　安芸田泰子

頂から染められて行く秋の画布
責任を果たせなかったダルマの目
握手した人には書かぬ投票紙
五七五が枯れた脳への活性剤
何を買うつもりはないが暮れの街

羽曳野市　宇都宮ちづる

八百段膝を励まし会う仏
足腰に自信がついた満願日
秋なすに柚子みそ添えて娘に送る
子は巣立ち野菜嫌いの夫と居る
不自然なビルの谷間の花の群れ

羽曳野市　徳山みつこ

憲法を讃えてきょうの青い空
戦知る祖父母派兵は許さない
そぞろ寒病友へハガキをしたためる
アルバムの父メッチャカワイと孫娘
一強の鼻折れる日も遠からず

羽曳野市　中川ひろ介

トランプ氏大統領に神の留守
人生の最後にジョーカー引いた気分
蝗虫とぶ不安な未来その先へ
盛り上がる嘘クリスマス偽サンタ
青が赤にオセロゲームか米選挙

羽曳野市　永田章司

職人はお疲れ機械休まない
記録には残るが覚えありません
グローバル女性トップが花盛り
減塩の工夫にこもる老妻の愛
赤い羽根去年の羽がとってある

羽曳野市　藤原大子

朝一番元気ですよと窓を開け
物忘れ代わりについた知恵もあり
大敵は弱気になっている心
趣味持てる今の平和を感謝する
つるべ落としふっとふるさと思い出す

羽曳野市　三好専平

閑なので大人の塗り絵に凝ってます
秋の蝶わがさびしさの極まるか
軽々と落ち葉の上に舞う揚羽
妖怪が主役になった政治劇
レーニンもサルトルもよく知ってます

羽曳野市　吉村久仁雄

デモ終えて暮らしの米を買いに行く
コンビニの小さな四季を妻と食う
敵はまだ丼メシを食っている
過去くやみ未来うれえて雨やまず
成り行きで生きてストレス寄せつけず

東大阪市　北村賢子

再会を喜び合える輪がぬくい
それぞれのドラマを生きて今会す
センターより引き立て役が性に合う
この身体巡る血潮はまだ真っ赤
苦しまず逝ったのねおだやかな顔

東大阪市　佐々木満作

真打ちの高座至極の落ちで締め
振り向けばよくぞ登った五百段
此岸から彼岸へ渡る虹の橋
山彦が拭ってくれた気の迷い
休日はカメラを肩に秋拾う

枚方市　海老池洋

ブラックをすする深夜の原稿紙
魂の芯まで冷える冬銀河
身長も望みも低くなる老後
体力の限り頑張る木守柿
長旅もついに枯野に出てしまい

枚方市　小林わこ

磨けみがけ母の特技をつかむまで
大声を出さないで鬼が寝たところ
遠慮している訳ではないが苦手です
指ぎつねコンとなかない訳がある
涙の粒ダイヤモンドになってほし

枚方市　丹後屋　肇

傘寿越え色気したたる藤十郎
エスタブリシュメントメディアは何を見ていたの
お笑い芸人渋い役者へ脱皮する
結果なのかプロセスなのか問い詰める
ポケットの石塊優しく手に馴染む

枚方市　寺川弘一

耳ふさぎ感性で聞く天の声
一日二食家計簿のダイエット
カルテには真実だけが書いてある
やまびこの自分の声に惚れ直す
幸せの形を見せる万華鏡

枚方市　二宮山久

平凡に生きて個性のない男
澄みきった空にテニスの靴踊る
波風のたたぬうちにと話題変え
今日生きる力青空からもらう
コスモスが揺れてかろやかツーリング

枚方市　二宮紫鳳

トラブルも笑顔で裁く太っ腹
エプロンの似合う女で人気者
バスツアー女ばかりが盛り上がる
木犀の香り静かに自己主張
愛犬が仲を取り持つ嫁姑

藤井寺市　伊藤アヤ子

あの人のヘアースタイル真似ている
屋根裏に私の宝物詰まってる
自信など無いけど今を生きるだけ
一匹のはぐれこおろぎそっと見る
病院の梯子するのが日課です

藤井寺市　太田扶美代

白い菊四十九日を無事通過
立ち直れそう白いページが少しある
生々しい手紙を妹に送る
ポシェットの中身は長生きのグッズ
夢のまた夢でも祈りつづけよう

藤井寺市　鈴木いさお

私を試すのですか季節風
笑い話にしてしまいたいあの日
脚色は苦手ありのままに生きる
肩で泣く女背中で泣く男
団欒のあとの淋しき虫の声

藤井寺市　髙田美代子

成る様にならねば正月が来ない
出来ごころキミは許してあげますか
呑みこんだ本音に噎せているのです
新年会胃をよろこばす酒を注ぐ
カンバスに今年の色が決まらない

藤井寺市　田付絹枝

しんじ湖に沈む夕日が魂奪う
城の堀ゆるり巡りて憂さ流す
美人の湯小びんに詰めて良い土産
メモ・パンフ膨れ上がった日記帳
実演はテレビで見えぬ多面知る

藤井寺市　増井ヨシ枝

ベッピンやなあ手しおにかけた花愛でる
ワイワイと遊ぶ子等いるいい町だ
冗談に少し本気も混ぜて恋
地球をまたぎお向かいさんにお目出とう
氏神へポチと一緒に初詣で

藤井寺市　吉田喜代子

各地柳壇途絶えた人の名を見つけ
ハロウィーン又一つ増えカタカナ語
百均の種は負けじと発芽する
野菜高鍋が出来ない料理下手
年賀ハガキ三十枚に決めている

藤井寺市　若松雅枝

菊の香に包まれ学ぶ古語古文
包丁研ぎ亡夫が得意の家事だった
顔の皺仏間の亡夫に恥ずかしい
コンビニのお節で腕の見せ場なく
物置に祖父のランプが吊ってある

松原市　森松まつお

体調はまずまず今日は飲むとする
食欲がないわと妻が驚かす
八ツ当りすれば妻から倍返し
沈黙は金教えたい人もいる
吸う場所を減らしてタバコまだ売るか

箕面市　大浦初音

後はない崖っぷちこそ力出る
反抗期子供の口は貝になる
しがらみを断ってすっきり一人立ち
かくしてた角もつき出し五十年
口はひとつ聞いた半分しゃべりゃよい

箕面市　出口セツ子

足るを知り豊かに生きている老後
人間の証弱さも愛おしい
喜怒哀楽透明になり老いてくる
減塩に慣れて過敏な舌になる
反論はせず騙されておく平和

箕面市　広島巴子

青空の誘惑に負けウォーキング
野菜高植木鉢にもレタス植え
野菜高献立に脳活性化
お茶の間で世界のうねり見極める
こたつ出しやはりお尻に根がはえる

若冲の鶏を抱えて待つ日の出
ポジティブになれよと痛い足が言う
球根を埋める見事な花念じ
少子高齢ぼくには何もできぬけど
無理かなと思うときから負けていた

八尾市　内海幸生

愛に囲まれ車椅子初詣で
カーテンと戯れるショートステイ新年
住み慣れた家さえ少し他人めき
賀状欠礼貴方もですか卒寿越え
施設転々無気力になっていく怖さ

八尾市　高杉千歩

台風が逸れて小躍りする稲穂
九条がじわじわずれて行きそうな
立ち位置を変えると広くなる視界
過去のツケ束ねて裁かれるカルテ
テロップに早く読めよと急かされる

八尾市　寺川はじむ

マネキンに負けない気持正月着
孫成人年玉袋用意せぬ
センターに頼み窓ガラスの掃除
枯葉舞う向かいの前も掃く余裕
好きな人逝く　人名簿から消せぬ

八尾市　宮﨑シマ子

トランプ旋風なげいても嘆いても
トランプショックにつけるくすりきっとある
わが国の柔軟性を信じよう
本音には本音で立ち向かえばいい
いつまでも続いてほしいのが平和

八尾市　村上ミツ子

気温差に脱いだり着たり秋の雨
水墨の鶏が羽ばたく若冲画
ポン菓子機耳を塞いで遠まきに
他人ごとの歩測が急に遅遅となり
板付の蒲鉾並ぶ暮れ近く

八尾市　山根妙子

菜虫潰す夜叉の心になっている
掃き跡へ又も落葉の嵩となる
大輪に老いの執念菊花賞
列離れ両手に受ける渓清水
新米の試食の列に並びおり

大阪府　桑田ゆきの

急斜面すべり下りてる老いそぞろ
だんだんと遠くなりゆく住所録
四年後を目指す気持は選手並
日時計に寝起き合わせる感受性
石頭冗談素通りしています

大阪府　野田栄呼

大阪府　米澤俶子

昨日より優しさプラスして明日
美しく老いるのに要る心がけ
ハローウィンの雑踏にDJポリス
つるべ落としに人恋しさが募る
自己流に生きても悔いは残さない

神戸市　上田和宏

秋の膳紅葉が浮かぶすまし汁
青空をむしゃむしゃ食べて胸洗う
アキレス腱感じてうれし今日の足
イエスノーなぜか国論二分する
歩く生きるいつか極楽着くように

神戸市　奥澤洋次郎

五十代のかつら被ってゆく八十路
淋しさの向こうに何がある別れ
地蔵さんどんぐり二つ供えられ
罰あたり土に還らぬ物つくり
ひとに気を遣い居場所を見失う

神戸市　能勢利子

男女共さん付けで呼び性差無し
煎餅に頭をペコリ下げる鹿
ヘルペスがシドニー駄目と駄駄捏ねる
昨日のことほとんど忘れいい目覚め
負けた数だけ強くなる力こぶ

神戸市　松井文香

初詣で初孫はたち晴れ衣裳
お賽銭はりこみ祈る孫受験
孫とするトランプもまた下剋上
我が庭でとれたミカンが酸っぱくて
杖もとれ三社詣でのありがたさ

神戸市　山口光久

感情の振幅小さくなる加齢
年齢を積んでも何ら変わらない
マジシャンに騙され気分和らいだ
私が走ると月も走りだす
きょろきょろとする癖未だ直らない

神戸市　山口美穂

爺婆の方が待ってた七五三
姉妹とまごう親子の睦まじさ
夢が夢で終わりそうです八十路坂
生きてますの挨拶になる年賀状
酢橘しぼれば秋刀魚一段格を上げ

神戸市　山﨑武彦

負けること知らぬ男の孤独感
青柿は熟れたでしょうかいわし雲
少年の拳は明日の戸を叩く
何もかも脱いで自分を取り戻す
臥す母に一匙掬うしじみ汁

明石市　糀谷和郎

淋しさと同居してます秋の底
棺閉じるまでは分らぬ人の価値
雨垂れが途切れて刻を見失う
朝鏡昨日の顔が欠伸する
風邪飛んでゆけよと母はりんご擦る

芦屋市　黒田能子

思いやり傷の深さで知りました
宇宙規模で考えてます平和論
幸せになれそうなので開ける窓
健康が取り柄であったのに私
震度七　五センチ逸れた運のよさ

芦屋市　竹山千賀子

生きているつもりで明日の予約する
生水を飲める国に居て幸せ
つぶやきが波紋となっていく恐さ
鬱の字を書けと言われてうつになる
野辺に咲くＤＮＡです負けません

尼崎市　市坪武臣

深追いをしすぎて悟る無駄なこと
追うことをやめるとただの高齢者
じゃんけんで選び抜かれた自治会長
飛行機に乗るにも僕は日を選ぶ
ぽっくりに誤算があった余命表

尼崎市　加川靖鬼

若冲の微細な羽根を追うメガネ
人間の仮面を脱いで温泉に溶ける
言い足らぬとこ奥さんが念を押す
バンジージャンプ覚悟決めないまま落ちる
前ばかり見て白バイに気づかない

尼崎市　藤岡りこ

いつの間にかおもちゃいらなくなった孫
今私地球の歴史生きている
後悔の過去は捨て去り前を向く
ワンコインポケットに入れ散歩する
母さんは留守です昼寝中だから

尼崎市　山田耕治

表彰もメダルも要らぬ自己ベスト
クラス会生きておれよと言う握手
遠い日はみんな枕の中にある
終活の途中に不意は困ります
裏方で閉会の辞を聞いている

加西市　金川宣子

毎日の結構惑うあれとそれ
舌肥えた食道楽に連れ込まれ
五里霧中生きた夫婦の茨道
仕切る人二人もいればややこしい
ゴキブリは夜のキッチン仕切ってる

川西市　大坪一徳

凸凹の夫婦でやがて五十年
一日一善妻から笑い取っている
温暖化季語の見直し迫られる
ふり銭をぴん札で出すおもてなし
仏壇がお菓子置場になっている

川西市　山口不動

明日は雨葉書出すのは延ばします
勧めたる本を読んだという便り
クラス会幹事続けて趣味となり
辛口のあいつ呆けたか俺誉める
眠られぬ夜は諦め眠らない

篠山市　北澤稠民

履きぐせが悪うて靴が怒っている
百姓のイメージうすき稲を刈る
打ち明けた話の後で敵と知る
便利だがカード社会で余分買い
神さまに私の残り問うてみる

篠山市　酒井健二

善人がおどけて渡る沈下橋
健康のオタクやっぱり馬鹿にされ
独り言言って回路を整理する
シェイカーで清濁混ぜて二日酔い
真っ直ぐなキュウリお前は裏切りぞ

篠山市　酒井真由

いとしい人よため息ばかりつくでない
ぴったりと寄り添うつまずきそうだから
調節がきかぬこころの空模様
土足厳禁ただ今立ち入り禁止中
水平思考やっと私らしくなる

三田市　足立つな子

出来秋の人も弾ける味まつり
無理しない老いの体調立て直す
月仰ぐロマンチックな時もなし
留守居役朝飯前とパン焼ける
不器用な貴方任せにこの始末

三田市　石原歳子

化石みて歴史が好きになりました
朝一番遺影を抱いて拭き終わり
キャッチボールで遊ぶ子供の声もなし
子等はみな塾へは行っているらしい
うれしいな鳩ベランダへ来なくなり

三田市　上垣キヨミ

年金の暮しにも来るお正月
エコ暮し朝の体操ウォーキング
亡夫の歳並ぶ息子の思慕を聴く
心地良い秋が少ないまま冬日
孫の顔見たくて包むお年玉

三田市　上田　ひとみ

トレンチの襟立てつらい恋終わる
恋心煮込む私の深い秋
さよならの後にこんなに暗い穴
迷うのは許してあげることにする
こんなにも愛しいひとがいるのです

三田市　尾﨑　一子

里紅葉弥陀の山寺人を恋う
紅葉坂まっすぐ生きる今がはな
里の松茸亡夫の好きな土びん蒸し
天使の羽化恥じらう娘愛らしく
嵐にも負けぬ絆に千の慈悲

三田市　北野　哲男

寄せ鍋に窓早々に結露する
地下鉄の駅で拾ったいちょうの葉
豪華船満艦飾の似合う夜
診察券ポイントカード伴侶とす
欠礼か賀状か病める親を看る

三田市　久保田　千代

流れゆく時間ひとりの喫茶店
老いていく淋しき頭脳固くなる
疑いを探るカメラが降りてくる
ありあまる愛が自立を遅らせる
真っ直ぐに歩けば笑う影法師

三田市　多田　雅尚

芸術の秋より好きな味めぐり
タコ焼は中味を隠し丸く焼く
鹿苑寺別名聞けば直ぐ分かり
マンションの名前探ればフランス語
道頓堀行き交う人は異邦人

三田市　福田　好文

家族葬知った時には雲の上
学校で仮眠をとって塾へ行く
年齢が邪魔な二度目の職探し
怒鳴りあいしているような遠い耳
痺れてもじっと我慢の貸した腕

三田市　堀　正和

同行は駅弁ビールぶらり旅
座布団と花も一輪無人駅
スマホ見る時の男はスキだらけ
晴雨には関係なしにする昼寝
とりあえず一日置いて考える

高砂市　松尾　柳右子

転居して大阪の地のなつかしさ
二人居に対話少なし老い仰ぐ
楽しみは娘がたまに来て和める日
田舎にてデイサービスでカラオケを
空気良い高砂市での庭眺め

宝塚市　田中章子

サッチモにひと日の疲れ癒やされる
酒もよい芯からぬくくなってくる
マスコミが負けてトランプ勝利する
自問自答コスモス好きのわたしです
コスモスに誘われちぬの海渡る

西宮市　秋元てる

有識者集め丸投げ一丁上がり
祈るよな胎児に見える母子絆
舌足らず競うた幼友が英語塾
探し物丸で漫画の老母の日々
その時はその時何の異議も無い

西宮市　緒方美津子

ピンピンの札がものいう年始め
偏差値はクリア合格はナニヌネノ
折り鶴は飛び立つ夫は退院
煩わしい事あったよねえ紅葉
乏しさを教訓にとは言わぬ母

西宮市　亀岡哲子

ハーモニカに和する妻あり校歌吹く
父還る靴を夢見たことがある
父知らぬ妹も後期高齢者
ハックションが出るのに好きな唐辛子
老い学ぶ若い講師の目で学ぶ

西宮市　西口いわゑ

集まれば孫も曾孫もいとおしい
大波小波しかと昭和を生きて来た
叱られたあれが始まりだった恋
賑やかに失敗談に花が咲く
三角四角それぞれ味のある話

西宮市　福島弘子

ポケモンGO何がいいのか私には
古民家がうなぎの味を更に上げ
受け継いだ漆器のうどん合点す
大河ドラマ日本史やっと好きになり
紙しばいを待ってた空地懐かしい

西脇市　七反田順子

ふるさとになれそめの人健在に
趣味多用健在ぶりを誉め上げる
積み上げた土台しっかり子に託す
恋文を書いてみたいな一筆箋
青春で老いたつもりはないけれど

姫路市　古川奮水

雨頻り柿が不作になりました
決断の鈍さ監督叱咤する
入れ歯でもかたい煎餅好きになり
FMをソファでぐっすり昼寝中
国なまり聞ける車窓はみどり色

南あわじ市　萩原　狸月

古民家に灯りがついたIターン
惚けられぬ妻に苦労をかけるから
子が巣立ちしゃべるロボットだけが友
若い子の笑う漫才笑えない
外来語略語に造語ややこしい

奈良市　阿部　紀子

前の酉年話した恩師逝去され
平尾さん残念無念若すぎる
ボブディランノーベル賞はお洒落です
痛いのを我慢するのは美徳かな
爺と孫盃を重ねてご満悦

奈良市　大久保　眞澄

両側から鉢植え迫る路地を行く
命日に手間も供える栗ごはん
角のない牡鹿と生えてきた牝鹿
落石注意五輪への道遠くなる
日本では売れぬ原発輸出する

奈良市　加門　萌子

初春に造替なった春日社へ
鮮やかな本朱を愛でにおいでませ
老いたんだ「ゴジラ」も「君の名は」も観ない
惜しまない援助総理は太っ腹
読み洩らした名作忘れ物したように

奈良市　辻内　げんえい

喜寿こえて減塩よりも好きな味
定期健診背丈小さくなっただけ
自民さえ小池人気に尻尾ふる
OB会紅葉観るより回顧談
桑の実を食べる子はなく熊がくる

奈良市　山本　昌代

3歳に怪獣役をせがまれる
夕食後孫と張り合う詰将棋
虫の音も黙ってしまう賑やかさ
玄関を占領している若い靴
ばあちゃんの解放時間回れ右

奈良市　米田　恭昌

古文書に写経の苦労垣間見る（正倉院展　3句）
メタボにも気遣う楽舞用ベルト
正倉院展竽（う）と笙（しょう）の音をひそと聞く
傾いても老舗どっこい倒れない
性善説ひとまだ捨てたものでない

生駒市　飛永　ふりこ

酉年もやはり健やか拝みます
磨かなきゃどんどん錆が押し寄せる
父母の生き方とても越えられぬ
男気に思わず握手同窓会
ベッドから落ちる想定外もある

香芝市　大内朝子

咲けるうちさいておこうよやがて黄泉
アメリカの核の傘下にいて非核
明晰な頭脳の欲しい貯金箱
火種まだ恋に焦がれた日を思う
運命の川に逆らうのはやめた

香芝市　山下純子

サプリメント無視をしつつもあせる膝
夫には優しい言葉つい忘れ
文句たれだけど責任よく果たす
子ら巣立ち手抜きになった二人膳
主婦業を夫に任せ女子会へ

桜井市　安土理恵

濡れ落葉にならないうちに掃いておく
追いかける箒はすぐにくたびれる
あねさんかぶりおしゃれは遠くなりました
気を抜くと手抜きすっぴんへっちゃらに
暮らしてみれば田舎も捨てたものじゃない

奈良県　安福和夫

地球語で平和夢見たザメンホフ
国民性シャイの言い訳通らない
島国だからこそ心広げたい
五輪こそ世界平和の手掛かりに
バベルの塔神様今は許すかも

奈良県　谷川憲

通天閣還暦迎えちょっと伸び
不意を衝き大病の弾飛んでくる
通勤のダイヤ乱した遠い事故
USJ電車外国かと思う
ミスが増え返すか悩む免許証

奈良県　渡辺富子

うのみした言葉ちくちく胸を突く
恋語る父のまなざし遠くなる
百態の雲と語らう夢その他
ささくれた歳月癒やす露天風呂
胸の内すっきり吐いて凪ぐふたり

和歌山市　磯部義雄

乱高下大統領が見栄を切る
墓地が出来価値が下がるという勝手
年金で丸く納めている我が家
道草をくっても母は叱らない
腕組みをして見つめてる逆上がり

和歌山市　上田紀子

水平線の丸さ世界が手を繋ぐ
冷静に先を読んでは出遅れる
問題を解く鍵眠る小引き出し
夕日落ち一人芝居がまだ続く
落伍者になりたくなくて五七五

和歌山市　喜田准一

ひと言が余計ひと言不足する
給食の楽しさ奪う野菜高
汚されたカネならウヤムヤに出来ぬ
日韓が汚れたカネで揺れている
これからも年金不安続くのか

和歌山市　楠見章子

イタタタタ膝の神経まだ元気
隠し事すると体が重くなる
靴音が軽い幸せそうな人
言葉より優しい顔にいやされる
式服を脱いで気楽な風となり

和歌山市　坂部紀久子

手で割ったいちじく秋が笑い出す
掃いても掃いても金木犀の星が降る
是か否かの二つ以外にある答
老いた亡母と同じになってきた動作
いつの間にスキップ出来なくなってきた

和歌山市　武本碧

ゼロからの出発何も怖くない
反省も過ぎれば前へ進めない
ときめきが欲しくて素振りするバット
まだお会い出来ないライバルの素顔
エンディングノートひと言ありがとう

和歌山市　玉置当代

これ位は跳べると思う水溜まり
ノーベル賞湯水の如く知恵が湧く
椎の実が落ちて公園児らの声
秋日和歩幅合わせるスニーカー
秋風がパズル一片吹きとばす

和歌山市　福井菜摘

まろやかな器になってゆく老後
一歩引く勇気に明日の灯が丸い
暖かいニュース笑顔が連鎖する
残照へ敵味方なく手を繋ぐ
さわやかにペンを走らす初日記

和歌山市　古久保和子

片思い空気感染したらしい
物思い秋に別れた人のこと
ブラームスではもう眠れない齢
くるみほどがんこでないと思いつつ
特別な用もないのに落葉踏む

和歌山市　堀冨美子

生き甲斐があるから老いを光らせる
プライドと五体年年噛み合わぬ
爆買いに驚いている年金者
人様も私も和む灰汁を抜く
ベランダで声掛け合うた布団干し

和歌山市　松原寿子

夢を追いドラマの中にいる私
愚痴吐きに来たのに海は知らん貌
胸深く約束ひとつ畳み込む
鉛筆を尖らせただけ深い秋
潤いの心もらった日の絆

岩出市　藤原ほのか

振り返ることも許さぬ橋になる
掛橋になると世界がまるくなる
打席では自分らしさを発揮する
この橋を渡ればきっとドアが開く
脱ぎ捨てて今の私を光らせる

海南市　小谷小雪

お祭りの幟わたしを逸らせる
面白い話を畳み引出しに
裸眼では数字に拒否をしてしまう
日が落ちて先ず一病を手懐ける
純綿のにおいタオルのおろしたて

海南市　堂上泰女

優しさをいっぱい拾う散歩道
私似の孫と会話が弾み出す
弟が釣った魚を分けにくる
霜月にまだ堪えているノコンギク
晩秋の風が決心せよと言う

紀の川市　宇野幹子

落とし蓋夫婦の味をなじませる
晩学の辞書は眩しいものを追う
喜寿の坂想定外のことばかり
好奇心弾ませてゆく枯野原
肩の荷をおろした絵馬が眠くなる

紀の川市　北山絹子

何事につけても嫁の底力
何かあるらし父は無口で箸を置く
苦労性だった姑が目に浮かぶ
指切りを信じて今も暮らしてる
ほがらかな人へ傾くやじろべえ

紀の川市　楠原富香

四季の色教えてくれる風の芸
家中をピカピカにして義母まねく
愛想笑いだろうが僕の胸はずむ
甘言に乗ったＡＴＭの前
リハビリの汗が約束する明日

紀の川市　辻内次根

すすきがゆれていたみんな老いていた
支えきれないくらいに柿が熟れていた
長寿国海を眺めている漁師
後ろから撮るとはるかに老けている
折り鶴を妻が忘れて逝った部屋

肩の荷を降ろし再び弾み出す
飛躍した論理だけれど捨てがたい
仕事の手休めてヨハンシュトラウス
眠れない街にモーツァルトのアリア
絹に麻ナイロンもある赤い糸

紀の川市　山東日出男

究極の旅は宇宙と決めている
旅馴れた人だすいすい乗車口
田舎宿おかみ相手に夜もすがら
四国巡り予定キャンセル遍路旅
同行が二人になった遍路笠

田辺市　岡本昇

滅反に食糧危機の稲雀
取返しつかぬことあり生返事
女性の歳ピタリ当てるのはタブー
何もかも任せばきっとやりとげる
遠泳の得意な金魚鬱溜める

橋本市　石田隆彦

ジョギングの後の御飯は格別に
自作自演留守ごとの飯口に合う
お世辞だが褒めるのうまい人がいる
不器用を売り物に日曜大工
褒めるのはアラ探しより難しく

鳥取市　池澤大鯰

補聴器は悪い噂を良く拾い
聞き耳を時に立てたい嫁の愚痴
出来ちゃった婚で良い孫抱けるなら
うろうろと妻が家出のカップ麺
顔見知りだけなの妬かれても困る

鳥取市　加藤茶人

脳トレで始めたパズルのめり込み
故障かと思えば電池切れだった
ダルマ糸だけで事足る暮らし向き
田舎者と自動改札知っている
あさイチが教えてくれる知恵袋

鳥取市　岸本孝子

ジョーカーをいっぱい持っている不安
触覚をのばし女の噂ずき
母の秘話そっとささやく赤トンボ
この頃は尻尾も動かなくなった
現実は甘くはないとカラス鳴く

鳥取市　倉益一瑤

風鈴が孤独なわたしだと見抜く
極楽へ行きたい遍路笠の鈴
復興へ人も資金も届かない
美意識の違いだろうかピカソの絵
祭り太鼓で仮設の鬱を追い払う

鳥取市　坂本とも湖

鳥取市　棚田　大

白紙撤回そう言う奴の芯見えぬ
マイナンバー覚えたはずが出てこない
実りの秋こだわり過ぎてつかれはて
朝ドラに青春時代浮かべてる
天災もたるむ心に喝入れる

鳥取市　谷口　回春子

針の孔通らぬ糸に我忘れ
聞き飽きた愚痴と不満の二重奏
嫌になる決まり文句の上手口
美味いものよく知る孫が独り占め
食べたいが孫の顔見りゃ手が出せぬ

鳥取市　永原　昌鼓

時巡り留守の庭にも柿みのる
老いひとり自由と孤独かみしめる
並ぶのが大好きらしい日本人
二拍子のリズムへ乗れぬ老いの足
逆縁へリズム狂った人生譜

鳥取市　中村　金祥

里自慢カープは時にやってみせ
簡単に王者は負けた訳じゃない
大勝負敵の鼻先から燥ぐ
やり切った大満足のゴールイン
飲み会がある日は皆がよく喋り

鳥取市　夏目　一粋

時計ない昔シッカリ生きていた
鉢巻が帽子に変わりああ平和
運動会爺さん借りてビリだった
ケイタイを止めて平和な日が続く
コオロギがふと鳴き止んで亡母来たる

鳥取市　西川　和子

衰えを言い分けにして仲間入り
言い分けをしてからやっと動き出す
言い分けを探すもう一人の私
八十路行くまだ自尊心捨て切れぬ
強行軍老いの足では間に合わぬ

鳥取市　平尾　菜美

御免なさい勢い余り跨いだの
さびつかぬうちに拾って匙である
少年の切れ目どうしたもんじゃろか
門の前立てば砦の風が吹く
介護綱子等と紡いで太くなる

鳥取市　福西　茶子

動脈は真面目で静脈は遊び
日本海埋めても飛んでくるノドン
鼻の下伸ばして飲めぬ酒を呑む
貯えが無くて詐欺など怖くない
人を恋う種火百まで絶やさない

鳥取市　山下凱柳

読書の秋積ん読だけで終りそう
将来に禍根残すな豊洲地下
空気清浄機付けておきたい夫婦仲
準備万端後は神さん縋るだけ
抜かれるかじっと目を閉じ待っている

鳥取市　吉田孔美子

ノーベル賞にスローテンポのボブディラン
保険屋に九十歳と喝入れる
足腰よ寝込むな泣くなわらび採り
こりごりと呻くは刹那五人目だ
釣り糸が縺れ船上小半日

鳥取市　吉田弘子

祖父にした事して貰う糸通し
五体まだ動く頑張るボランティア
もう背伸びしない靴箱整理する
小包の隙間を埋める愛埋める
頻繁に今を忘れるもしかして

倉吉市　猪川由美子

ああ恐い点滴受けりゃ殺される
地震という苛酷な試練神の意か
戦済みこれでハムカツ食べられる
フランスでは大勲章のたけし氏だ
情報社会学ぶ頭が草臥れる

米子市　後藤宏之

どぶろくを飲んだまっすぐ歩けない
イスラムを裏で糸ひく奴さがす
酒はもうこりごりですは午前中
あとまわし虫の居所いいときに
一人酒おれも一人だまあ飲めよ

米子市　後藤美恵子

虫除けが要らない齢の秋寂し
手に届く幸せ温め日向ぼこ
大風呂敷広げて畳む難しさ
尖り過ぎの鉛筆浴びるバッシング
衝動買い余命指折り考える

米子市　竹村紀の治

掌に錠剤並べ点呼とる
嬉しくも楽しくも無いハロウィン
オンブに抱っこコンビニに介護され
煮上がったメバルが文句言いたそう
手帳には緊急先と治療先

米子市　中原章子

たっぷりの時間自由に使う幸
ボランティア美化運動の仲間入り
良い季節取り柄の一つ豆を煮る
諦めと夢を交互に繰り返す
感謝していつも心はいい天気

米子市　成田雨奇

飲む時はビール一杯水一杯
庭掘った先祖は小判埋めてない
脈々と酒には強い家系です
野を山を駆けた子供がいま光る
知り人と思いいえあのそのちょっと

米子市　吉田陽子

ボキャブラリー欠乏おおらかになった
何でもない朝装甲車走り来る
手腕などないので石を積んでいる
誕生日チキンライスのいい匂い
もう木霊かえらぬ森をとぼとぼと

鳥取県　石谷美恵子

実りの秋へ悩む血糖値のチェック
グループのマドンナ皆で甘やかす
わがままをすんなり折って惚れている
減塩の名目楯に引かぬ妻
平均寿命延びて福祉が届かない

鳥取県　竹信照彦

地震被害じわり出てくるものと知り
風評で温泉観光みな被害
トランプのジョーカーアメリカが引いた
株持たず株乱高下よその風
沖縄にせめていい風吹くように

鳥取県　西谷悦子

当り前のことへ感謝の日日にする
マタニティー久し振り見てエールする
きのうのメニュー思い出せない脳叱咤
働いたおかげ年金ありがたい
悲しみの友へ夫の話せぬ

鳥取県　松川行男

息抜きをせずに平成八十路過ぎ
見えてきた九十路に近いオリンピック
九十歳生きてる人の苦情読む
笑談も一時止めてお茶に波
亡夫は見ずテレビ欄等よりラヂオ

鳥取県　山下節子

子育ての芯にしっかり父母の愛
ふぞろいの野菜いきいき自己主張
折れそうな心なだめるお茶入れる
夏休み母のタクトは折れそうだ
小旅行薬袋をチェックする

松江市　小川注湖

金の卵と言われて里を出たあの日
風鈴が西瓜の食べてる上で鳴る
両の手に里の秋持つ母迎え
次男嫁取り家族が分かれ枝広げ
寝転んでいれば句づくりしています

松江市　藤井寿代

復活の眉少しだけ上向きに
トッピングは小春日和と縁側と
しなやかに糸通し妻演じきる
パソコンと睨めっこ気のない主治医
水脈の途切れて久しふるさとは

松江市　松本文子

人間てつまらぬものとカラス言う
追い抜かれた街角で福拾う
細胞も歌いたがっている秋だ
哲学のように聞こえる虫の声
逝ってしまった　又ね！と言ったのに

出雲市　伊藤玲子

七五三美しい姫様出来上がる（四人目の曾孫）
いただいた余生大事に歩かねば
擱筆の余白に咲かす福寿草
穏やかな暮しに感謝香を焚く
復興のリンゴいい味届けられ

出雲市　岸桂子

健康が宝と書いて来た便り
砂場には昨日の夢がそのまんま
夫婦でも心を盗むのは至難
闇だけをとぶ蝙蝠のへそ曲り
喜怒哀楽を分け合う友のいる安堵

出雲市　小白金房子

祥月を心に刻む佛の灯
式服に樽酒新春をつぎこぼす
蔵出しの地酒日本のコクを呑む
病む夫へ灯が点る新春の窓
タイミング半額市の新春を買う

出雲市　多久和敬子

神様のお告げに空気軽くなる
鍋の湯気ほんわか仲間包みこむ
おはようと言い合う家族居る感謝
鉛筆が今夜も私離さない
こたつから温もりもらう老い二人

雲南市　菅田かつ子

こんな日は呆けたふりして恙なし
キッチンを任され落ち落ちしておれぬ
我が城はキッチンに有り八十路
置き忘れ携帯電話棚で鳴り
生き生きと今兄ちゃんは九十歳

雲南市　松本昌

こぼれ種我が家の庭に鳳仙花
女性知事品格がある装身具
晴耕雨読それは体力あればこそ
別れとは煙の出ない火葬場
失敗談聞いてその医者好きになり

立冬や凛として立つ天守閣（国宝）　島根県　伊藤寿美

少しずつ省きすっきり天地人
アラジンのランプよ呪文出てこない
明日より今日を大事にする八十路
「下流老人」の言葉が歩く冬茜　岡山市　工藤千代子

自販機すら無い駅柿が熟している
月の無い夜はショパンがそばに居る
理屈など要らぬカラスにある矜持
晩照を歩くグレーのスニーカー
手が痒いうっかりぶれている本音　岡山市　丹下凱夫

わたくしも怪物甘辛二刀流
ダダダダダッとマラソンの秋日和
酒を飲むだけの長生きいいですか
コスモスの中に黒猫消えたまま
聞き上手話し上手いて小春　岡山市　永見心咲

わがままを圧えた蓋が直ぐずれる
冬薔薇悩んで伸びた枝もある
百均の門松で良いエコが好い
再生紙森を守っている誇り
BGMショッパンばかりの散髪屋　岡山市　藤成操江

山峡の蝶やとんぼが呼びにくる
そこここに野火が居据わる里の景
水音も絶えた生家の百日紅
野仏は今も語り部国なまり
記念樹は成熟会得した形　岡山市　前田恵美子

空青くしぼんだ心天日干し
長生きも食べて動けてポックリと
よう来たと笑顔で母は待っていた
ニッコリと笑うと顔が光り出す
つるし柿お日様ニッコリ微笑んだ　笠岡市　藤井智史

わたくしの愛をミディアムレアで焼く
丁度良い座布団であり夫である
掴まえて欲しい孤独なバタフライ
君の待つ場所へ超特急で行く
ウルトラソウル恋も仕事も川柳も　岡山県　池田たか子

攻めてくる老いに早いと言い聞かす
トンボ飛ぶ空も戦火もひとつ空
異常気象いいわけしない菊の意地
ややこしい名前ニュースに追いつけず
待ちわびた小さい秋がもういない

飛行機から乗り移りたいひつじ雲
国保税文句いえない医者通い
愚痴ったり甘えてみたりさせる酒
夫とは不思議な他人影法師
燃えつきて空気になっている二人

岡山県　髙岡茂子

お早うと欠伸しながら起きてくる
野仏は野の花が好き秋深む
甘酒を飲んで幼い日に戻る
医者通いするには惜しい菊日和
ふらつきを妻に尋問されている

岡山県　田中恵

断層もかぼちゃもみんな煮崩れる
少年のこぶし止められない日本
搦め手を義理人情で攻められる
アクセルとブレーキ間違えずに帰る
ちよろずの神のご加護で今日終わる

岡山県　紫しめの

財布忘れたバスでお助けマンに会う
夢ん中宇宙游泳しています
心から愉快な一句浮き袋
妖怪の片腕だった妻だった
一人という自由が何故かややこしい

岡山県　山縣のぶ子

血税に群がる蟻が多過ぎる
価値観が違う夫婦の珍道中
耳あてて地球の怒り聞いてみる
七五三何を祈るかもみじの手
廃炉する「もんじゅ」の知恵はないですか

広島市　岸本清

エンジンを低く朝刊配られる
あざやかな秋の余韻を持ちかえる
豆掴むゲーム必死の顔になる
なつかしい空気寅さん記念館
憧れの銀ブラブラリブラブラリ

竹原市　石原淑子

影だけが細い食欲の秋である
電話機を買い変えおろおろするばかり
吊し柿秋が宿って甘くなり
ガン完治十年生存できました
がんばったなあと地元の医者へ帰される

竹原市　岩本笑子

内視鏡で総理の腹を診て見たい
喉仏までの意見が胃に溜まる
いつか来るこの倖せが途絶える日
賞味期限なんてなかった良き時代
木に竹のようなところもある与党

宇部市　平田実男

人生のタイムリミット意識する
降参と言いたくはないロスタイム
全身を絞って力確かめる
塗り重ねひび割れ出来てギブアップ
真っ直ぐな目を坊さまに七歳児

防府市　坂本加代

旅三日亡夫の写真を道連れに
哀しみの駅の改札今抜ける
愛用の茶碗残して娘が嫁ぐ
まだ翔べる喜寿の翼の羽繕い
繕った翼で翔ぼう青い空

東かがわ市　川﨑ひかり

政界の常識通じない世間
野次ったり居眠りしたりして稼ぐ
安心して居れぬ施設も病棟も
神さまは居るのだろうか思う日も
気分転換上を向いて歩こう

松山市　古手川光

お願いは仰山してる初詣
賽銭の多寡で効き目が違うかも
祭り太鼓が寂しい音で鳴っている
どうしたことか柿が一つも成ってない
人の名も花の名前も出てこない

大洲市　中居善信

ページ繰る夜の静かに更けて秋
運のいいのが生き残り種をつけ
悲しみは泣き泣き捨てる他はない
修行と思っておこう二時間待たされる
うふふっと笑えるような句が欲しい

西予市　黒田茂代

花びらを重ね合わせて恋終わる
約束の地の遙かなり此処に立つ
ハッとする君逝く秋の深まれり
七十余年戦の義兄は戻らない
曼珠沙華飢えをしのいだ父母の顔

高知市　小澤幸泉

病床の妻にそれからどうするの
表札に亡き父母もいる老い二人
兄弟をドライにさせている他人
親の顔改めて見る父兄会
贔屓する気持ちにもある上中下

唐津市　坂本蜂朗

鴛鴦と書けないふたり夫婦です
台風もノーベル賞も当たり年
スタイルを気にする妻が授乳せず
喜寿だって現役ですと島の海女
今にして思えば影もうすかった

唐津市　山口高明

（杉野羅天さんの句は46頁にあります）

川柳塔の川柳讃歌 ⑭⑤

上方芸能評論家　木津川　計

守銭奴の気分空瓶に小銭

安土　理恵

捨てられる茶の出しがらを飲料の茶にまぜて売り、分限者になったのが「茶がらの利助」だった。臨終の床のまわりに金蔵の金箱を並べ、「おれが死んだら、この金はだれのものになるのか、惜しい、くやしい」と金箱にしがみつき、青鬼の形相で血の涙を流してくたばった。西鶴は『日本永代蔵』でそんな守銭奴を描いて業突くばりのあさましさを活写した。まさか理恵さんが小銭を貯めた空瓶を抱え、赤鬼の面容でニタニタッとは思いません。

おめでとうと市から届いた余命表

中井　アキ

二人の女の間で揺れ動く頼りない男を描いた名作『おはん』の宇野千代は九十八歳で逝ったが、その数年前「わたし死なないのじゃないかしら」と言った。

実際、自分は例外で富士の白雪に似て不死の身ではないか、とアキさんも思っていたら、市役所から「おめでとう」はよかったが、なんということか、余命表が同封されていて、見れば、あと「〇年」に、ええーっ!?。アキさん、そんな市長は長生きして落選させよう。

五輪まで生きられますと医者が言う

雪本　珠子

無神経でバカな医者はいくらもいて、頼みもせんのにあなたの余命は「あと〇年」と言うのである。別にオリンピックなど見たいなどと露思わないのに、それがどうした、余計なお世話やないの、と珠子さんは憤慨された。

ある日、一人語りを終えた僕に老人が「あなたはおいくつですか。私より一つ二つ上やと思うが」と問うので「お年は?」と聞くと「九十三です」、ええーっ!?、僕は九十五やないか!?　五輪までは生きられない事を知る。

サングラスはずした方がこわい男

片岡　智恵子

丸顔の日本の女が帽子をかぶる。まず似合わない。同様に扁平な日本の男がベレー帽をかぶる。見ていて悲しくなる。日本の女に似合うのは姉さんかぶりで、男にぴったりは頬かぶりだとは以前に書いた。顔に付ける飾りもので最悪はサングラスだ。あれは善人を悪人に変える。人相の要は目付きだ。それを隠すために黒眼鏡をかける。タモリのサングラスは子供の頃、右目を怪我で失明したから故だ。理由なくしてサングラスはかけない。

掘り下げてみると普通の人だった

牧野　芳光

羊頭のつもりが狗肉だったとはよくある話だ。人間を上っ面で判断してはいけないは、この歳まで生きてきてのわきまえだ。ことに何を言うかで思い込んではいけない。どう行動するかで善し悪しはわかる。

芳光さんは多分その人物と共に行動して見抜けたのだ。『上方芸能』を長年出してきて並みの人間か人物かを見分けられたことを思うと、世に見掛け倒しの多いことを知る。

アナログが堂々とゆく山車がゆく

山岡　冨美子

三十年も昔、スナックで聴いた「時代おくれ」に感動した。「昔の友にはやさしくて／変らぬ友と信じ込み／あれこれ仕事もあるくせに／自分のことはあとにする／ねたまぬように／好きな誰かを思いつづける／時代おくれの男になりたい」。作詞の阿久悠はやはり天才だった。現代の「雨ニモ負ケズ」である。山岡さん、男も女もそんなアナログでいこう。

自選集

老いたる軍鶏よまっすぐな眼をしているか
鬣も赤い鶏冠も僕にない
赤いベレーを誰か贈ってくれないか
鏡には満身創痍写らない
痛いとこだらけだ隠し果せるか

小島蘭幸

椿と母と

手を翳せば遠い野末に椿の木
点々とマスクをつけたような白
夏　秋とかけて火種はためていた
雪の日は雪を許していた椿
遠く遠く霞んでみえる母の國

八木千代

九条を守れ日本の国宝だ
従順な鬼になるまで飼い慣らす
ゆうべの罪みんな流しておくシャワー
水が澱むと人の心もすぐ澱む
コーランがテロの呪文に聞こえ出す

両川洋々

皇紀二六七七年おめでとう
宇治橋を十文三分の靴履いて
初日の出雑煮が出来たお起なはれ
セリ・ナズナ・ハコベ・スズシロ粥を食べ
むらむらと山が燃えてる初日の出

板尾岳人

自分だけ出来ないものと思わない
才能は磨かれてこそ光るもの
作る気がなければしばし休むべし
平凡な暮らしにフッと出る名句
いい句など思わないこと自然体

奥田みつ子

お正月母はそうかと言っただけ
吽までを伸びて縮んで生きている
居眠りをしながら年を取っている
とりあえずお歳の所為と言うことで
わたくしの中の私は他人です

川上大輪

神様も待っていました丸い餅
大空を見ても翼は生えてこぬ
湯豆腐へ言うことはなし旨い酒
冬の雲明日も雪だと知らすよう
木守柿形くずれて使命感

小西雄々

元朝の画布に一本木を植える
大根の白この土が生んだ色
四股を踏む大地にいのち響かせて
生まれたての仔牛のまなこ拭いてやる
眠ってるのだろう森が木霊せぬ

斉藤　劦

鼻先を掠めて行ったチャリスマホ
齧歯類のようにぽりぽりピーナッツ
手を合わすと格好がつく墓参り
ＤＮＡはんぶん大江山の鬼
波風が無くて自慢のタネが無い

新家完司

目覚ましの水一日が作動する
エレベーター標示見つけた好い笑顔
病人が松たけ御飯炊いて待つ
普通車で目を和ませる神戸線
傘寿から卒寿をめざす同窓会

津守柳伸

健康を願う今日の空明日の空
生きている音をしっかり晴れた日に
薬漬けどの薬かが副作用
聞き捨てにしといてくれとまたしこり
ぴったりの言葉を消しゴムに聞いている

都倉求芽

夢からさめて幻を追いかける
道あけてください理想追っている
貧しさの穴を大きくするばかり
真っ黒になる悪人の影法師
丸描いて四角を書いて介護され

土橋　螢

苦髪楽爪この頃髪がよく伸びる
前向きにならねば明日が怖くなる
愚痴ってはならぬ愚痴れば不幸呼ぶ
一日が終る命を削りつつ
新しい年に願いはただ一つ

西出楓楽

連れられて呑む正論を笑う酒
冗談へ返す正論通すスジ
議事半ば彼の正論待たれてる
繰り返し説く正論が土台石
二親の正論に酔う屠蘇の酒

仁部四郎

新年へ音痴響かせする賛美
することがあるかと孫が聞いてくれ
日本製とっても弱い日本人
マンションの三階あたりわが余生
星数え全て名前をつけた神

前　たもつ

張り切って日記を書いた三が日
バカだなあと言う友情に救われる
毎日が勉強ですと言えますか
怖いほど幸せですという驕り
喝采を浴びると外せない仮面

三宅保州

老いたけど好きな彩だけよく似合う
夏を越す方程式を子に学ぶ
体力と気力は別でまずたべる
すぐに書くそれでもすぐに忘れてる
流すより焼き切る昔に火をつける

宮西弥生

笑いころげて苺の光る眼と出逢い
夕焼けに恋する影はカメレオン
あこがれだった美女の背を追うパパラッチ
太陽に今日も飼われている生命
眠れない天井赤い灯が走る

林瑞枝

第158回 大阪川柳の会

日時 2月4日（水）午後1時開場・午後2時締切
会場 大阪市立総合生涯学習センター 第一研修室
宿題と選者（各題2句・席題なし）
△「予　感」辰巳　和子　△「逆　」久保田半蔵門
△「線　」山本希久子　△「不　足」森中恵美子
会費 1000円　**欠席投句** 1月13日まで　会員に限る
〒532-0025 大阪市淀川区新北野1-3-4-706
本田智彦 宛

川柳塔

（つづき）

熊本市　杉野羅天

猪が初物あさる故郷かな
被災者にじわりと響く税納付
ビール・飯・スマホもう一時間
腸変えて毛髪力が甦り
老後とは一か八かの道だとは

第119回 中部地区誌上川柳大会

宿題と選者（各題2句・読み込み可）
「　文　」　高瀬　霜石・石神　紅雀　共選
「ステージ」　田中　新一・竹田　光柳　共選
「　比　」　津田　暹・佐藤　美文　共選
「越える」　赤井　花城・石田　寿子　共選
参加料　千円（定額小為替など・切手不可）
締　切　**1月31日（火）必着（厳守）**
発　表　「月刊中日川柳」4月号
投句用紙　所定の用紙（コピー）
投句先　〒457-0038　名古屋市南区桜本町137
荒　川　八洲雄
電話　052-811-2347
主　催　中日川柳会

鼠「ネズミ」

夏目一粋

現代社会の環境の変化により生ゴミの完全収拾によってネズミを追放し撲滅したのか、わが家でもまったく見かけない。もしや絶滅種なのか。ネズミは小賢しく悪知恵が働き、生き延びるためにエサを求めて大都会の繁華街へと移動したのかも知れない。

昔はどこの家庭でも夜になると天井裏でネズミの運動会が始まるのだ。人間とネズミは共に住んでいたのだが。

またネズミはネコを天敵とし「鼠穴」を無数に作り、自在に逃走していたのだ。時には、窮鼠猫を噛む、こともあったとか。反面人間はネズミを外敵とし「鼠おとし」で捕まえ溺死させていたのだ。その他、ネズミにまつわる諺で「鼠講」「鼠算」「鼠歯」「鼠の嫁入り」「鼠が塩を引く」など愉快で風流でもある。

それからスピード違反の取り締まりを「ネズミとり」と言うのだが、人の犯した罪と罰を鼠に置き変えたのが、なんともナンセンスで滑稽だ。揶揄ぽくて笑ってしまう。

「鼠江戸を疾る」がテレビで放映されたが鼠小僧の正義感と活躍が、まさに痛快だ。

ネズミにかかわる諺は現世では、もはや幻で空想の中の風物詩かも知れない。

温故知新

『高杉鬼遊川柳句集』から

新聞のニュースを古いものと聴き
春の宵 手形忘れている小唄
妻の留守遠い記憶でめしを炊く
母親のようなパートをこき使い
人生はいろいろ七味唐がらし
号泣の八月が来る仏たち
豆腐屋のおつりはいつも泣いている
子にはまだ夢がある玩具箱
ボーナスが出たか隣の換気扇
幸せがいつまでつづく鳩時計
買って来た肉を秤へのせてみる
真実を見るとき両の目をとじる
絵のわかる人と画廊の小半日
愛すべし上手にさんま焼くおんな
政治不信 一揆が走る土煙
宿の下駄うまい珈琲が欲しくなり
にんげんのつくる仏へ手を合わせ
茶箪笥に母の苦労の艶がある

西出楓楽選

朝刊で今日の日にちを確かめる
高騰の野菜横目にもやし買う
吹っ切れぬ訳はあの日の言葉尻
ベストセラーの先取りをしてほくそ笑む
食べ切れぬ程のもてなし面食らう
預金して酉の根付けを2個貰う

尼崎市　清水久美子

老いて知る口と身体は反比例
生きるってスリル連続高齢期
光る星とって欲しいと肩車
さりげなく鋭く走る女の眼
月光に託し彼岸に母送る
あるがまま歳を重ねて光るしわ

札幌市　斉藤宏子

言いました聞いてませんとまた今日も
ジャンボやめミニにしたけど当たらない
引っ越しでさらば箪笥と三面鏡

宝塚市　丸山孔一

移り住む街の祭りに同化する
うまいとか何とか言えと妻の顔
じいちゃんと言う名の財布孫の供

神戸市　細川花門

傷心の僕に便座の温かさ
秋風が財布の底で吹いている
止り木に揺れてる影はわたしです
拝啓元気か呑んでいるか敬具
食欲の秋が怖いと体重計
我輩もB型ですとビール注ぐ

和歌山市　平田元三

消費期限間近が並ぶ売出し日
おはようが寒いですねに早変り
筆を持つまでが大儀な年賀状
思い出で満点を取る父と母
通う血に勝る介護の夫婦仲
割り引きを利息と思い年払い

河内長野市　中島一彌

ジャズを聞き思わず足で調子とる
立ち話じっと聞き入る散歩犬
悪友がそっと教えた性知識
陰徳をいくつ積んだか茶をすする
三日目の大根がいいおでん種
糠床を掻いて一日回り出す

三田市　松本ゆかり

義理で出た葬式なのに涙拭く
初恋を告白しとこクラス会
百になどならぬと言ってサプリ飲む
手品師がブランコこいで銀杏舞う
秋日和遊具昼寝の時間です
人並みに暮らす幸せ蓼の花

三次市　伊藤寿子

松茸は大人の味と孫の弁
里神楽太鼓へ亡父の笑み浮かぶ
神楽ばやし一緒に舞っている心
おでんうどんお酒も売れる祭りの夜
流れ星初恋の君逝きたもう
ヒーチャンと電話の声が忘られぬ

今治市　渡邊伊津志

談合を仕切った秘書の闇の顔
青空が美し過ぎて吐けぬ嘘
新品と取り替え致します心
軽快な歩みをしたい夢にでも
只一人行けば楽しい回り道
掴み取る指から欲が零れ落ち

河内長野市　森田旅人

あの国が選んだ人だ信じよう
元気よの優しい嘘に気付く今
どなってる父の白旗見えかくれ
惣菜に文句の減った定年後
言い負けて水音高く米を研ぐ
何であれ訪問うれしハロウィーン

河内長野市　穂口正子

母を試し荒れた息子もパパになり
若い嫁塩揉みキューリつぶれてる
騙された振りしてくれる良い嫁だ
上の空あいづちずれて睨まれる
女房はきっと天使だ羽根が有る
老いにつれ父母ありがたき冬銀河

豊橋市　藤田千休

体力の過信を悔いる登山靴
病葉がクルーズしてる水溜り
最高益の陰でベロ出す裏帳簿
弁解と詭弁の好きな二枚舌
デュエットが湿気た火薬に火をつける
シグナルが絶えて久しい倦怠期

シドニー　坂上　のり子

熱風にけだるく揺れるジャカランダ
スーパームーンを邪魔して揺れるジャカランダ
この世の中に絶対と言う何もなし
経験だけで他人の批判する狭さ
偲ぶ会涙笑いのエピソード

札幌市　富永　恵子

末席に学ぶ幸せ耳ダンボ
時計台ビルの谷間を賑やかに
アンパンが美味しくなって草紅葉
追い越され私の歩み考える
寒い日は歩幅も軽くシャンとして

弘前市　高森　一呑

薬飲む今日一日の始まりだ
雪の夜は心の疼き抱いて寝る
太陽は立派な暖炉より勝り
秋野菜価格確かめ買い控え
一回忌かぞえきれないドラマある

塩竈市　木田　比呂朗

初詣で出来る幸せかみしめる
富士山も鷹もなすびも出ないユメ
二日でもケータイ賀詞を届けます
計画の実施に足腰の悲鳴
長風呂に脅しをかけてくるカルテ

男鹿市　伊藤　のぶよし

試練の数は言わぬがはなの箸二膳
此処だけの話の好きな口である
生き甲斐の尽きることない好奇心
老化ならインフラだって僕だって
紅葉散る里の夕日の彩で散る

上尾市　中村　伸子

時計鳴るアイネクライネ六時です
杉玉が揺れる誰かを呼んでいる
真っ暗で音楽あれば眠れます
鼻歌を何か言ったかと聞かれる
アメリカの選択何故と聞きたいな

八王子市　川名　洋子

スーパーのチラシ私を離さない
許そうかピンクのルージュ塗ってみる
日陰から日向が好きになり初冬
独り居にまな板乾きがちになる
絵手紙に味も忘れた松茸が

横浜市　巌田　かず枝

万病に効くのは子等の笑い声
旨い酒月月火火水木金
皆元気短いメールそれで良い
ジョーカーかエースが出るかさあどっち
お決まりは老化ですねとアレルギー

ややこしい話が喉を詰まらせる
処方箋よりも効きます君の笑み
自由奔放外見ほどでない素顔
ホップステップ問題はジャンプ
リセットし愛の形を組み換える

横浜市　川島良子

リズム良く点滴落ちる回復期
団塊とインフラともに劣化する
妻の留守そこここにある妻の影
悪友でいたくて守る矩がある
いつまでも聞きたい妻の笑い声

福井市　伊藤良一

ハンモックほどよい揺れに夢現
危機感が無いと訓練水の泡
大風呂敷広げて見れば嘘もある
離婚劇何度かあったとどまった
車椅子兄の胸には赤い羽根

江南市　脇田雅美

ガサガサと落葉踏み踏み秋送る
エンディングノートを前に筆遅遅と
年賀状いつが止め時迷い出す
大鍋で炊いたおでんの湯気恋し
一人暮らす自炊の孫に米野菜

大阪市　磯島福貴子

よう叱られた母ですが好きでした
ちょっといけずやった母ですもう白髪
熱い焙じ茶だけで喜ぶ母でした
褒めないでわたし本真にしますから
人間にまた生れたいなんて母

大阪市　柴本ばっは

空いているレジに並ぶと研修生
いい夢を見せてもらっただけの恋
人生を語るおでんを食べながら
削除キー押しても消えぬ過去がある
幸せを測る物差しなんてない

大阪市　高杉力

肉痩せて脂肪が太り骨軋む
新聞の広告で読む週刊誌
ウニイクラからだに悪いものが好き
着ぐるみの中の孤独を想像す
掲載をされぬわが句をかわいがり

大阪市　梅里南天

シャワー全開今日は私の祭りの日
おしゃべりが好きで陽気で人嫌い
半日でギブアップするダイエット
マジックに種 言い訳が上手くなる
70点位で妥協する此の世

大阪市　平井美智子

大阪市　森　廣子

十人十色毬は勝手に弾み出す
青い空得意顔ですからす瓜
やっと秋美味いサンマと熱燗と
擬態して生きる姿は神の域
作り笑顔がはずせないまま冬に入る

大阪市　横山里子

個人差があります倖せの尺度
掃除機で吸ってる上手くついた嘘
寝転んで愚痴聞いている長電話
ポジティブに生きてポックリ理想だが
着ぶくれて春を待ってるねこやなぎ

池田市　上山堅坊

ボクにまで紅葉配ってくれる秋
今もなお妻の遺影に裁かれる
年老いて涙の扉が軽くなる
せかせかと喋る総理の軽い口
政活費なんとお得なお小遣い

泉大津市　助川和美

飯いらんメール早めに願います
塩値上げ血圧下がるかも知れぬ
散髪代俺より高いお犬様
相槌を「うん」とか「へえ」で聞き上手
孫初めて立ったらし靴買ってやろ

貝塚市　吉道あかね

マンモグラフィー今年も異状なしという
生姜蜂蜜冬のくらしの中に置く
野菜高もやしの出番多くなる
焼芋と日向ぼこする老いもいい
くたびれて肌に馴染んで来た木綿

交野市　田岡九好

誕生日八十からはUターン
老いゆくや思てたことと違てくる
無為徒食大きな顔をするでない
これでええネンよかってんと言い聞かせ
鼻につく訳知り声の若いアナ

河内長野市　原熊知津子

初恋の恋に恋する姫りんご
構えているがカメラ捉えた純朴さ
口下手でドジなあなたを信じます
垂直に突きささる愛ある叱咤
急降下スランプのジャングルの中

河内長野市　渡邊修

孤独者にさっと近寄るカルト教
見たくない車中化粧のべっぴんさん
息こらす娘と彼の長電話
値上がりでもやし主役のレシピ増え
なつかしい並んで買った年賀状

今日生きる歩幅しっかり確かめる
どのように構えていても出る地金
生きがいを語ってくれるペンと住む
太っても痩せても苦労の種となり
言葉とは人を踊らせまた泣かせ

堺市　小林若芽

骨太の字が暖かい師の手紙
終活へ骨つぼ焼いて総仕上げ
助走して飛び立つ夢を見るあひる
走れない私夢では軽やかに
駅前の飲み屋でちょっと気分変え

堺市　近藤治子

今会ったあの人どこの誰だった
ハイただ今返事はいいが動かない
トライするまずは易しいところから
握った汗乾く間もない好勝負
ひとことに物を言わせる年の功

堺市　羽田野洋介

「もんじゅ」とは金食い虫のことなんだ
湯気立ちて投句メモするガラス窓
子の不出来ふっと気がつくDNA
いつか乗る今は押してる車椅子
善し悪しを子らは見てます父の背な

堺市　松永庄三

生き下手を誇る昭和の生き残り
戸籍簿にわたしのドラマ垣間見え
似た人にときめく心まだありて
ふるさとへ思いが走る秋祭り
下戸なれどくぐってみたい縄のれん

豊中市　荒巻夢

球場の風景変えたカープ女子
虎ファンも同情しますハルキスト
五輪への参加目論む安倍総理
つまらないお笑いテレビ占拠する
ニコニコとプラス思考で今日も晴

豊中市　上出修

いろいろな想い出巡る冬の虹
花言葉知らずに贈り誤解され
偽りの元気を作る紅をさす
空いた席サッと座ればまだ温い
妻帰宅あわててかくすコップ酒

豊中市　貝塚正子

イエスマンいつも我慢をためている
シャワー全開くやしい過去を流しきる
我慢など知らない親が子を育て
よくしゃべる口につけたい万歩計
女房のちょっときてよに腰が引け

寝屋川市　岡本勲

闇米で育った昔なつかしむ
ご馳走の後はお茶漬け京すぐき
入院し上げ膳据え膳お殿様
月の出を待ち草原の虫の声
良い人が次から次と逝く葉書

箕面市　寺井柳童

温暖化秋から春へ運動会
台風が来ると関節また痛む
飲み過ぎにそっと肝臓撫でてやる
百薬の長一杯でおおらかに
休肝日安定剤で一休み

八尾市　田邊浩三

三世代リズムが違う咀嚼音
身を庇い生きるだけでも大仕事
大切に生きる限りのある余生
まだ咲きたい傘寿の古木水をやる
それらしき気配に目覚め今朝の冷え

大阪府　小栢こずえ

鉛筆の先が丸くて句も円い
一二三足が覚えているワルツ
粋だなあノーベル賞にボブ・ディラン
齢というライバルだましだまし生き
無表情きっとスマホの副作用

大阪府　神野千恵子

三度目の閉店セールぬけぬけと
入道が鰯に喰われ空高し
女からくどかれ待ちの男増え
ゆらゆらと腹もいっしょにフラダンス
下戸の医者すぐに禁酒を言いたがる

尼崎市　永田紀惠

コスモス咲かせ荒れ地一気に蘇る
移り気な気候服装決まらない
小指出して粋な約束してしまう
祈りにも似て一筋の枯れ芒
親友に会える楽しみ秋祭り

尼崎市　藤田雪菜

馬肥ゆる調節しながら秋賞味
甘党へ別腹にある指定席
レシートが無駄な買物アドバイス
身に合った田舎暮らしのここち良さ
ちょっとだけ体を横に老い気まま

篠山市　藤井美智子

朝露を雁の涙と詠む雅
戦争の悲惨を無口語り出す
おてんばが羽化してみせた披露宴
グルメでも喉元過ぎる迄のこと
年賀状細い縁を繋ぎ止め

三田市　谷口修平

宝塚市　太田としお

父の歳になって親父が分かり出す
よく笑うよく泣くよってよく寝れる
ひとりぼち生まれる時も死ぬ時も
何はさておき無智ほど恐いものはなし
お金より大事なものに救われる

三木市　山口久子

都合良く忘れて暮らす老いの知恵
何時までも女でいたい髪染める
老いの夢豪華船にて旅したい
中身より字の大きさの本を買い
勝手耳食べる言葉はよく聞こえ

奈良市　尾畑なを江

ようおこし平和日本へ二千万
つかんでも手離す時期がやって来る
秋風が立ち止まるなと背をつつく
子の助言思いかえせば遠い我
秋野菜里の香を乗せ届く

和歌山市　倉橋悦子

友が来てふる里の味てんこ盛り
怪談のような豊洲の水たまり
酉さんと羽撃いてみる初春つれて
対岸の景色人選大嵐
魂を抜きに睡魔が追ってくる

鳥取市　奥田由美

目が合ったその日に決めた夫妻縁
あと十年頑張りましょう金婚譜
好きだった人の名前の孫もいる
この私貰ってくれた凄い夫
出会いから強い縁の夫がいる

鳥取市　津村律子

豆伏せる伏せてもカラスすぐ拾う
空腹にバナナ一本ころあいだ
コソコソと落葉会議を隅でする
スムースに流れる腸に感謝する
手のかからない夫に感謝しています

倉吉市　大羽雄大

お年寄り赤信号もへっちゃらだ
赤い羽根つけたスーツは嬉しそう
逆立ちで名案でたらボクもする
昼下り震度六弱飛び上がる
地の叫びつづいてドスン地の怒り

倉吉市　岡﨑美知江

千羽鶴深い祈りを込めながら
震災であかない窓にうつる月
天窓から見えるいつものお月さま
人間を味わう酒に酔いしれる
戦争に活路見出す国の策

今日もまた活断層の上でねる
七日経つが揺れも私も落ち着かず
治療中弱気の虫も退治する
ハエ一匹大の大人を振り回す
ほんとうに回っているの諭吉さん

倉吉市　中村　毅

震度6こんなに恐いものだとは
屋根瓦飛んでしまった冬が来る
非常袋ベッドの横に置いたまま
日常が素っ飛んでいた地震の日
友の電話勇気もらい立ち上がる

倉吉市　宮田風露

美に焦がれ背伸びした頃懐かしい
預金帳にんまり見つつ手酌酒
介護終え自由な時間持て余す
振り向けば後悔多き轍かな
上肉も味気なさ増す独り鍋

米子市　永井三津子

暦一枚師走の風が身を急かす
掘りたての里いもごはん秋の味
血圧計今日も安全畑に行く
外出着年々派手になっている
喪中葉書出して安堵の昼寝する

米子市　見山温子

御神輿の担ぎ手不足秋祭り
どじょっこやふなっこ何処へ行ったやら
廃校の便り古里遠くなる
故郷に先祖の墓と戸籍だけ
田や畑お猿と鹿の餌場とは

鳥取県　児玉規雄

風の音余震で揺れているような
気が逸るほどに手足が動かない
よそゆきの言葉と笑顔初対面
退院を待ちかねている普通食
聞き返し三度以上は気が引ける

鳥取県　門村幸子

身内より頼りにできる両隣
喜寿が来た喜びましょうそうしよう
男でも入りたいです美人の湯
迷信を信じ海草食べている
風邪を引くと味方になってくれる妻

松江市　中筋弘充

夢を追うまだまだ若いこれからも
思い出に勇気をもらいエトセトラ
逆境をしたたかに生き古稀すぎる
川柳に生かされ生きて七十二
ヤケクソで歩いた道がなだらかに

出雲市　黒目英男

父母逝きて次第に里が遠くなり
老いて尚無骨な僕の血が騒ぐ
天高し仰げば遠き我が昭和
元気とは笑いから来るよい家族
生きてます神髄筆がよく進む

瀬戸内市　片島秀月

補聴器の耳朶にやさしい祭り笛
陽の恵み花も私も笑いだす
こだわりを捨ててかごめの輪の中へ
越えてきた月日二人の花結び
笑うとき泣くとき空が味方する

瀬戸内市　東槇ますみ

一輪の花もプライド持って咲く
青い空人肌恋しい秋の風
ふる里を継ぐ人もなく柿熟れる
わが家では孫の転勤大ニュース
世も狂い花も二度咲き三度咲き

瀬戸内市　宮宅比佐恵

ママゴトの母さん野菊髪に挿し
深情けまた薄情も困ります
持ち時間少なし本は選びたし
早起きの癖一生の宝物
築きたる信用ふいに無礼講

尾道市　小畑宣之

カーディガン娘選んで呉れた赤
月明かり秋の夜長をほっこりと
あなた待つ電池はいつも満タンに
恋のバトルハートのエース切り札に
露天風呂鋭い月が切る迷い

竹原市　若年幸子

ただいまも言わず大きな月を言う
コンコース広島弁にふりかえる
彼のことははなし六分に聴いている
明日という言葉が似合う夕焼けだ
浮かれてはならぬ酒だが味はいい

府中市　岸田武

イニシャルが疑惑を秘めている手帳
才能が意外な角度から芽生え
筋道が通った喧嘩なら止めぬ
善人でいるのも実に肩が凝る
幾つもの修羅場を踏んだ面構え

三原市　鴨田昭紀

新しい年に加える親ごころ
新しい年に加える雑魚の意地
新しい年に加えるおもいやり
新しい年に加える恩返し
新しい年に加える土性骨

広島市　日谷寛

宇部市　高山清子

どんぐりの列に並んでいる安堵
語意よりも語感で喋る現代っ子
空気読むことに疲れて一人旅
自慢にはならぬ高齢生一本
場の空気チェンジするのは老いの智恵

松山市　郷田みや

帰るとこあるから私鳥になる
スマホ見てタイヤ交換する息子
去る人を黙って送るそれでいい
追伸が長過ぎました逢いたくて
縁側がほっとする場所だった頃

松山市　神野きっこ

9・11並みに衝撃受けた選挙戦
やりくりに格差社会の暗い影
平成の想定外に泣く日本
不確実な時代を生きてジャズを聴く
Fly Me To The Moon 乙女心に灯がともる

大洲市　花岡順子

忘れたい思い心にへばりつく
自分だけの城を築いているニート
ダイエットするなら秋は止めとこう
いい秋のはずが野菜が高すぎる
秋風に呼ばれて逝った人思う

西予市　西田美恵子

字余りも字足らずも良し急ぐまい
味噌汁の旨い女で惚れ直す
オーロラも虹も宇宙の贈り物
夢握りそこねた指がまだ疼く
オール電化を母は便利と思わない

唐津市　岩﨑實

転倒の老妻抱きしめて　わかるかい
救急車何はともあれ救急車
即入院娘一人を付添わせ
病院へ自宅買物分きざみ
して貰うことを数えて帰り待つ

佐賀県　真島久美子

ニンゲンの鈍いところに堕ちる嘘
過去形のお味はいかがですか恋
スマホからるんるんと縛られる
丁寧に書く紙屑になる手紙
恋終りパステルカラーから脱皮

沖縄県　島尻卓

本能はどこに車も怖じぬ鳩
モンゴルに母屋取られて綱を待つ
でもしかし負けず嫌いの一家言
飲みすぎた時の日記がSFだ
パンツって聞いてズボンが浮かばない

蘇れ若きひと時今一度
楽しい時間はつかの間通り過ぎ
ボランティアこんなとこにも序列あり
待ち焦がれた秋は足早火燵だす

松戸市　山下明子

大掃除苦手な時期がやってくる
赤ちゃんも上下関係わかってる
暖房で空気乾燥冬が来る
墓参り今年は行けず拍子抜け

東京都　髙岡弥生

日本中東京都知事心配し
表札がまだ頑張っている空き家
平均寿命やっと一人前になる
酔った日の話はしない事にする

佐渡市　髙野不二

昨日の敵今日は握手の腹の内
野菜高騰家庭菜園当てにされ
覚えの悪さ睡眠不足のせいにする
ホーム見学素晴らしいけどうちがいい

横浜市　長島亜希子

八十八歳よくぞここまで生かされた
同総会口だけ達者なおばあさん
来年を確約出来ぬ高齢者
人の一生は足早に過ぎ去って行く

静岡市　渡辺芳子

軽薄な心が波に浮いている
ちょっとだけ悩みがあれば生きられる
爪だけは金がなくても伸びてくる
遺伝子の半分程を持て余す

沼津市　鳥沢無午

日本の土は最後は水が出る
一あばれしそうアメリカ大統領
国民は見捨てられたかＴＰＰ
孫からの手紙四、五日元気です

京都市　櫻﨑篤子

あおによし紅葉がはえる青い空
再手術やさしいナース後光さす
トランプの勝利に世界驚愕す
ベール脱ぐ北のおどしは哀れなり

大阪市　田中廣子

他所の子の育つ早さよ七五三
召しあがれ亡夫に故郷の今年米
静電気パチパチ冬が来てたんだ
よくできた嫁だと他人は言うけれど

大阪市　田中ゆみ子

僕もする愛想笑いで生きる道
極楽ならロケットで飛んで行く
三笠宮天寿貫く百歳で
スマートホン考える知恵を無くしてる

大阪市　前川善之

見る度に違うスーツの小池知事
どなり声涼しい敵に負けている
南スーダン危険でないとはぐらかし
要人が来る度増える援助金

大阪市　松田　聰

捻っても蛇口の様に句は出ない
傘寿でも今朝もしっかり眉描いた
締め切りに頭痛の種だ五七五
肥満体水でも太る言い訳す

大阪市　宮村　満寿恵

もう白寿夜爪切っても怖くない
人は日々新たな命生きている
改革は誰がやっても難しい
うそも方便助けてくれることもある

大阪市　吉田　知之

傘立てにブランド品の見栄をはる
空襲の記憶を埋めるタワービル
弱者へは徹底的に強い群れ
とりあえず駅に集合叔父の通夜

池田市　太田　省三

雄猫の不協和音の大合唱
ペットにはペット様用水を買い
キャットフードに慣れて魚の味忘れ
猫の尾を踏み驚いたのは私

岸和田市　宮野　みつ江

目標はぴんぴんころりウォーキング
気骨ある友の助言が身に沁みる
無器用でどんくさいのは父似かも
ぎりぎりに為らんと本気出さぬ脳

堺市　梅木　澄空

寿命のび喜びたいが金足りぬ
苦しみをたくさん食べてしあわせに
添い遂げる気持新たに古希の坂
精いっぱい生きて人生楽園だ

堺市　大和　峯二

カープでは黄色い声が赤くなる
警官は切符切る時優し顔
忙しい言ってる度に休んでる
ふるさとはずっと居るので感じない

高槻市　三谷　白黒

何やかやお祭り好きの日本人
おみこしを担ぐ彼女にラブコール
生活苦招く政治の御粗末さ
欲ばらず望み半分心掛け

豊中市　荒木　郁子

夏の暑さにも冬の寒さも負け続け
だんまりの委員も数の内と言う
煩悩があるから今日も生きられる
もう秋と思えば冬が足早に

豊中市　源田　啓生

富田林市　小出修三

まつり果てだあれもいない暗い路地
花畑手袋片手かくれんぼ
溜め込んだメール消してる無聊の日
予想して妻と楽しむ大相撲

羽曳野市　磯本洋一

七草もハウス物だが優しくて
水素バス排気ガスなきスターダム
ガソリンを入れずスタンド洗車だけ
エゴイズムマネーファースト五輪なり

羽曳野市　仲谷真一

かぐや姫月の生活どうですか
秋深し心ちょっぴりうつ気味に
新年に気分転換始めよう
今年こそ良い事がありますよ

羽曳野市　安本美喜

受け答えとんちんかんに初笑い
糟糠の夫と握手の御慶かな
酉年に倣って元気羽ばたこう
認知症の予防と外に連れ出され

枚方市　坂本ミヨノ

コスモスも寒さで哀れ色あせて
今夕のヒントの料理一人食べ
寒くなって着類支度あわてて
まだ欲です楽しき暮らし九十二歳

枚方市　山口弘委智

ひとりでに広がる歩幅グルメ旅
命がけ何時も全力母の愛
功ならず思いも遂げず傘寿超え
ゴム手から滴る汗は裏切らぬ

箕面市　中山春代

二人居のお屠蘇に代えるロゼワイン
除夜の鐘遠い枕で聞いている
夜更しがしんどくなったシンデレラ
コレステロール値カルテに叱られる

八尾市　前田紀雄

内臓に暗示をかけて飲むサプリ
喜寿間近妻が魔球を投げて来る
九条に危ない橋が駆けられる
君とならどんな橋でも渡ります

大阪府　高木道子

廃校のその後を探る赤とんぼ
一応は頷き今日を遣り過ごす
文化の日　日の丸ふわり所在なげ
嫋やかにコスモスくの字強かに

大阪府　畑中節子

あたたかい話題に飢えている孤独
玄関の生花一輪和を告げる
秋日和コスモス風とたわむれる
畑仕事遊び心でする至福

ちらの雪一・一七の灯が点る
わが家計ぎりぎりですが夢でかい
八十路坂演歌の詩で人生なぞる
のろけても最後は尻に敷かれてる

神戸市　興水　弘

さみしさに潰されそうな冬の月
二十五忌に難聴が聞く母の声
痛いとこ知って突かない母でした
母逝った吉野の春を見る前に

神戸市　近藤　勝正

野良仕事美味しくなれと苗植える
目を皿に掲載欄の句を探す
予定ある首を切れない党幹部
孫昼寝させるつもりが先寝んね

伊丹市　平井　富夫

作業後にビールをゴクリ至福時
髪を染め今日は奥様風に居る
仮装して自己満足のハロウィーン
わが部屋に待つ人がいる幸を知る

加西市　山端　なつみ

石つぶて一つを残す使命感
一病のお蔭で届いた喜寿の秋
自分史は自作自演で意気軒昂
人は人自分の好きに生き上手

川西市　日野岡　和之

洗濯で落ちるていどの愚痴一つ
人間の勝手で枝が切り取られ
生きてきた篠山がいま誇りです
柚子風呂で心のゆとりとりもどす

篠山市　永井　かほる

このままでいたいからしないプロポーズ
経年劣化何をするにもよいこらしょ
バリケード築いた青春の冒険
孫に買う糸目つけないランドセル

篠山市　長澤　喜弘

いやなもの見ないで長生きしたいなあ
豊洲とか夢の洲とか流されそう
秋深し近所は老人ばかりなり
来たるべき多死社会へと一歩ずつ

篠山市　長谷川　善輔

丸せんべいメダル真似してポーズとる
手作りのメダル祖父母に長寿賞
東京都ドンが何人いてはるの
定年を当てにしている妻がいる

三田市　幸田　厚子

サンプル品と異なるものを見せてくれ
同期入社のあの夫婦仲妬けてくる
キャンプイン頑張り過ぎる一日目
ＯＢ連発考え過ぎてまたやった

三田市　宗福　清司

減塩に慣れて外食減ってきた
今朝入れた茶柱立って元気出す
年ごとに週末の孫遠くなる
脳起こすグーチョキパーが今朝もでき

三田市　辻　開子

政活費空領収書金に化け
お役人木の葉が金にみえる時
おお慌て不意の来客舞台裏
ふとみれば鏡の中に母の顔

三田市　馬場　貴美江

小さな夢暦に散らし明日へ向く
アンコール拍手待ってるピアニスト
円空像わけへだてなく笑みを見せ
村人に守られ笑う円空像

奈良市　髙橋　敬子

頑張った若さ昭和に置いてきた
箱庭にちいさな夢を咲かせてる
亀の歩で支え続けた家族の輪
それぞれの顔を浮かべる年賀状

和歌山市　北原　昭枝

夜行列車汽笛せつなく駅を出る
無人駅名残りの花がそよぐだけ
重くとも欲と道づれうふふのふ
未練なく桜散る形あこがれし

和歌山市　鍋嶋　澄子

戦火からお寺守った銀杏の木
頼り無さ笑わぬ辞書に助けられ
秒針の早さ人生思わせる
正直な写真に姿勢見直され

和歌山市　福呂　秀子

空気がうまい青い地球を汚すまい
生きている証を見せる年賀状
無人駅星占いをしたい空
湯どうふの献立がいい共白髪

岩出市　村中　悦男

仏壇への襖はいつも開けてある
いくらでも倹約出来る過疎である
フルムーンに行かずじまいで逝った夫
八十歳でも農作業なら出来ている

和歌山県　森下　よりこ

野暮こなすチャレンジャーにもなっていく
躓いた小石に笑い出てしまう
鏡裏笑顔えがおと言ってくる
紅を指す時一番好きな顔になる

鳥取市　大前　安子

ちびちびと酌んで昭和の安来節
一日を癒やしてくれた日本酒だ
年老いて少しは知恵の輪が光り
よたよたと転ばぬように杖をつく

鳥取市　髙原　かおる

秋の陽は沈む時さえ短くて
夕暮れにどこへ帰るか赤とんぼ
感動のその一言が胸をつく
いか釣りの船の漁火ポツポツと

倉吉市　堀　かずこ

道問えば答えぬなんだこりゃ案山子
二刀流一投流より速い球
旅の宿フトン良すぎて寝られない
カブス勝つヤギののろいを破りV

境港市　中井虎尾

真夜中のピーポも知らぬ高いびき
名優の言うほど効かぬサプリ飲む
アーケード失せてシャッター街進む
大根も葉物も高値大野分

米子市　生田和之

慌てない昨日があるから今日もある
のんびりと寝てはいられぬ秋の良日
慌ただしすべて毎日年の暮れ
幸せな明るい陽当り良いファミリー

米子市　池岡たけし

夢くれる子供は宝未来あり
暑くても秋を知ってる蟻は来ず
面影を断ち切り亡母の断捨離す
マイペース好きな事には自分流

米子市　川本美津子

一病は天の恵みと歩んでる
はく吐息みんな幸せ求めてる
東京も女性の知事で活気づき
野菜づくり始めてみよういちごから

米子市　田村周子

出来秋に届く野菜が誇らし気
老いふたり見て見ぬ振りの思いやり
門限にやきもきしてる腕時計
元気もりもり原動力は子の笑顔

米子市　野川宣子

伸びる子に夢を託すも親心
洗っても何時も変わらぬ茶碗です
風雪に負けずバス停椅子が待つ
愛らしい歌えば踊る孫が居る

鳥取県　飯野菖子

墓倒壊後継ぐ者が見えて来ぬ
地震の怖さ老い二人には重すぎた
どん底を見据え入信攻めて来る
裏の顔見えて来たので手を離す

鳥取県　下田茂登子

タイマーがあちこちで鳴る物忘れ
誘われて出かける夫はいきいきと
友訪問笑いつづけた一日よ
羽根のばす場所は私の四畳半

鳥取県　橋谷静江

特別な香りをもらうために逢う
昼と夜使い分けます顔と舌
太陽と地球に感謝昼がある
発想の原点食べる飲む休む

松江市　相見柳歩

心まで老いたくはなし秋の色
今の世に黄門さんの居てほしい
病気にはなってもなるな病人に
一日を振り返る時自分褒め

松江市　山根邦代

明日葉に頷きもして出る元気
心不全足腰撫でて卒寿翁
まだまだと思う気持ちも抱いている
パチンコに貰う元気だ老いの幸

安来市　原煩悩児

良い事だけ自分好みの日記帳
秋のバラ紅葉の側でそっと咲く
健診の日が近付くと胃が痛む
子の結婚大雪溶かし晴れ晴れと

玉野市　片岡富子

段々とひとり歩きが好きになる
じんわりと割り込んでくる認知症
娘が出きて孫出き曾孫連れてくる
風上に向いて泣き真似上手くなる

美作市　大杉敏夫

不器用な夫婦紡いだ五十四年
松園の婦像生きざま重ね観る
嗚呼乳房女はかくも美しき
会わせたい人が居ますと孫のTEL

竹原市　土井輝恵

決心はしても決行まだ揺らぐ
月光に霜キラキラと里の道
あの人は見たことあるが名が出ない
寒い日は熱燗一本妻と飲む

竹原市　六田半徳

プライドを剥がすと大人しい素顔
今度また飲もうと二年飲んでない
本心を言わぬ人間欲深い
ノーマークですが気になる楷書体

三原市　笹重耕三

よく動く元気な母のあとを追う
月命日亡父も喜ぶ花多く
白黒の写真の父は好男子
手相では私の寿命終わってる

山口市　青木隆子

まだ誰かを待ってるらしい風の駅
マフラーをなびかせながら冬を舞う
忍者屋敷の仕掛けにはまる幻想夢
遠い海鳴り傷口にまだ触れる

山口市　中前幸子

山口市　増田　めだか

やさしさに時には甘え生きて行く
地場産で村起こしするやき芋屋
秋の空夕日の中に立つ案山子
おめでとう内定ですかいい笑顔

岩国市　上村　夢香

マウンドに頭を垂れて去った人
再スタート一歩の重み噛み締める
ベテランと若手のコンビ燃える赤
色々なボール黙ってキャッチする

下松市　有海　静枝

やる気でも水無川にある水車
若かったパーツも少しずつ摩滅
猫は猫　従順犬の振りも無理
捨てる愚痴わかるわかるの人選ぶ

松山市　近藤　修二

真実の恋でも打算あるだろう
肚の中吐き出せばいい芋ロック
よく学ぶ人は謙虚になっていく
信じれば本気で光る模造品

松山市　柳田　かおる

しなやかな芯を持ってる秋桜
目立ってる電車で読書してるキミ
自分への物差しひいきしてしまう
ミトコンドリア増やしています速歩き

高知市　三谷　松太郎

希望の字消しては書いて傘寿来る
ずっと半作アバウトだもの
うんさすが短編だよね五七五
吼えてきた一人のオトコ目に浮かび

北九州市　小松　紀子

待ちくたびれ歩きだしたらバスが来た
二〇年バースデーカードくれる婿
こつこつとこなしていけばみえる夢
食べてほしたわわな柿の祈りとも

福岡県　本田　さくら

秋の山鹿のさびしい声がする
また地震地球が悲鳴あげている
秋風がイヴモンタンを連れてくる
久しぶり星空をみる父母に逢う

佐賀市　清水園　實

夕食は宅配弁当感謝して
昔見たテレビたのしむ時代劇
イヤホンも毎晩耳に深夜便
ドラフトも即戦重視ジャイアンツ

唐津市　吉冨　節子

三カ月元気でいれば九十歳
無くしたと思った財布電話横
孫達も今はスマホでおとなしい
孫達の宿題見るもボケ防止

秋月夜貴女恋しと酔いつぶれ
黄金の稲穂収穫終わりけり
つるべ落とし気持までもが暗くなり
身構える余裕もって毎日を

山鹿市　中山好汰

新米に舌鼓打ち胃をこわし
虫でさえ野菜の味を食い分ける
若いネ電話の声をほめてくれ
不器用は親ゆずりですと言い返す

山鹿市　前田幸子

踏まれても意地の強さで立ち上がる
向かい風柳のように揺れてみる
まずは目で一矢を放つ指相撲
紅をひき鏡にニコリごあいさつ

豊見城市　下地順子

百均で浮かれて買った謎の品
肩書きをはずして軽い名刺刷る
水たまり空を捉えて絵を気取る
めりはりが足りない日々に胡椒振る

那覇市　前川真

学舎に咲くすいれんの秋日和
人は我が身がかわゆいと思い知る
幼児の運動会に出番あり
マラソンの視覚障害ガイド付き

沖縄県　いのりキヨ

ついに来た無い袖振ったツケ回る
美人知事長の一刺し都乱
先ずトライ結果後からついて来る
下積みが現在地点支えてる

沖縄県　高良秀光

優しさが温もりを積み丸くなる
頑張ってがんばっている私です
手作りの門松飾り福は内
門灯が赤赤赤と家族待つ

沖縄県　宮すみれ

理想論ばかり並べて夢を売る
指差呼称ＡＴＭに笑われる
地図にない道まで探す僕はナビ
猿の棲む村に生えてる百日紅

弘前市　吉川ひとし

電球を息子が換えた敬老日
庭の草やさしくなって夏終わる
墓洗う亡妻は四十四のまま
一人分研いで深夜便と寝る

白河市　鈴木たけし

予告

第23回　川柳塔まつり

平成29年10月7日(土)

新川柳鑑賞 (59)

麻生　路郎

住吉さん一ケ所だけへあけておき

（多久志）

住吉大社へ参詣して一カ所だけへ賽銭をあげたというので、何んの変哲もない報告川柳のようではあるが、決して報告川柳に終っていない。淡々と詠んではあるが一市井人の心の動きをアケスケに表わしているところが実に面白い。味読すると神社に対して世間並みに親しみは持っているが、清い信仰からの参詣でないことが、「住吉さん」という語と「一カ所だけへあげておき」という表現から類推することが出来るのである。関西人は「住吉さん」「戎っさん」と神社に対しても極く心やすい言葉で言い表わすが必ずしも深い信仰がある訳ではない。沢山な末社があっても、たいていは失敬しておくのである。この句、庶民心理を忌憚なく解剖しているのが面白い。

神も佛もあるかと戦後から變り

（日　満）

肝心のところで神風も吹かずに国は破れた。お守り札も一こうきき目がなくて多くの戦友は白骨となった。そうした事実を眼のあたりに眺めたので、戦後は神も仏もあるものかという心境に変ったのである。奇蹟的に帰還した人たちで、こうした心境になっている人たちも尠くはなかろう。

掌へのる姉となり南無阿彌陀

（十　悟）

しんみりとした句である。この句一読すると、身うちがジーンとする。作者の実感を詠んだものであろう。迫真力の強さがそれを物語っている。掌へのる姉とは言うまでもなく、お骨になった姉と言う意味であるが、川柳語として垢抜けのした表現である。

お燈明消えたくるわの稲荷さま

（麦太楼）

売春はなやかなりし頃の遊郭のお稲荷さまには商売繁昌を祈願して或いは又思うお方と一日も早く添われることを祈ってのお燈明の絶え間がなかったのであるが、売春禁止で転業後のくるわのお稲荷さまへはお詣りする人の影さえなくなったことを詠んだもの、栄枯盛衰は人の身の上ばかりでないことを思わされたのである。

折伏に来たとは知らずおいでやす

（晃）

新興宗教の創価学会の信徒が折伏（しゃくぶく）に来た。折伏というのは従来その家に伝わる宗教をやめさせるだけでなく、神具、仏具等一切の物を強制的に焼却せしめるというので世間から随分と怖れられているのに、折伏に来たとは知らぬものだから、あっさり「おいでやす」と迎え入れたというのである。知らぬが仏で、歓迎出来ぬ折伏へ、さも気やすく、「おいでやす」と言った下五のムジュンを面白く感じたのである。

御無沙汰の間に石碑宿替し

（堰　子）

生活に忙しいので先祖のお墓参りもせず、お寺へもスッカリ無沙汰をしているうちに、お寺が戦禍で焼けたり、都市計画で墓地の移転があったりしたので、いつの間にか石碑が宿替していたというのである。実に長い時間的な句である。

永久的なものと思っている石碑がいつの間にやら宿替したというところに微苦笑を催させる句である。

極楽で合えば過労で死にました

（梅　志）

誰も死んだら極楽へ行けるものと決めているのも面白い。極楽で会ったら、私は過労のために死にましたと、シャバでは人一倍に働いたことを言っているのである。人間というものは極楽へ行っても人間らしい見栄や自慢を捨てきれぬものらしい。この句はきびしい今の世の現実を空想化して詠んだところに興趣の尽きぬものがある。

橘高薫風句抄

（『橘高薫風川柳句集』平成十三年発刊）

叱られて子の部屋にまだ火が点かず
合格の朝 お隣の前も掃き
新学期 少しがたつく椅子もあり
遠足の帰りはみんな無口なり
先生に床屋の順をゆずるなり
通信簿 父が真顔になってくる
実力でした合格と子は思い
小遣いが切れるとうちにいる息子
血を分けたわが子にしては覇気がなし
夜の茶漬け パパは象牙の箸鳴らし
地震にも煙草を喫うておった父
父親になっても膝を抱く癖が
欲のない父を家中して案じ
父の手の太さは手品にはむかず
ベッドから落ちたを父はひたかくし
氷割る手つきぶざまな男親
父と来て ずっと風呂敷持たされる
父親の財布の中味嘗て見ず
春らしいものに紋白蝶の紋
獲物の大きさに 蟻 うろたえる
行き先はアルサロだったとは 蛍
家中の一番涼しいとこに 猫
無器用な猫だ また骨立てている
使用人と主人の区別 猫も知り
やはり雑犬 道草ばかり食い
水際にシェパードがいて黄昏る
立話 長うて犬も坐り換え
余生送るように 水族館の鯛
籠の鳥 とらわれの身の顔してず
七面鳥 その風格が聖者めき

誹風柳多留一二篇研究 43

石川道子・小栗清吾
細井龍夫・伊吹和男
山田昭夫
清博美

347 **大一座内をあんじてしかられる**

石川 何かの折り、大きな気になってか、むりやりに同行させられてか、皆と一緒に繰り込んだものの、一瞬家のことが頭をかすめつい、女房が…などと口に出てしまい、なにをいまさらと仲間に叱られた。

大一ヂ座おふぜうつくめ弐三人　安七桜4
上下でむこハうぢ〳〵するはかり　明六桜2
いよかゝあ思ひと土手でわかるなり　明六桜2

清 賛。

348 **げんじゆつを遣て手代ぬけて出る**

石川 夜、人の目をくらませて手代が外出。まずは番頭の目か。あたかも寝ているように細工してこっそり遊びに行くのであろう。

寝所へ細工を仕かけ手代ぬけ　傍四37
にせ首にかぼちやをしたと土手てい、　明六桜3

清 賛。

349 **荒神のおまへをみれハ下女ねむり**

石川 荒神は竈の神様。竈祓をして荒神の札を張っているが、その前で下女が居眠りをしている。

娵の下女いかいたわけな居眠リし　明三宮3
荒神をかけてと下女ハ実をいゝ　明四礼10

清 賛。

350 **取次の四五文落とす気のとくさ**

石川 来客の取り次ぎに出た玄関番のふところから四、五文落ちた。小博打でもしていたのが急な来客であわてたのであろう。

物もふにどふれくと二もく打　六32
取次ヰのたすきをはづす安玄関　安元仁3
しよき見まひ取次はだを入レて出る　明八仁2

清 賛。

351 **よの舟でみればやつはりたゞの恣**

石川 浅草御蔵の隅田川端に「首尾の松」があった。ただし、吉原行きの猪牙舟から眺めれば今日の首尾はと、いかにも首尾の松であるが、そうでない舟からみればヘンテツもないただの松である。

ちよきまてといふやふに松を出し　天五信5
ちよきどこへ行クといふよな松一ト木　天六8 25

清 賛。

352 **娵の着かへるをのそくとちゝむなり**

小栗 初々しい嫁の生態を詠んだそのままの句であろう。着替えているところを覗かれようものなら、「きゃっ」と叫んで手足を抱えるように身を縮めるのである。

すわつて、娵ハ着かへてずつと立　一三17

清 賛。初々しい嫁。

353 **ふたん着て番頭ゑらい事をする**

小栗 ここで「えらい事」は花街での遊興のことだが、番頭が普段着で遊興するのは「深川」と特定してよかろう。仕事のふりで普段着のまま外出し何食わぬ顔で遊ぶ番頭あたりが、深川ではまず上客である。

つね躰のなりてはんとうとらを打　拾二19

新川とごうし伴頭深ィ川　六41

ずつと来たなりでふか川もてる也　安六宮1

清 賛。類句①そのもの。

354 **しろものと見えてさじきに目立也**

小栗 「代物」には多義があるが、「日国」に「②遊女、また年頃の美しい女」とあって主題句を引用しているに従う。この場合は遊女の方であろう。遊女は籠の鳥ではあるが、客に芝居見物に連れて行って貰うことはあったようで、いくつか類句もある。さすが桟敷にいても目立つ存在である。切り落としにいる連中が「ありゃあ、素人風にしているが代物だぜ」などと見上げたりして。

けいせいのくつきり目立ッ桟敷也　玉7

はきなれぬ足袋と桟敷へぬひて置　明五松2

清 賛。なまめかしい美しさとでもいうのであろう。

355 **むこい事らりようの袖へ鈴をつけ**

小栗 羅綾は、「うすぎぬとあやおり。また、上等の美しい衣服」(『日』)。

亡くなった娘の振袖を天蓋に仕立てて寺へ納めるという類句多数の一。贅説は不要であろう。

ろうかひのぬけからへ鈴付ケるなり　安九智2

振袖へ鈴を付るとあわれなり　三九27

清 賛。

356 **あの人とそしてたれだと下女が母**

小栗 下女が妊娠してしまったが、複数の男と関係があったので父親が確定できない。母がやって来て「あの人と、それから外に誰だ」と問い詰めている様子。どの男も逃げてしまって、無駄な努力になること必定ではあるが……。

輪姦の犯人捜しと取れないこともないが、そういう悪い奴は「あの人」などとは言うまい。

下女のはら心あたりが弐三人　二一9

清 賛。

357 **気の知れぬ客かんざしをぬいて寐る**

小栗 遊里句。「気が知れない」は「日国」に「こちらに相手の気持ちがわからない」とあるが、要するに、まだ馴染んでいない、素性が今一つはっきりしない客をいうのであろう。相方の遊女が、盗まれぬ用心のため簪を抜いて寝所へやって来るというのである。

清 賛。洒落本『傾城買四十八手』から、(禿に向かって)コレサこれをしまつてのそして着かへてモウやすみや(割註)「トくしかうがいをぬきみす紙へつゝみわたす」。

英語 de Senryu⑥1

麻生路郎句集『旅　人』

英 訳　吉村　侑久代　Kim Horne

畳も匂い初刷りも匂い

new Tatami has
a fresh good smell,
first printing publication, too

畑の中　父の姿のありがたし

in the field
thankful for my father's figure
plowing up roots

---

smell 匂い　*printing* 印刷　*publication* 出版物　*field* 畑　*thankful* ありがたい　*father's figure* 父の姿　*plow up roots* 根をすき返す

～リバーウィローのため息～世界の川柳・俳句　①

24 回にわたって R.H.Blyth の *SENRYU*（北星堂書店 1949）から、禅仏教を背景とした彼の川柳観を取り上げてきました。230 頁にもなる *SENRYU* のかなりの部分を紹介しました。これからは「世界の川柳・俳句」と題して現在海外で作られている川柳や俳句を紹介していきます。はじめはアフリカの超最新の川柳・俳句の動向です。2016 年 10 月にガーナの詩人であるセレスティン・ヌダヌ（Celestine Nudanu）さんから、ガーナで初めての俳句集、『ハイク・ラプソディ』*HAIKU Rhapsodies-Verses from Ghana* が送られてきました。予てより南アフリカの俳句詩人との交流はありますが、ガーナの詩人の作品に触れるのは初めてです。作品の完成度の高さに驚き、これは日本に紹介しなければと思いました。彼女に連絡を取ると、早速川柳作品を送ってきました。ガーナの俳句雑誌 *Failed Haiku*(2016) に掲載された川柳作品です。日本語の拙訳をつけました。

insomnia/ I pick up the sound/ of a fallen leaf (不眠症よ落ちる落葉の音拾う)

morning ritual/ I sip my coffee/ with the breeze(風のなかコーヒーちびちび朝の習わし)

roadside beggar / among the coins/ a cherry blossom(路傍の物乞いコインの中に桜花)

eightieth birthday/ mother' s missing tooth/ nestled in the cake(傘寿のお祝いケーキの中に母の抜けた歯)

川柳の題材は人間の暮らしや喜怒哀楽にあり、万国共通と云えますが、ガーナ特有の風土を川柳に生かした作品は刺激的です。アフリカの川柳・俳句は今、燃えています。

追悼

春城　年代さんを偲んで

奥田　みつ子

年代さんのご主人の春城武庫坊さんが亡くなられたのは、平成二十年八月三十一日でした。その時は川柳の皆さんと揃ってお見送りをしましたが、このたびは少し遅れてのお知らせでした。武庫坊さんの亡くなられた時も追悼文を書かせて頂きましたが、お二人は幼稚園からの仲良しさんで、その時の塔誌を開いてみますと、「八〇年以上のお付き合いということになりますね」とあります。名実ともにおふたりは〝おしどり夫婦〟で、周りの人たちを明るく楽しくしてくださいました。

その頃の年代さんの句を書かせて頂きましょう。（二十年九月～二十一年二月）

京の六月今年もみなづき無事に食べ
茅の輪くぐったこともふたりの語り草
チョコレート病夫にひとつ握らせる
振り向いてかけがえのないこの世なり
酸素吸入へだてている沈黙（武庫坊みまかる）
やぎ座のひとりさっと消え去る夏の果て
夫婦茶碗ずっとこのまま並べとこ
カーテンコール今ひとたびを願うのみ
ひとりの道を辿るよすがに句と遊ぶ
生まれ来てもっとも辛いお正月

どの句にも年代さんお一人のシーンはあまり見られず、いつも武庫坊さんと笑ってお話ししておられるお姿が浮かんできます。

さるすべり何も言わずに散りました
斎場のあっけらかんとそっけない
片棒をかついでくれた六十余年
あなたの名がはじめて書いてある日記
あの世とやらに待ち侘びている君想う
娘と二人公園ベンチ花吹雪
ひとり寝をからかうように秋の雷
気兼ねなく演歌聞いてる仏の前
白線の制帽あざやか眼裏に
右脳から助け船出る夏の終り
忌が明けてぽつんと菊の薫る部屋
この家に夫と生きた歳月よ
晩年の年代さんの作品を覗いてみましょう。

平成二十八年一月号二月号から。

帰らぬ日々おもい巡らすつわの花
大正を引きずっている命かな
九十五歳はこんなものかと納得す
亡夫の影に守られている生きている
「冬景色」唄えば幼い日がもどる
伏見人形稲荷人形ふるさとは

年代さんは現代川柳「点鐘」の会員でもありましたが、急に投句が止ったことを主宰の墨作二郎さんもご心配されていたそうです。

いつもいつも、何処へいらっしゃるのも武庫坊さんとご一緒の年代さんでした。お独りになられて、どうなるのか心配していましたが、お近くにお住まいの次女さん、東京にお住まいの長女さんに支えられて、大変お幸せな生涯だったと思います。今頃は天国で武庫坊さんと川柳を楽しまれていることでしょう。

合掌

平成二十八年年七月十八日逝去
享年九十五

愛染帖

新家　完司　選

（投句　284名）

意見なら修正液の下にある

（評）率直な気持を書いたが「いや、待てよ」と思い直させたのは甲羅を経た処世術。修正液の下に隠された本音が疼いている。

寝屋川市　岡本　勲

ルンルンの鞄キップが出てこない

（評）久しぶりの旅行にルンルン。だが、切符が雲隠れ。鞄のどこかにあるのは間違いないのだが…、焦れば焦るほど出てこない。

岡山県　田中　恵

時代劇聞こえなくてもよく判る

（評）二十一世紀になっても勧善懲悪の大筋は変わらぬ時代劇。耳が悪くなってセリフが聞き取りにくくなってもよく理解できる。

香南市　桑名　孝雄

机の前に座ると眼鏡拭いている

（評）何事もウォーミングアップが大切。机に向かうと「まず眼鏡を拭いて」がルーチン。だが、なかなか次へ進まない。

貝塚市　石田ひろ子

ノーベル賞より役に立つ貼るカイロ

（評）将来人類の役に立つ基礎研究。などという遥かなことより、貼るだけで暖かくなるカイロのほうが有り難く役に立っている

堺　市　奥　時雄

やきいも器買う買わないでもめている

（評）「♪い～しや～きいも～」と同じように焼けるという調理器。平和な国の仲の良い夫婦の揉め事。ごちそうさまでした！

桜井市　安土　理恵

喫煙に厳しい禁煙成功者

（評）プカプカ喫っていたクセに、エラソーに言うのは「禁煙に成功した」という自信だろう。当分うるさいことである。

大阪市　髙杉　力

若き日のミンク擬きが捨てられぬ

（評）乏しい小遣いを貯めて、思い切って買った「ミンクもどき」。あの頃の自分が懐かしくていじらしくて…、とても捨てられない。

岡山市　藤成　操江

指先と爪先にもう冬が来た

（評）歳のせいなのか、まだ秋というのに手と足の先が冷たい。散歩など軽い運動をして、全身が冷たくなるのを遅らせよう。

堺　市　遠山　唯敎

最後にと病人も来る忘年会

（評）「今生の名残りに…」と病床を抜けて来たのだろう。しんみりは失礼。ガンガン注いで「心置きなく逝け！」と激励してやろう。

羽曳野市　中川ひろ介

宿なしの雀地震に驚かぬ

倉吉市　牧野　芳光

包帯のブルーシートはまぶしすぎ

鳥取県　斉尾くにこ

「明暗を分けた」墓所にも震度6

鳥取県　門村　幸子

避難所は満員ひとり家に居る

倉吉市　岡﨑美知江

地震ない町探してる虫めがね

寝屋川市　伊達　郁夫

川柳と右脳左脳に効くお酒

神戸市　細川　花門

献立と川柳メモる台所

河内長野市　木見谷孝代

浮かんだら四の五の言わず書いてみる

八尾市　村上ミツ子

句会日を指折り数えラララララ

堺　市　大和　峯二

生き方をどう変えようか八十路すぎ

京都市　櫻﨑　篤子

つるつるもぷるんぷるんもあった過去

香芝市　大内　朝子

ジョーカーを引いてしまったUSA

堺　市　村上　玄也

追い風はもうないものとして歩く

寝屋川市　籠島　恵子

三田市　上田ひとみ
夫より忘年会に忙しい

大阪市　栃尾　奏子
アナタより貯金が好きな私どす

松江市　石橋　芳山
嫌われたところで僕はぼくだから

奈良県　安福　和夫
下手な字は妻の音痴とええ勝負

箕面市　出口セツ子
イヤリング六十路過ぎても揺れ続け

笠岡市　藤井　智史
制御不能死んでもマイク離さない

佐賀県　真島久美子
愛唱歌ＡＫＢとなる老後

沖縄県　森山　文切
言い訳をさせてくれない閻魔帳

西宮市　緒方美津子
天と地を混ぜて焼酎飲んでいる

宝塚市　田中　章子
朝礼で力不足と言わされる

三原市　笹重　耕三
口論を立ち読みしつつ聴いている

田中　章子
あるあるある夫の前で言えぬこと

三原市　鴨田　昭紀
井戸端は好き演台は大嫌い

大洲市　花岡　順子
ちょっとしたことで倦怠期の小言

神戸市　奥澤洋次郎
カルテには酒は飲むなと書いてない

奈良市　大久保眞澄
落とし穴ないと信じてウォーキング

河内長野市　中島　一彌
切手まで気をつかい書く見舞状

河内長野市　山岡冨美子
細長くひ弱い平成の手足

池田市　上山　堅坊
中国産と書いてあるから疑わぬ

櫻原市　居谷真理子
うつむいて歩く頭へカラスのふん

松原市　森松まつお
遺影写真の幟はためくフォトショップ

豊中市　松尾美智代
雨の日はどこへも行かずヒゲを剃る

堺　市　澤井　敏治
たこ焼をつついてトランプの話

東かがわ市　川﨑ひかり
雑踏に溶け込んでいる中国語

羽曳野市　吉村久仁雄
賞味期限に挑戦をする舌の先

羽曳野市　宇都宮ちづる
作ろうよ小鳥も歌う新国歌

藤井寺市　鈴木いさお
銭湯で見る赤子から老婆まで

枚方市　小林　わこ
西洋のお方は食卓にもナイフ

米子市　竹村紀の治
カラオケに来ても静かな人だった

大阪市　田中ゆみ子
美人だが箸の持ち方気にかかる

奈良市　加門　萌子
木枯らしが吹いて扇風機を仕舞う

弘前市　高瀬　霜石
孫スマホ童謡歌うおばあさん

京都市　都倉　求芽
ロコモティブシンドローム呆けてきたけどまだわかる

鳥取県　石谷美恵子
形状記憶赤ちょうちんが吸い寄せる

孫一人爺婆四人七五三

ニュースだけ流して欲しいＮＨＫ

討論会テロップなしでテレビ切る

手を上げるだけの反対ならできる

お身拭い仏の螺髪右回り

肯定的に言うぜんぜんが耳慣れて

しきたりの溜まり小石を投げてみる

百均の茶碗七年使ってる

要領の悪さ汗だく評価され

クリックポンしたら届いた衝動買い

有識者と呼ばれています町内で

遠回り逢いたい人が待っている

家中を蠅一匹とゲリラ戦

まだ出来ることを数えて生きていく

岡山市　丹下　凱夫
熱燗か冷やかで迷う文化の日

松山市　栗田　忠士
ゴーサインもらって今日の祝い酒

尼崎市　市坪　武臣
反省会枝道に逸れ飲み会に

箕面市　広島　巴子
飲み会でカニの赤さと競い合う

豊中市　水野　黒兎
充電のはずが放電縄のれん

和歌山市　武本　碧
止まり木で君とガソリン補給する

男鹿市　伊藤のぶよし
盗み酒定年なくてやめられぬ

大阪市　平井美智子
休肝日なのに絡んでくるお酒

弘前市　稲見　則彦
偏頭痛なんかじゃないと迎え酒

枚方市　海老池　洋
ひどい冷え口実にして寄る飲み屋

三田市　谷口　修平
百薬の長でも保険きかぬ酒

豊中市　藤井　則彦
ありがとうごめんも言えず独り酒

弘前市　今　愁女
缶ビールもグラスで飲めばリッチなり

茨木市　藤井　正雄
晩酌へ贔屓チームが勝つテレビ

弘前市　吉川ひとし
一升瓶余韻残したまま眠る

堺　市　内藤　憲彦
下戸だけどマイク握ればプレスリー

米子市　後藤美恵子
グルメレポやけに肥満が気にかかる

大洲市　中居　善信
羽子板も破魔矢も遠い物語

大阪市　津村志華子
蜜蜂の稼ぎをパンに塗っている

大阪市　長髙　俊雄
夭折の友紅顔のまま生きている

紀の川市　楠原　富香
時々はわくわくしたい土踏まず

鳥取市　夏目　一粋
ノミ・シラミついに絶滅種になった

和歌山市　玉置　当代
秋の天杖を頼りの歩数計

神戸市　山口　光久
駅裏に話の分かる地蔵さん

大阪市　古今堂蕉子
また鍋か言われてもいい冬はなべ

富田林市　中村　惠
湯気の立つ鍋からほっこりを掬う

沖縄県　島尻　卓
非常ベル鳴りっぱなしのこの地球

鳥取市　奥田　由美
蝶になる平均台の宙返り

東京都　川本真理子
自転車をこぐ背に坂が好きとある

弘前市　福士　慕情
立ち止まる蟻にも迷いあるらしい

防府市　坂本　加代
丁寧に最後の色を塗っている

唐津市　坂本　蜂朗
行き届く親が離陸の邪魔をする

岡山県　紫　しめの
大金をかけて消してる笑いジワ

倉吉市　大羽　雄大
キリキリと青筋老いの自尊心

芦屋市　黒田　能子
なんだかんだ言っても頼り合っている

高槻市　原　洋志
少しずつ塩辛くなるロスタイム

長岡京市　山田　葉子
コロコロ転がって行くとこまで行こう

紀の川市　辻内　次根
スイッチオフおんなじ顔が食っている

山口市　青木　隆子
柿簾吊るせば友が訪ね来る

橋本市　石田　隆彦
上品さ欠ければただの厚化粧

鳥取市　西川　和子
血圧よし脈は正常口は過ぎ

福井市　伊藤　良一
退職し水掻きいつの間にか消え

熊本市　杉野　羅天
車満員焼き肉食べに行くのかな

那覇市　前川　真
激辛に慣れて迷子の舌になる

八王子市　川名　洋子
堂堂とすると金持ちらしくなる

豊橋市　藤田　千休
家長の座生前退位迫られる

岡山県　山縣のぶ子
気配りに徹した母の割烹着

鳥取県　竹信　照彦
椎の実やムカゴ子や孫見向きせず

和歌山市　古久保和子
もしかしてと角度を変えて見る鏡

高槻市　片山かずお
弱腰を優しいのねと褒められる

貝塚市　吉道あかね
残り時間数えへそくり使わねば

横浜市　菊地　政勝
生産者氏名に野菜胸を張る

岡山市　永見　心咲
割高なカット野菜が安く見え

米子市　生田　和之
飴玉もスルメも友のバス旅行

大阪市　森　廣子
神々が降りて神楽の笛を吹く

弘前市　高森　一呑
目覚めれば隣に妻でほっとする

鳥取市　岸本　孝子
喋って笑う金のかからぬ惚け薬

尼崎市　山田　耕治
私が捨ててあげよか要らぬもの

大阪市　大川　桃花
独り身になって卒寿が弾けてる

堺　市　坂上　淳司
扇風機とストーブ同居させて秋

三田市　村田　博
紅葉になれば信心深くなる

東大阪市　北村　賢子
それなりに私にあった生きた価値

河内長野市　村上　直樹
爺ちゃんのお嫁になると言われても

大阪市　柴本ばっは
祖父が居る限り我が家は紀元節

三田市　堀　正和
水入りをしばらく見ない大相撲

藤井寺市　田付　絹枝
流行語解った振りで笑み返す

大阪市　坂　裕之
悪口に負けない自信あるつもり

紀の川市　宇野　幹子
二円切手忘れて愛が舞い戻る

米子市　成田　雨奇
散髪屋黙れと口にぬれタオル

瀬戸内市　宮宅比佐恵
下流でも遊んで食べて寝ています

枚方市　丹後屋　肇
十二月八日を語らないメディア

寝屋川市　森　茜
巻き爪を切って下さる老ドクター

池田市　太田　省三
合コンの席で四季報チェックする

和歌山市　土屋起世子
二度咲きをしよう黒髪のこってる

明石市　糀谷　和郎
負けた人の気持は負けてよく分かる

奈良市　阿部　紀子
かやくごはん外国の人並んでる

大阪市　大治　重信
決めかねて脱いだ着物に袖通す

三田市　福田　好文
同窓会三年同じ服で行く

大阪市　若本　安代
食べながら痩せる番組見て食べる

奈良県　谷川　憲
裁判員二審で変わり報われず

富田林市　中井　アキ
言い勝ってみたいと買ったヘアピース

川西市　山口　不動
ハローウィン何のことやらお化け共

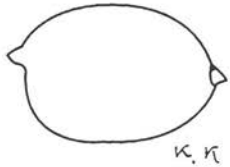
三木市　山口ヨシエ
淡淡と笑顔ぶらさげ生きてゆく

松戸市　山下　明子
ラケットを振る私見て彼岸から

共選欄　檸檬抄

（薫風書、カットとも）

（投句　362名）



「価　値」　北野哲男選

価値観の似てきた人と見る夕陽　藤井寺市　太田扶美代
価値観の相違を埋める思いやり　鳥取市　谷口回春子
価値観の違いは和して老い二人　大阪狭山市　矢野　梓
価値観の相違あっても二輪草　塩竈市　木田比呂朗
価値観の相違息子とぶち当たる　大阪市　寺井　弘子
親バカと親の愛とは等価です　鳥取県　斉尾くにこ
九条の価値を心に刻まねば　京都市　清水　英旺
難民見て平和の価値を思い知る　大阪市　平賀　国和
世界には平和に優る価値は無い　奈良市　加門　萌子
平成の世の価値観が揺れ動き　吹田市　木下　敏子
非常口価値がなかった大地震　弘前市　今　愁女
価値観の違いトランプさんが勝ち　大洲市　中居　善信
アドバルーン揚げた都知事へ問う真価　尾道市　大本　和子
FAで自分の価値を問う選手　南あわじ市　萩原　狸月
二十億蹴って黒田のカープ愛　広島市　岸本　清

「価　値」　安土理恵選

どれぐらい価値があるのかマイナンバー　鳥取県　児玉　規雄
肩書も退社をすれば価値が無い　大阪市　奥村　五月
異端児に託した未来変わる価値　羽曳野市　中川ひろ介
アメリカの価値を保てよ大統領　大阪市　若本　安代
ノーベル賞努力の価値が報われる　寝屋川市　冨山ルイ子
一筆を添えて賀状の価値を上げ　松江市　中筋　弘充
学歴で決めてはならぬ人の価値　鳥取市　岸本　宏章
酔眼の正論軽い軽い価値　富田林市　山野　寿之
一円は無くては困る金の価値　沖縄県　宮　すみれ
居るだけで空気安らぐ母の価値　大阪市　寺井　弘子
価値観の違い穴あきのジーパン　藤井寺市　鈴木いさお
お金には代えれぬ価値を持つ笑顔　大阪市　平井美智子
父の樹を揺すって価値を確める　大阪市　津守　柳伸
あなたには軽石わたくしには貴石　青森県　松山　芳生
僕の価値ぼくより他人知っている　弘前市　福士　慕情

妻だからあなたの価値を知っている　豊中市　池田　純子
妻だけが認めてないな俺の価値　香南市　桑名　孝雄
失くしたく無い物がある幸福度　堺　市　矢倉　五月
贋作もお気に入りなら価値がある　芦屋市　竹山千賀子
古箪笥価値があるのやないのやら　河内長野市　黒岩　靖博
本物でなくても私には宝　犬山市　金子美千代
愛着という価値観で捨てられず　八尾市　宮﨑シマ子
古本は僕には宝妻はゴミ　大阪市　川端　一歩
万巻の書より君との一頁　橿原市　居谷真理子
一枚の絵で百軒の家が建つ　紀の川市　山東日出男
当り前の暮しの価値を思い知る　香芝市　大内　朝子
死んでから価値ある人と言われても　箕面市　大浦　初音
先生の価値は生徒に聞けばいい　唐津市　坂本　蜂朗
価値観を目からうろこの遍路道　松戸市　山下　明子
健康で生きて長寿の価値がある　鳥取市　岸本　宏章
価値価値と言うが無という価値もある　松山市　宮尾みのり
尊厳の一字に込める人の価値　松山市　栗田　忠士
引き際を逃がし男の価値を下げ　高槻市　富田　美義
柿渋の価値を見つけた日本人　池田市　上山　堅坊
恐竜の糞の化石ってどうなのよ　篠山市　長谷川善輔
保険屋が値踏みしている僕の価値　神戸市　山﨑　武彦
ボクの価値年金額が示してる　大阪市　江島谷勝弘
家族五人自転車五台並ぶ価値　大阪市　柴本ばっは

価値観が違って長い友でいる　羽曳野市　吉村久二雄
百均は大いに利用価値がある　和歌山市　楠見　章子
価値観を変える一冊との出会い　横浜市　川島　良子
種蒔いて育てる苦労知った価値　和歌山市　北原　昭枝
良く働き世話を掛けない老いの価値　大阪府　小栢こずえ
上中下わたしの価値を自問する　鳥取県　西谷　悦子
小さくても子には価値ある乳二つ　河内長野市　木見谷孝代
愛着という価値観で捨てられず　八尾市　宮﨑シマ子
価値のある一打が皆を黙らせる　奈良県　安福　和夫
手作りという付加価値で売る手前味噌　島根県　伊藤　寿美
欲深い心が惑い価値読めぬ　河内長野市　藤塚　克三
しっかりと一円玉の守備範囲　紀の川市　辻内　次根
価値のある男はいつも影武者だ　鳥取市　谷口回春子
生きる価値落ちた木の実が語り出す　奈良県　渡辺　富子
この世に僕 存在価値を自問する　東京都　川本真理子
欲が出たとたんに価値がふわり浮く　和歌山市　武本　碧
真の価値受給で決まる時もある　奈良市　宇賀　史郎
喋るほど男の価値が目減りする　松江市　石橋　芳山
妻だけが認めてないな俺の価値　香南市　桑名　孝雄
今はもう荷物になった一戸建て　河内長野市　村上　直樹
象と蟻いのちの価値はみな同じ　男鹿市　伊藤のぶよし
包丁とまな板価値を認め合う　岡山県　田中　恵
負けたって戦うことに価値みつけ　札幌市　小沢　淳

その笑顔百万ドルの価値がある　高槻市　富田　保子
ルーブルでモナリザ見た日の感激　西脇市　七反田順子
人間の価値を表わす友の数　玉野市　片岡　富子
虫の声いのち短きものの価値　鳥取市　夏目　一粋
一杯の水の尊さ知る渇き　枚方市　海老池　洋
価値あるものに価値あるものが寄ってくる　八尾市　村上ミツ子
象と蟻いのちの価値はみな同じ　男鹿市　伊藤のぶよし
生きている価値ある今日をありがとう　神戸市　奥澤洋次郎
負けたって戦うことに価値みつけ　札幌市　小沢　淳
半世紀前なら卒寿希少価値　池田市　奥園　敏昭
愛は横暴価値観までも覆す　岸和田市　雪本　珠子
価値観が同じ一卵性親子　和歌山市　森下よりこ
生きていて下さるだけでありがたい　堺　市　澤井　敏治
試薬飲む命の価値も運任せ　三田市　野口　晶子
討ち入りに武士の矜持の価値をみる　松原市　森松まつお
原石に価値を見出した試験官　札幌市　三浦　強一
闇市に金鵄勲章鉄かぶと　篠山市　長澤　喜弘
今はもう荷物になった一戸建て　河内長野市　村上　直樹
百均は大いに利用価値がある　和歌山市　楠見　章子

秀　句

その昔一銭五厘の一兵卒　鳥取市　児玉　則雄
徳積んで余白に価値のある暮し　三田市　上垣キヨミ
小さくても子には価値ある乳二つ　河内長野市　木見谷孝代

不器用もん同士の馬鹿正直がいい　枚方市　丹後屋　肇
古釘ながらしっかり役に立っている　藤井寺市　高田美代子
古民家の価値を知ってる床柱　山口市　増田めだか
そこに居るだけで価値のある親父　貝塚市　石田ひろ子
一円の価値積み上げる義援金　出雲市　小白金房子
男の価値やはり正義の拳いる　奈良県　谷川　憲
道楽は男の価値と見得を切る　豊中市　上出　修
価値観の違い泣く人笑う人　奈良市　米田　恭昌
他人には価値がわからぬ人と住む　京都市　三宅　満子
松茸を三本貰いうろたえる　篠山市　酒井　健二
駄斗紙を付けて菓子箱改まる　寝屋川市　籠島　恵子
大島が泣いていました古着屋で　鳥取市　福西　茶子
国家より吾が価値観に重き置く　堺　市　奥　時雄
この価値の尺度は僕の胸の中　松江市　小川　注湖
先生の価値は生徒に聞けばいい　唐津市　坂本　蜂朗
万巻の書より君との一頁　橿原市　居谷真理子
揺れ動く一ドルの価値円の価値　大阪市　森　廣子
ドーナツがドーナツであるための穴　西宮市　緒方美津子
ラーメンは汁まで飲んでこそラーメン　弘前市　高瀬　霜石

秀　句

討ち入りに武士の矜持の価値をみる　松原市　森松まつお
築百年 ルンバの価値を問うている　岡山県　紫　しめの
個人差がある一杯の水の価値　大阪市　田中ゆみ子

第31回 国民文化祭・あいち2016（11月20日）

本年度国民文化祭は愛知県「犬山市民文化会館」で開催された。
事前投句、高校生・一般の部は2,296名、小・中学生の部は12,897名、当日参加は755名。
大会各賞は下記のとおり。（太字は同人）

◎高校生・一般の部

文部科学大臣賞
話しかけないで原爆ドームです　東京都　おかの蓉子

国民文化祭実行委員会会長賞
粉塵を上げて男の葬が出る　愛知県　佐藤　文子

愛知県知事賞
せかせかと生きて無題の絵で終わる　岩手県　野口みのる

第31回国民文化祭愛知県実行委員会会長賞
もう好きにさせていただく四コマ目　愛知県　**金子美千代**

愛知県教育委員会賞
粉雪が郷を童画に塗りかえる　岐阜県　武藤　敏子

犬山市長賞
家族って溶け合うように粉チーズ　島根県　**石橋　芳山**

犬山市教育委員会賞
どんな絵も描けそう今朝の青い空　岐阜県　小林　映汎

全日本川柳協会理事長賞
新幹線母は日帰りしてしまう　宮崎県　黒木せつよ

愛知川柳作家協会会長賞
太陽はすべての者の目覚ましだ　大阪府　河野　夏美

◎小・中学生の部

文部科学大臣賞
ごめんねと言われてかえすいいんだよ　小5　難波　孔一

国民文化祭実行委員会会長賞
思春期の入り口ぼくの朝が来る　小6　柳岡飛邦人

愛知県知事賞
泣いた夜明日はきっと笑う朝　小6　江藤　魁晟

第31回国民文化祭愛知県実行委員会会長賞
おかしの国僕王様になりたいな　小5　安達孝太郎

愛知県教育委員会賞
口の中夢のお国のファンタジー　中2　岩村　夏佳

犬山市長賞
あいさつは元気もらえるあい言葉　小6　新中　優大

犬山市教育委員会賞
開戦だ理性と睡魔バトルする　中3　小林　弥聖

全日本川柳協会理事長賞
作文の最後あたりで誤字脱字　中3　飯沼　航也

愛知県川柳作家協会会長賞
友達はぼくにとっての宝物　小5　中本　航太

二次選者　大野　風柳・岡崎　守・佐藤　岳俊・天根　夢草・田中　新一

「古　い」

（投句　221名）

吉岡　修　選

古いなと言われぬように見るアニメ　堺市　矢倉　五月
幸せの過去が聞こえる古畳　和歌山市　武本　碧
未来への備え古書より学び取る　高槻市　島田千鶴子
ギアチェンジ古い頭を切り換える　大阪市　藤原千恵子
慣例はいつかは破る新時代　防府市　坂本　加代
休耕田祖父母の汗がしみている　紀の川市　楠原　富香
あたためてやったら喋り出す昭和　藤井寺市　太田扶美代
古典から新しい知恵探りだす　豊中市　水野　黒兎
ガラケーもばあばも古くないですよ　和歌山市　土屋起世子
片付けの手を止めさせる古写真　河内長野市　木見谷孝代
同窓会で焼棒杭に火が付いた　堺市　坂上　淳司
古井戸に昭和の水が澱んでる　豊橋市　藤田　千休
古切手貼ればまんまの値で悲し　羽曳野市　吉村久二雄
古女房だけど俺には宝物　鳥取市　山下　凱柳
兄のお古義姉を嫁に貰いうけ　鳥取市　池澤　大鯰
下着まで兄のお古を着た昭和　三田市　福田　好文
娘来て賞味期切れをみな捨てる　札幌市　三浦　強一
人間も古くなったら味が出る　米子市　成田　雨奇
梅干し張る頭痛の秘薬おばあちゃん　大阪市　柴本ばっは
自分でも顔赤くなる古日記　京都市　三宅　満子

句が載った古新聞は捨てられず　池田市　奥園　敏昭
原点は古い木造校舎から　吹田市　須磨　活恵
熱燗へにんまり亡父のいい笑顔　東大阪市　北村　賢子
ご神体はかなり年代物らしい　弘前市　福士　慕情
古いけど大和魂つらぬくぞ　鳥取市　夏目　一粋
しつけ糸つけたまんまで古くなる　鳥取市　山下　節子
夕刊の一夜明ければ古新聞　池田市　太田　省三
雑巾のようでも私の夫です　桜井市　安土　理恵
古くても万円札は一万円　枚方市　寺川　弘一
わたしは老いて息子は逞しくなった　弘前市　髙瀬　霜石
ずんどうのポストまがって銭湯へ　橿原市　居谷真理子
人生の賞味期限はいつですか　熊本市　杉野　羅天

佳　句

正座して夫を送り迎えする　尼崎市　清水久美子
ハンカチを落とす手管はまだいける　堺市　内藤　憲彦
枯れ花を土に還して礼を言う　海南市　小谷　小雪
母を着るリフォームをした形見分け　三田市　上垣キヨミ
かび生えた哲学持って日向ぼこ　奈良県　渡辺　富子

人

ゆるゆると老いて行くかと思ってた　河内長野市　穂口　正子

地

ポキポキと築何年と骨が言う　佐賀県　真島久美子

天

古いメール消してケータイ軽くなる　和歌山市　福井　菜摘

軸

持ち唄は一つ覚えのマイウェイ

「人　気」

（投句　216名）

栃尾奏子選

サザエさんまだ日本は日本で　紀の川市　辻内　次根
いつの日か人気の職にする介護　笠岡市　藤井　智史
真ん中に人気の天使居て平和　富田林市　山野　寿之
不思議だな愛想ないのが人気者　鳥取県　石谷美恵子
渋い顔それが貴方の人気です　倉吉市　岡崎美知江
人気者そんな時代もあったっけ　和泉市　横山　捷也
ノーマークいつのまにやら人気者　奈良市　山本　昌代
人気者嫌いな人も居るのです　宝塚市　丸山　孔一
ふる里の人気集める道の駅　鳥取県　山下　節子
人気には溺れはしない屋台骨　紀の川市　宇野　幹子
美人だな男次次注ぎに来る　熊本市　杉野　羅天
ブーム去り静かな時を取り戻す　東京都　川本真理子
天才だ大谷二刀流人気　三田市　堀　正和
勝敗問わぬ満席の甲子園　西宮市　緒方美津子
紅一点句会の人気一人占め　藤井寺市　鈴木いさお
人気のメロンよりもわたくし無花果派　西予市　黒田　茂代
ひらひらとあなたのまわり蝶が舞う　三田市　上田ひとみ
どうすればよい両親は人気者　京都市　櫻崎　篤子
アイドルも大統領も総選挙　防府市　坂本　加代
脇役に徹した芸は燻し銀　紀の川市　楠原　富香

ほんわかと接する人にある人気　池田市　上山　堅坊
なぜ好きか問われ理由を考える　三田市　谷口　修平
みんなから遅れないよう好きになる　枚方市　寺川　弘一
笑顔にはえがおの寄ってくる人気　香芝市　大内　朝子
人望のあつさが誹謗寄せ付けず　和歌山市　武本　碧
人気者ですがお金に縁がない　岡山市　丹下　凱夫
人気度は列の長さで知るそば屋　南あわじ市　萩原　狸月
脇役の人気はなだらかに続く　大洲市　花岡　順子
人気ある医師は眼を見て話し掛け　貝塚市　石田ひろ子
義理チョコヘディナーの誘いたんと来た　堺　市　矢倉　五月
不人気なやつが一番お金持ち　倉吉市　渋谷　重利
人気ない場所はお化けに人気ない　明石市　糀谷　和郎

佳　句

ＳＭＡＰは長持ちしすぎましたねえ　弘前市　高瀬　霜石
ペンライトの中で孤独な人気者　大阪市　田中ゆみ子
おっとりと人気あるうち輪を抜ける　三木市　山口ヨシエ
辛口を上手に混ぜる人気者　大阪市　坂　裕之
聴衆を鷲掴みする深い井戸　唐津市　坂本　蜂朗

人

みんなこの犬を撫でてく通学路　橿原市　居谷真理子

地

必殺の笑顔を持ってます私　佐賀県　真島久美子

天

挑戦者になろう拍手をもらうまで　伊那市　丸山　健三

軸

平成のクレオパトラになる私

初心者教室

題 ― 仲間

居谷 真理子

今月からこの欄を担当いたします居谷真理子です。「えっ、どんな人?」と思われた方は本誌同人吟をお読み下さい。（6頁）つけ加えますと柳歴18年。初心という大切なものをともすれば忘れがちになるこの時期に、皆様方と一緒に勉強させて頂けること、大変ありがたく思っています。どうぞよろしくお願い致します。

なお、句に対する私の提案は、添削でなくあくまでも参考としてお受けとめ下さい。

では、今回のお題「仲間」はもっと色々言い換えてもよかったですね。同類、一味、同士、グループ、会員、サークル等々。

（原は原句　参は参考です。）

【添　削】

原 二芸持ち異質な友に囲まれる　和　之

「異質な」がやや固い。

参 二芸持ち二種類の友持っている

原 いつの間に仲間になっているリスト　重　利

参 いつの間にか仲間になっているリスト

原 割勘の五円が生んだ仲間割れ　由　美

原 趣味一つ仲間の海で立ち泳ぎ　治　子

両句とも表現にわざとらしさを感じます。

参 割り勘の端数が生んだ仲間割れ

参 趣味一つ仲間の中で立ち泳ぎ

原 そっと寄り添い見上げてくれていたペット　のり子

参 愛犬がいつも見上げてくれていたペットを具体的に言うと句が締まります。

原 りんご桃イチゴバラ科の仲間です　きっこ

参 りんご桃イチゴに私バラ科

明るく綺麗な句なのに知識の披露にとどまりました。少し遊んでみましょうか。

原 親兄弟以上の仲間に助けられ　こずえ

参 親兄弟以上の仲間だと思う

原 欠席の理由次ぎ次ぎ仲間聞き　敬　子

「次ぎ次ぎ」は「次次」にしましょう。

参 欠席の理由を聞きたがる仲間

原 政界は今日は友でも明日は敵　勝　正

ふくみを持たせた方が皮肉が利きます。

参 政界の今日は友でもはて明日は

原 暖かくタッチし合いゴールイン　(斉)宏　子

分かりにくくリズムも乱れました。

参 ハイタッチに囲まれているゴールイン

原 仲間って第二の家族打ち解ける　(前)洋　子

参 仲間って第二の家族かもしれぬ

原 仲間はずれするもされるも大嫌い　風　露

その通りなんでしょうが正直すぎて川柳味に欠けました。せめて、

参 仲間はずれするもされるも嫌いだが

原 仲間から外されまいと参加する　雄　大

参 仲間から外されまいと腰上げる

原 無理矢理に老人会の仲間入り　敏　昭

少しユーモアを混ぜましょうか。

参 これも義理老人会の仲間入り

原 川柳の仲間皆んなが温い　満寿恵

参 川柳の仲間の中で温かい

原 校門出てそれぞれ仲間学習に　ミヨノ

説明しすぎ、かえって分かりにくいです。

参 校門を出てそれぞれに塾仲間

原 皆で食べて喋って笑い呆け防止　律　子

原 くしゃみにもれた話の出来る仲間たち　律　子

二句を一句にしてみました。

参 食べて笑いくしゃみでもれる話など

原 ゴミ出し日カラス仲間の策を練る　安　子

てにをは一字でガラリと句が変わります。

参 ゴミ出し日カラス仲間も策を練る

原 会社ＯＢ会昔の仲間すぐ分かる　清　司

参 ＯＢ会同期の顔はすぐ分かる

原 黒田去る仲間に押され支えられ　勝　治

参 黒田去る仲間を支え支えられ

原 ひと声で仲間が集う行事ごと　(見)温　子

参 ひと声で仲間が集いあう行事

原 いそいそと仲間に電話病癒え　一　彌

参 飲み仲間に全快したという電話

原 同病で痛さのわかる仲間です　(山)久　子

参 同病の痛みをわかりあう仲間

原 手をつなぎ花いちもんめあきもせず　澄　子

美しい光景ですね。読者に想像の余地を。

参 暮れるまで花いちもんめ歌う声

原 何時の間に後期高齢仲間入り　紀　雄

穏やかな句ですがやや平凡。えぐ味を少々。

参 気がつけば後期高齢者の群れに

原 仲間とは桃太郎の鬼退治　洋　一

面白い発想です。五七五に整えましょう。

参 きび団子食べた仲間と鬼退治

原 ピンチなら仲間見直す絶好機　秀　光

参 ピンチこそ仲間の素顔見るチャンス

原 仲間だもん目と目でわかり通じあう　厚　子

参 仲間だもん目と目でわかりあえるはず

原 仲間はずれ恐く集合ほほえんで　明　子

参 仲間はずれ恐くて今日も笑います

原 ピーアール黄色ゼッケン仲間です　恵　子

参 よく目立つ黄色いゼッケンが仲間

原 楽しみは食べてお喋り老い仲間　福貴子

参 老い仲間食べて喋って若返る

原 目に見えぬ仲間外れはＳＮＳ　(高)弥　生

インターネットの用語が出てきましたね。主語を私にしてみましょう。

参 ＳＮＳ仲間外れにされていた

原 三十年住んだ仲間も高齢者　開　子

「住んだ仲間」という説明を一語にして

参 三十年ご近所もみな高齢者

原 句の仲間出来て無口な人に笑み　真

参 句の仲間無口な人を笑わせる

原 仲間とて十人十色花盛り　孔　一

参 仲間だが十人十色花盛り

原 仲間こそ支持してほしい僕の夢　英　男

支持という言葉がそぐわない感じ。

参 仲間だろ応援しろよ僕の夢

原 重役も解き放たれて飲み仲間　旅　人

重役よりも中間管理職あたりが面白い句になりますが…。

参 課長代理も入れてあげてる飲み仲間

原 若い日に仲間となって半世紀　廣　子

参 縁とや仲間となって半世紀

原 スタッフのお蔭と感謝メダリスト　亜希子

参 スタッフがとらせてくれた金メダル

【佳　句】

二人いてよかったこんな嬉しい日　(畑)節　子

躓いて起きて大人の仲間入り　良　一

信じてる仲間につなぐこのたすき　昭　枝

一合で時間が消える友が居る　まさる

老人会入って二年腰据える　隆　子

よろしくと近所の墓に手を合わす　修　平

マドンナもほうれい線の仲間入り　(高)道　子

仲間外れにならぬと必死カメレオン　なつみ

【今月の推せん句】

どんぐりの格差ができて仲間割れ　横山　里子

仲間だろ力を貸せと何故言わぬ　長髙　俊雄

安否問う声あたたかい震度６　門村　幸子

川柳塔鑑賞

同人吟　石橋芳山
―12月号から

「水戸黄門」安心して観ています
丹下凱夫

結末を知っていても、ついつい見てしまうのがこの水戸黄門。ハラハラもドキドキのなく、悪が滅びるのがいいのです。

ラ・フランス鳥獣戯画の中にいる
小谷集一

どの動物をみてラ・フランスに辿り着いたのかは知らないが、鳥獣戯画の中で踊っていたのなら滑稽ではないか。

クッションが硬い礼拝堂の椅子
中居義信

子供の頃、日曜学校に通っていた。その時の記憶では、礼拝堂の中は寒くて、あの木の椅子は硬くて冷たい。

タクシーがなかなか来ない満月だ
浅田隆樹

待つ時間の長さと、手持無沙汰から見上げた夜空には、大きくて綺麗な満月がそこにあり、見惚れてしまった。

長編に挑戦不眠症治る
桝本宏子

笑わせてもらいました。読書はそれほど好きな趣味ではないのか、長編の本が面白くなかったのか、不眠症が治ったのは良かった。

松茸のないすき焼きを食べている
川端一歩

今まで私は、松茸がすき焼きの、具材とは知りませんでした。あまりにも高価な松茸は、庶民には手が出ません。すき焼き自体が高価なメニューで、今でもすき焼きの時は、嬉しいものです。

アイスでも食べて悩みを溶かしましょ
原田すみ子

悩み事がアイスで溶けるなら、いくらでも食べたいものです。この方のストレス対処法は、好物のアイスを、食べることのようです。しかしながら、食べ過ぎると体重が・・・要らない事でした。

五時半は生を飲み干す時間です
内藤憲彦

賛成です。この時間を待ちきれずに、ソワソワしている。スタートは生で、次が焼酎と進む。いつものフルコースを、今夜もやりましょう。

バッサリと剪定の後花咲かず
大島ともこ

男勝りの、大胆さがいいですね。そして、この方は後悔もしない、さばさばした性格のようです。ですが以後、剪定は止められた方が良いようですよ。

ママチャリのタイヤ悲鳴をあげている
島田千鶴子

はてなと疑問が生じた。なぜ悲鳴が出たのかだが、スピードを出してのコーナリングによるものか、乗り手が重たくての悲鳴か。なぜかが気になる、どっちなのだろう。

リュック良し帽子靴良し空眺め
池田純子

まるっきり、子供の遠足ですね。リュックから、おやつを出したり入れたり。明日の天気が気になる、幾つになっても同じなのかも知れません。

サングラスはずした方がこわい男

片　岡　知恵子

何となく思い当たる節ありですが、笑える句です。私は人相が悪く、自他共に認めております。この句の男性の顔は、見てみたいものです。

逆風へそんなもんやと前を向く

北　村　賢　子

なんだか、女性の方がさっぱりと生きているような気がしますよ。世間の風には負けません。ウジウジと過去を、気にしておられません。真っ直ぐ自分の信じる道を進みます。そんな気迫が伺えます。

泣き虫が多い忠臣蔵ファン

森　松　まつお

私も忠臣蔵が大好きなのです。耐えに耐えて、民衆の協力のもとに、大きな目標を達成する。何度見ても涙がでます。やはり私も、泣き虫なのでしょうね。

サンプルのお棺入ってみませんか

金　山　宣　子

お棺に入る時は、死んだ時だけでいいですよ。死んだときの、寝心地とでも言いましょうか、そんなのまで私は問いませんから、適当なお棺でいいです。

過去は過去いま楽しけりゃ良しとする

足　立　つな子

そうですよね、今が良ければ過去も、未来もどうでもいいですよ。今を楽しみましょうよ、難しいことは頭のいい人が考えてくれますからね。

判定はスロービデオにまかせましょ

堀　正　和

スポーツの世界で判定にビデオが、使用されるようになりました。ハッキリして、いいじゃないかと思うのですが、否定する人もいます。後々まで判定で揉めることが多いので、ビデオ判定に賛成。

二円忘れて大事な手紙もどされる

谷　川　憲

当たり前と言えば、当たり前なのですが、戻って来る手間とか、費用とか考えるとなんか、「二円まけて」って言って、みたい気もしますが無理でしょうね。

プルプルと秋をかき分けミニバイク

古久保　和　子

プルプルがミニバイクの動きを、上手に表現されていて好きです。ミニバイクが街中をスイスイと、少し肌寒い秋の風を、掻き分けて行く様が目に浮かびます。

真実は一つ嘘はねずみ算

石　田　隆　彦

言われる通りです。一度嘘をつくと、その嘘を守るためにまた、嘘をつくようになり、どんどん嘘が増えて来ます。正直者でいたいのですが難しいです。

窓際のわたしロミオにする月夜

坂　本　とも湖

女性は幾つになっても、ロマンチストのようです。そして美しいものに憧れるようです。ですがそれは、悪い事ではないように思います。

子宮まで届く一杯目のビール

前　田　楓　花

「ハラワタまで」とか「五臓六腑まで」とかは、聞くことがあるし、言うことがあります。まさか「子宮まで」ビールが染みるとは、知りませんでした。

一日を水のリズムで舞っている

田　中　恵

「水のリズム」川の流れのように、岩とかの障害物に、逆らうこともなく滔々と流れる水。この水の流れのように、人との争いを起こすことなく、ごく自然に一日を過ごす、優しい方のようです。

水煙抄鑑賞

—12月号から

福西茶子

珍客へすぐに米研ぐ母が居る

花岡順子

これこそ究極のニホンのおもてなしの心ですね。こんな暖かい家庭で育たれた順子さん。きっと優しい方でしょうね。亡母を思い出しました。

通知表3の人生上出来だ

田中天翔

本当に楽しい発想。そうです。中の中が一番居心地の良い位置。そして幸せな位置。これからもこの位置でお幸せに。

換気扇まわし松茸一つ焼く
読めぬ文字褒め合っている書道展

岡本勲

換気扇から、初物の松茸の匂いをご近所にお裾分け。読めもせぬ字を解ったように褒める。少し背伸びして優越感を味わう。人生こんな瞬間も必要。

玄関に埃があって暖かい

土井輝恵

思わず笑ってしまいました。我が家も同じ。埃が少々あっても死ぬことはありません。息の詰まるような無味な玄関よりホッとしますね。

元気良く唄えば昭和の頃の声

櫻崎篤子

あの頃の声は澄んでよく響いたなあ。なんてナンセンス。お腹に力を入れて思い切り声を出せばまだまだ二十代の声。元気よく大声を出す事は最高の健康法。

生きるとはこんなに苦労するものか

西田美恵子

まったく同感です。でも、今までには楽しいことがこれ以上にあったはず。苦労して泣いた人ほど、強く優しくなれるそうです。美恵子さんもきっと優しく頼もしい方でしょうね。

安倍さんがばらまきおれは財布見る

田岡九好

あのお金の財源は何処ですかねえ。我々の財布は、銀行も安倍さんも満してくれるどころか、ことごとく剥ぎ取っていきます。世の中、何処かおかしい。

残り物ならべ一人のバイキング

中山春代

バイキング。思いもよらない表現でした。気持ちの持ち方でこんなにも心が豊かになるのですね。

少々は気取ってないとへこたれる

大前安子

絶世の美人で有ろうが無かろうが、私はわたし。何があってもぶれず、こころ優しく、自分に自信を持っている人が一番美しい。

サンプルより小さいじゃないエブフライ

谷口修平

サンプルの半分しかないステーキ、エビフライ。お客を騙してはいけません。

年金で暮らしていける夢を見た

島尻卓

先生方の年金は豪遊してもまだ余る。我々庶民は、居眠りもせず汗水たらして働いて、年金は生きていくのがやっと。

勝算があって詐欺師を待ち構え

中筋弘充

詐欺でも何でもおいでよ。ない袖は振れぬから、すぐ捕まるよう警察にでも通報しときますわ。

同人特集　私の一句

（順不同）

樹齢千年もう美しくなるばかり　竹原市　小島蘭幸

闇に慣れ失せた対人恐怖症　鳥取県　新家完司

何ページですか私の一生は　和歌山市　川上大輪

老いという新鮮な日を生きている　大阪市　西出楓楽

今を重ねて明るい未来開けゆく　西宮市　奥田みつ子

旅の雪わたしを包むのは　私　米子市　八木千代

長生きして人間らしくなりました　大阪市　前たもつ

騙されておこう気遣いされた嘘　堺市　村上玄也

灰汁抜き過ぎてしょうもない奴になり　大阪市　鶴田遠野

初曾孫抱けた幸せ初日の出　羽曳野市　安芸田泰子

少し地味サファイアが合う歳になり　三田市　足立つな子

長生きはしたいけれどもしかしなあ　桜井市　安土理恵

地の塩になりたいものだ僅かでも　奈良市　阿部紀子

うなずいた数だけきっとある責務　豊中市　池田純子

擱筆の余白に咲かす福寿草　出雲市　伊藤玲子

完走を果たした汗の満足度　弘前市　稲見則彦

ぶらりして古本一つ買っただけ　高槻市　指宿千枝子
ネオンきらきらここは地獄の一丁目　大阪市　井丸昌紀
仮設での笑顔の友に安堵する　熊本県　岩切康子
緑濃き柳友眠る高野山　三田市　上垣キヨミ
手を繋げば若さが一寸通い合う　神戸市　上田和宏
躓いた子等の背中をそっと押す　大阪市　内田志津子
闘病記読めばわがまま消えてゆく　大阪市　宇都満知子
五七五学び切れない句の宇宙　大阪市　榎本舞夢
五体満足それで上等ではないか　枚方市　海老池洋
魂は売らぬと決めている背筋　香芝市　大内朝子
坂道は行きも帰りも辛くなり　大阪市　大川桃花
三億円当たったあとの悩みごと　大阪市　大治重信
能面に削り出される人の業　川西市　大坪一徳
生業とする海静かにと祈る　西宮市　緒方美津子
いい笑顔見せてひ孫のご挨拶　弘前市　岡本花匠
おもてなし世界が見てる五輪の日　松江市　小川注湖
未来図は胸にしっかり描いてある　高知市　小川てるみ
東京へ企業戦士になりにゆく　神戸市　奥澤洋次郎
子の悩み見破る母の聞き上手　三田市　尾崎一子
四十年妻と神とを道づれに　高知市　小澤幸泉

行き先は行き着くところ万歩計　堺市　柿花和夫

娘の言葉神の言葉のように聴く　大阪市　笠嶋惠美

幸せになれと北上する桜　堺市　加島由一

終焉は椿に倣う潔さ　加西市　金川宣子

溝出来ぬよう結局はみんな呼ぶ　犬山市　金子美千代

本当のわたしが湯船から出ます　藤井寺市　鴨谷瑠美子

一字ずつ雑念払う写経筆　東かがわ市　川﨑ひかり

「平和の日」にしたらどうです終戦日　鳥取市　岸本宏章

桜には勝てぬと梅が先に咲く　鳥取市　岸本孝子

あぁ米寿孫に年玉貰う夢　三田市　北野哲男

溜め息はつかない幸せが逃げる　東大阪市　北村賢子

かき混ぜてしぼんだ夢をふくらます　河内長野市　木見谷孝代

冷や奴のピュアと勝負はせぬことに　和歌山市　楠見章子

溝埋めてからの夫妻という強さ　三田市　久保田千代

天命に逆らう事はしたくない　西予市　黒田茂代

胸キュンとなった檸檬の香る頃　芦屋市　黒田能子

姿見の裏から冬がやって来た　鳥取市　倉益一瑤

字余りも字足らずもある人生路　松山市　栗田忠士

今日もまた気合いリュックに詰めて出る　大阪市　古今堂蕉子

長生きをすればするほど欲が出る　大阪市　小谷集一

体調も伝える手書き年賀状　松山市　古手川　光

温かな言葉一つで減る薬　枚方市　小林　わこ

日々熟れる紅いりんごも親ばなれ　弘前市　今　愁女

お茶しましょ言える相手が居てくれる　堺市　齋藤　さくら

仕方ない弱気の虫を飼っている　箕面市　酒井　紀華

戦わぬ誇りを捨てて武器輸出　堺市　坂上　淳司

晩学に今更という壁はない　東大阪市　佐々木　満作

良妻に育てた実家感謝する　大阪市　佐藤　忠昭

ウルマンの青春抱いて八十路行く　堺市　澤井　敏治

それなりの落ちもつき出す四コマ目　茨木市　島田　誠一

小粒でも数を揃えて待ち受ける　高槻市　島田　千鶴子

運命という車から降りられぬ　京都市　清水　英旺

探るより真正面から訊いてみる　高槻市　初代　正彦

美しい破調ならいいではないか　藤井寺市　鈴木　いさお

春ですね笑い袋の紐を解く　吹田市　須磨　活恵

曇のち晴でとにかく生きてきた　弘前市　髙瀬　霜石

四年後へ確と預ける金メダル　藤井寺市　髙田　美代子

アルバムの昭和の家族笑ってる　出雲市　多久和　敬子

ほほえみを磨いておこう君のため　和歌山市　武本　碧

ダイヤよりビーズが好きという暮し　芦屋市　竹山　千賀子

今日もまたゆとりを呉れる花を買う　寝屋川市　伊達　郁夫

正装をしても大阪弁である　大阪市　谷口　義

帰国するＰＭ２・５と別れ　和歌山市　玉置　当代

家建てて庭にネムの木植える夢　岡山市　丹下　凱夫

リクルートスーツの孫へ火打ち石　枚方市　丹後屋　肇

断層の微かな軋み猫の耳　紀の川市　辻内　次根

ふる里の味ほんわかと粥に梅　大阪市　津村　志華子

今日も採るゴーヤの力すばらしい　大阪市　津守　なぎさ

陽の当たる道で笑顔をとり戻す　大阪市　津守　柳伸

マイペース時計の針は急がない　枚方市　寺川　弘一

コーヒーに皿がつかない仲になり　大阪市　寺本　実

守らねばならぬ命に救われる　堺市　遠山　唯教

私を死火山にした嘘三つ　海南市　堂上　泰女

お気持ちは不戦へ向いている祈り　羽曳野市　徳山　みつこ

空と地をサンドにしてる花の苑　生駒市　飛永　ふりこ

いさかいを恐れ躾が乾いてる　高槻市　富田　美義

眼と耳を磨き詐欺から身を守る　高槻市　富田　保子

かび臭くなってきたのでぶらさがる　神戸市　冨永　恭子

恩送り出来るうれしさありがとう　寝屋川市　冨山　ルイ子

君の笑み今日という日が特別に　羽曳野市　中川　ひろ介

不用意に口は挟まぬ袖畳　尼崎市　長浜　美籠

妹とサーカスを見て童心に　米子市　中原　章子

発見の旅と思えば日々たのし　西宮市　西口　いわゑ

特級酒飲んで品よく酔っ払う　鳥取市　西川　和子

低金利元気なうちに夫婦旅　日高市　根岸　方子

夜市でも日本人かと声かかる（台湾）　吹田市　野下　之男

もう我慢しないと決めた母の乱　神戸市　能勢　利子

スタンドの愛国心が振る国旗　南あわじ市　萩原　狸月

わたしのステップでわたしの人生　大阪市　原田　すみ子

何もかも時代のせいにするメタボ　高槻市　原　洋志

神様のガラガラポンで変わる運　富田林市　肥山　一文

命綱信じる父が沖に出る　鳥取市　平尾　菜美

始めたら終わらせ方が難しい　大阪市　平賀　国和

復旧の邪魔をしている視察団　宇部市　平田　実男

春雷が殻を破れと鳴り響く　箕面市　広島　巴子

結婚もスタート離婚もスタート　尼崎市　藤井　宏造

曇天を割る一撃を溜めておく　笠岡市　藤井　智史

眉に唾塗りたくもなるコマーシャル　豊中市　藤井　則彦

ここは押し男結びの自負で勝つ　茨木市　藤井　正雄

バラ一本百本よりも情がある　弘前市　福士　慕情

失敗もあるうぐいすの初音聞く　羽曳野市　藤原大子

断捨離に時間忘れて陽が斜め　姫路市　古川奮水

字余りはゆうべ届けておきました　和歌山市　古久保和子

飢餓の子等救える軍事費一割　さいたま市　星野育子

「メダルが重いです」ポケモン世代がんばった　東京都　まえでとよこ

人生も老後も楽しい多色刷　京都市　桝本宏子

出来るかもきっと出来るにある未来　神戸市　松井文香

碁に勝って割り勘に負け今日はチャラ　高槻市　松岡篤

君がいてワルツのような輪が温い　和歌山市　松原寿子

さよならは言わぬ　またねと去るつもり　松江市　松本文子

許されて夕陽を連れてゆく小径　青森県　松山芳生

腹くくる私に愚痴は似合わない　松山市　宮尾みのり

卓袱台を囲み人間取り戻す　海南市　三宅保州

責任の重さずっしりややを抱く　京都市　三宅満子

働いて今日一日の福もらう　八尾市　宮﨑シマ子

反骨の虫を宿して超元気　河内長野市　村上直樹

ありがとうを言いたいひとがたんといる　八尾市　村上ミツ子

ゴールまで続く夫婦の膝栗毛　三田市　村田博

価値観が違うが仲の良い二人　鳥取市　森山盛桜

この道を曲がればきっとある出口　高槻市　安田忠子

完成形ない人間が面白い　河内長野市　山岡冨美子

百分の一秒銀の悔し泣き　神戸市　山口光久

どん底で知ったごめんとありがとう　神戸市　山﨑武彦

母の電話今日はおまえの誕生日　尼崎市　山田耕治

蒼空に薄切り大根昼の月　八尾市　山根妙子

本が血をさらさらにする秋灯下　吹田市　山本希久子

待つ長さ過ぎ去る早さ生きる今　岸和田市　雪本珠子

ご先祖がこっちと決めて僕がある　四条畷市　吉岡修

熱くても冷めてもうまい妻の燗　羽曳野市　吉村久仁雄

ウクレレを弾いて銀河を引き寄せる　大阪府　米澤俶子

過労死の男遺した火のページ　奈良市　米田恭昌

一言が足りず真意が届かない　藤井寺市　若松雅枝

老いました五体すべてが脆くなる　大阪市　若本安代

堂々とオンリーワンを生きている　奈良県　渡辺富子

知り合いが増えてあの世も悪くない　奈良市　大久保眞澄

ふわあっと自分にもどる慣れた椅子　堺市　内藤憲彦

笑っとこ聞こえないから笑っとこ　奈良市　山本昌代

セカセカと歩いているが暇である　松原市　森松まつお

すんまへん私情がすぐに出てしまい　大阪市　江島谷勝弘

亡きひとへ届け桔梗の濃紫　和歌山市　木本朱夏

73 正月を詠う

♪もういくつねるとお正月　お正月には凧あげて
　こまをまわして遊びましょ　はやくこいこいお正月

皆さんよくご存知の歌「お正月」は、瀧廉太郎作曲・東くめ作詞で、明治34年の「幼稚園唱歌」が初出とのことです。

このように待ち兼ねていた正月ですが、いつの間にか何とも感じなくなったのは「心も歳をとった」ということでしょうか。童心に戻るのは無理としても、正月休みのひとときに、「今の正月」を見詰めて一句に仕上げてみたいものです。

しめ飾り中国製と書いてある　池田　純子
待った甲斐生駒の上に初日の出　田浦　實
初日の出仁王の顔もゆるみがち　宇野　幹子
御破算の出来ないままに初日の出　上嶋　幸雀
おめでたく布団の中で初日の出　都倉　求芽

普段着だけではなく「しめ飾りまでが中国製」には苦笑するしかありません。寒さに耐えた甲斐があって見事な初日の出に、仁王さんの顔もゆるみがち。「新しい気分で出発を！」と思っても、まだ旧年の尻尾を引きずったままでのご来光。

厳しい寒さの中、風邪を引いては大変。布団に潜り込んだままで初日の出をお迎えすることをご容赦願いたい。

ぞろぞろと歩くのもいい初詣で　黒田　能子
初詣今年は何を願おうか　太田　昭
初詣で頭上で鈴が鳴りやまぬ　小泉ひさ乃
天国への切符を買いに初詣　鈴木　直
初詣で出かける人はみな元気　早泉　早人

普段は立ち寄ることもない神社仏閣ですが、正月だけは善男善女に化けて初詣で。着飾ってぞろぞろ歩くのも楽しく、願いを込めた鈴もヨロシク！ヨロシク！と鳴っています。

その願い事が「安らかに天国へ行けますように」であったとしても、外出できるのは元気な証拠で、当分大丈夫！

あらたまのとしのはじめの救急車　酒井　真由
新年も去年と同じ薬飲む　小柏こずえ
脳も正月なかなか起きてきはしない　木見谷孝代
昼過ぎに家族揃っておめでとう　坂　裕之
ゴム紐の点検をした三が日　辻内　次根

お正月といっても日常の継続には違いなく、急病人も出れば救急車も走り、決められた薬も飲まなければいけません。

ただ、脳味噌は寝正月を決め込んでなかなか起きて来ず、寝坊した家族が揃うのも昼過ぎ。気怠く過ぎた三が日にした仕事は下着のゴム点検。何もしないよりマシでしょう。

達筆な人は手書きでくる賀状　福田　好文
応援歌年賀状から聞こえます　細田　裕花
ああこの人も逢っておきたい年賀状　籠島　恵子
生きていることだけ分かる年賀状　村上　玄也
年賀状途切れる頃にえべっさん　石田ひろ子

最近はパソコン等のメールに押されている年賀状ですが、「ああこの人も」と振り返ることが出来るのも賀状の良いところ。正月も七日を過ぎて賀状も途切れた頃にやってくるのが「商売繁盛じゃ、笹もって来い！」の十日戎。親しみを込めて言えば「えべっさん」。浪花の街がまた活気づきます。

（投句221名）

新しい年になりました。〈今年こそ毎年ですが今年こそ　松井文香〉の句を拝見して、本当にこの通りだなと納得すると共に、自分の不甲斐なさを見透かされているように思えます。

でも、毎年計画通りに着々と夢を実現させている人の方が少ないのでは、などと勝手な理屈を付けて自分をまたまた甘やかしているのですが、〈今年こそ〉の気持ちは持ち続けたいものです。

大阪府　米澤　俶子

風神の袋の口が破れそう

（評）これは大変、大嵐が来るかもしれません。堪忍袋のようにその袋の口をグッと堪えて下さいませ。

神戸市　松井　文香

今年こそ毎年ですが今年こそ

（評）この気持ち、身につまされます。新しい年が巡って来るたび、今年こそはと思ってもなかなか難しいものです。

防府市　坂本　加代

神棚に祭り上げられ独りぼち

（評）社会的地位の高い人ほどこんな状態かも知れません。努力して上り詰めても何か虚しさが残りそう。

鳥取市　福西　茶子

恋をして角がポキンと折れました

（評）肩肘張って生きてきた、そんな気持ちが〈恋〉という偉大な力によって、まあるくなってしまったのですね。

西宮市　緒方美津子

いいぞいいぞ大きくなった西ノ島

（評）国土拡大、などと大層なことではないにしろ、だんだん大きくなってくる島には不思議な魅力を感じます。

貝塚市　石田ひろ子

新米は一味違う塩むすび

（評）どんなに美味しいものが身の回りに溢れていてもこれは別、新米で作るシンプルな塩むすびには勝てません。

大洲市　中居　善信

神様を信じるなんて幸せな

（評）世の中には無神論者といわれる人も沢山いますが、神様を信じることで何か特別な力が沸いてくるように思えます。

堺　市　矢倉　五月

愚痴ひとつ吐かない妻を奉る

（評）こんな立派な妻を奉らずしてどうしましょう。バチが当たるとまでは言いませんが、いや、当たりそう。

高槻市　松岡　篤

ここからは男子禁制はタテマエ

（評）世間はホンネとタテマエで成り立っています。そもそも〈タテマエ〉などとカタカナ表記からしてアヤシイです。

高槻市　島田千鶴子

熨斗付けてお返ししたい物がある

（評）腹立たしい思いで投げつけてやりたい、そんな時には〈熨斗付けてお返し〉という、美しいコトバでどうぞ。

松山市　神野きっこ

神様がいると思って生きている

藤井寺市　鈴木いさお

揉め事も丸く治めて名幹事

池田市　上山　堅坊

鉢巻きで緩んだ脳を締め直す

鳥取市　土橋　螢

合掌をすると何も怖くない

吹田市　山本希久子

言語システム時どき制御不能です

米子市　八木　千代

ともかくも奉ります山の神

弘前市　高森　一呑

リンゴ園野良の仲間が闊歩する

松山市　宮尾みのり

若作りしてコーラスの中に居る

弘前市　高瀬　霜石

アホな役アホな人にはできまへん

大阪市　江島谷勝弘
だいだいのためにありますお正月

八尾市　前田　紀雄
森を見て木を見ない五輪会場

大阪府　髙木　道子
前頭葉におぼろげながら効く媚薬

弘前市　福士　慕情
地球儀の変な所にある歪み

大阪市　石橋　直子
冗談でしょ帽子の方が似合うわよ

鳥取市　夏目　一粋
折角の恋だ嵌まってあげましょう

松江市　石橋　芳山
恐山寒いとイタコすねている

和歌山市　土屋起世子
四角四面磨いて丸くなりました

大阪市　原田すみ子
国取るか恋か悩んでいる卑弥呼

弘前市　稲見　則彦
まるめろのシロップ煮です召し上がれ

大阪市　柴本ばっは
もう少しお話したい頑張って

唐津市　仁部　四郎
くれぐれも水引きの色御用心

香芝市　大内　朝子
夫婦岩ただいま妻は旅行中

枚方市　小林　わこ
次の入試頭ひきしめガンバルぞ

堺　市　内藤　憲彦
大願へ賽銭の音小さすぎ

沖縄県　森山　文切
三つ編みの女は僕のトラウマだ

東大阪市　佐々木満作
満願を迎え天にも昇る意気

姫路市　古川　奮水
三世代暮す家庭に灯があかい

弘前市　今　愁女
高級な桃です誰も手が出ない

大阪市　大治　重信
古寺に鬼女が顔出す紅葉狩

富田林市　山野　寿之
招かざる貧乏神がまだ居着く

笠岡市　藤井　智史
合格をするまで白い歯は見せぬ

犬山市　金子美千代
イメチェンをしたら運気が向いてきた

鳥取県　竹信　照彦
大統領誰がなろうとよその国

明石市　糀谷　和郎
買った家活断層の上に立つ

鳥取市　山下　凱柳
ちょっとばかり知識詰めすぎ偏頭痛

和歌山市　楠見　章子
笑っても泣いても容赦無い加齢

神戸市　近藤　勝正
酉年の恵方に好きな人がいる

羽曳野市　中川ひろ介
薬指リングが抜けぬ神の留守

枚方市　丹後屋　肇
日本人の横綱ほしい日本人

大阪府　野田　栄呼
色あせた遠い記憶をたぐり寄せ

堺　市　坂上　淳司
雷公に打たれて折れた御神木

河内長野市　大島ともこ
知らぬ間に教祖に祭り上げられた

生駒市　飛永ふりこ
虫がいい小銭でたんと拝まはる

大阪市　藤田　武人
二日酔い梅干しひとつ湧くチカラ

河内長野市　山岡冨美子
先ず我が身清めて巫女のアルバイト

松戸市　山下　明子
いかずちの轟く夜長仲直り

長野県　丸山　健三
神様が来てから笑うことにする

男鹿市　伊藤のぶよし
信じても番狂わせにあうこの世

大阪市　坂　裕之
角立てず仲良く暮らす裏長屋

札幌市　三浦　強一
高熱の地球へ祈り深くなる

3月号発表
(1月15日締切)

(平本　勝彦　画)

柳箋に2句

本社 十二月句会

◇十二月七日（水）午後一時
アウィーナ大阪

気忙しい師走に入った7日、本社句会は百二十名（投句者十名）の参加で開催された。初出席は大阪市の小野雅美さん。

今月のお話は片山かずおさん。題は「川柳塔まつり　あれこれ」。今年第22回を迎えた川柳塔まつりは、かつての「川雑まつり」に思いを馳せた薫風師の意を受けて、平成七年に第一回が開催された。以後、同人総会や受賞者の表彰、記念句会の持ち方など、若干の変遷を経て、現在のような形で定着している。遠隔地など会場参加の難しい方々にも共に楽しんでいただける誌上大会も、既に四回実施された。平成31年の塔誌通巻1100号や95周年を控え、よりよい川柳塔を築いていこうと、会場の心はひとつになった。

京都塔の会会員「都レディース」のリードで「お正月」を全員で歌って、お話を終えられた。（眞澄）

月間賞は木本朱夏さん（和歌山市）
（司会―蕉子・真理子）（脇取―(矢)五月・まつお）
（受付―正彦・ふりこ）（清記―憲彦）

席題「ぼうっと」　山口　光久　選

ぼうっとしてる妻だが側に居てくれる　山﨑　武彦
雲百態眺め忙中閑に居る　矢倉　五月
猪口を持つまではぼうっとしてたのに　矢倉　五月
頑固オヤジぼんやりさせるお母ちゃん　柴本ばっは
毎日が日曜ぼうっと日を送る　山本　進
美人から声かけられてのぼせてる　村上　玄也
突然の別れぼうっと立ちつくす　能勢　良子
また一年なんにもせずに終わりそう　江島谷勝弘
ぼうっとしてウンと言ったら払わされ　山野　寿之
最近はぼっとするのが仕事です　榎本日の出
ぼーっとして何時もの道を間違える　安田　忠子
呆けてたら騙させません敵はプロ　加川　靖鬼
ぼうっとしてるのが長男の取柄　原田すみ子
ぼうっとしているうちに若さが逃げてゆく　山本希久子
すぐ騙され腹も立たないから困る　出口セツ子
日向ぼこのままあの世逝ければな　藤井　宏造
気が付けば時効になっていた馬券　清水久美子
かしこいがぼうっと見える欲の皮　奥田みつ子
ゆるむだけゆるんだ顔の露天風呂　居谷真理子
時々は忘れたふりもしなくては　上田ひとみ
逆走車ぼうっとしてたわけじゃない　大久保眞澄
妻や子にシャキッとせいと叱られる　片山かずお
ぼんやりの昔を辿り日向ぼこ　あまのとーな
ぼうっとして脳の充電しています　石田ひろ子
ぼうっとしてても腹は減るんです　澤井　敏治
憧れの人とばったりほおうっとする　久保田千代
がっちりよりぼうっとしてる人が好き　遠山　唯敎
ナイスボディぼうっと見えている露天　森松まつお
ぼうっとしている間に歳をまたひとつ　鈴木いさお
ぼうっとしてはきっと長生きしはるやろ　太田としお
二日酔い今朝はぼうっと迎い酒　黒岩　靖博
ぼうっと火がつきめらめらと燃える恋　西出　楓楽
水平線ぼうっと眺めてる無職　渡辺　富子
老いの恋見てる昼間のお月さん　居谷真理子
ときどきはまだ動いてる脳回路　澤井　敏治
ぼうっとする暇がない嫁が九ヵ月　清水久美子
難病告知ただボンヤリと聞いていた　太田扶美代

佳

ぼうっとも金勘定はぬかりない　飛永ふりこ
なかったことにしようぼうっとしていよう　谷口　義
みな捨ててぼうっとしたい時もある　坂　裕之
辛かったこともぼかして生きてきた　柴本ばっは
存在感影絵のようになって来た　山岡富美子

人

バージンロード父はぼうっと上の空　松浦　英夫

地

ぼうっとではすまぬペダルの踏み違え　山田　耕治

天

私には宝ぼうっとする時間　升成　好

軸

妻曰く何をぼうっとしているの

兼題「ちぎる」　松岡　篤　選

ちぎり絵に没頭すると老母元気　加門　萌子

千切れた釦父が器用に付けている　若松　雅枝
日の丸をちぎれる程に振る五輪　北野　哲男
下心あって飼い猫褒めちぎる　中村　恵
一ページちぎり取られた古日記　山口　光久
ちぎれ雲父と母とは会えたかな　原田すみ子
ハズレ券ちぎれちぎれて紙吹雪　黒岩　靖博
初孫の誕生よめを誉めちぎる　遠山　唯敎
お餅つきちぎる赤い手粉まみれ　宇都満知子
誉めちぎり要らぬものまで買わされた　今井万紗子
再会の契り果せぬまま師走　柿花　和夫
まといつくちぎり捨てたい怠け癖　上山　堅坊
千枚田褒めちぎるのはツアー客　升成　好
ちぎり合ったばかりの友が空爆に　榎本　舞夢
お前もかちぎれるほどに振る尻尾　中村　恵
死ぬまでと誓いちぎった妻送る　油谷　克己
永遠を契った日から酸欠に　山岡冨美子
ほめちぎる言葉に皮肉見え隠れ　松浦　英夫
好き嫌い花ビラちぎる古稀の指　桝本　宏子
おばあちゃんがいたちぎり絵があたたかい　小島　蘭幸
ほめちぎり上司にいつもおごらせる　鈴木いさお
千切られた妻の日記の一ページ　細川　花門
ちぎり絵のように並べる五七五　内田志津子
九条は戦争放棄のちぎりです　出口セツ子
共白髪契ったのにと亡夫に愚痴　能勢　利子
うっ噴をちぎって燃えるゴミに出す　三宅　保州
個人情報みんなちぎって捨ててます　松尾美智代
契るたび図太さ増してゆく小指　島田　誠一
永遠の愛契った妻の鼾きく　鈴木　栄子

約束が違うと妻のふたこと目　海老池　洋
長年の自宅介護を賞めちぎる　山田　葉子
肩書きが同期の契り薄れさせ　市坪　武臣
契りだけ交わし戦に散った彼　清水久美子
初恋にノートちぎったラブレター　川端　六点
ちぎり絵の記憶が母の宝物　山岡冨美子
日記にはちぎり取りたくなるページ　松浦　英夫
片腕をちぎられたよう母が逝く　松本あや子

佳

自分史に引き千切りたい一ページ　柿花　和夫
読み返さずちぎりもできぬラブレター　小野　雅美
日本地図沖縄だけをちぎるのか　栃尾　奏子
誉めちぎり五輪牛耳る元総理　村田　博
孫の画く母さんデブをけずり取り　榎本日の出

人

赤紙にひきちぎられた苦い過去　大内　朝子

地

思い切り細断したい我がカルテ　関　よしみ

天

魂胆がありそう妻が褒めちぎる　菱木　誠

軸

イカちぎり冷酒飲んで国家論

兼題「どんどん」　北村　賢子　選

高齢の逆走ニュース増えている　足立つな子
どんどんと老いがせわしく戸を叩く　加門　萌子
加速する地球が黄泉を近くする　上垣キヨミ
ダム底にどんどん橋も沈んでる　北野　哲男

二歳児がどんどん入る山の中　木藤こみつ
どんどんも一息入れて湧く気迫　飛永ふりこ
進化する世間おいてきぼりの老い　米澤　俶子
借金と汚染水とが増える国　藤井　宏造
何事か丑三つ時の来訪者　佐々木満作
挫けずにどんどん顔を上げてゆく　山口ヨシエ
愛着を捨てどんどんと捨ててゆく　宮崎シマ子
どんどんと貯めて遺わず逝きはった　川端　一歩
何時だってどんどん人が好きになる　今井万紗子
祭り太鼓若者たちを呼び戻す　村上　玄也
もういちどどんどん痩せるほどの恋　村上　直樹
年金減ってどんどん延びてゆく寿命　山本希久子
愚痴るたびどんどん老いが加速する　西出　楓楽
どんどん老いて何時か自分でなくなる日　森　廣子
終章の幕がじわじわ責めてくる　久保田千代
いつの間にこんなにあなた近くなる　上田ひとみ
叩いてんと自分で鍵を開けなさい　大久保眞澄
どんどんと背丈が伸びて夢無限　山口　光久
どんどんと嘘でふくらむ虚栄心　木本　朱夏
どんどんと独り歩きをする噂　米澤　俶子
新語やたらと増やしバカバカしい世相　青木　公輔
先送りどんどん貯まる核のゴミ　内藤　憲彦
どんどんと広がるここだけの話　能勢　良子
虐待死どんどん増える都市砂漠　上山　堅坊
どんどんと安全神話減る日本　内藤　憲彦
子等の知恵どんどん貰い光らせる　今井万紗子
風だけが玄関たたく侘び住まい　山本　進
年の瀬に諭吉どんどん消えていく　出口セツ子

婚活にどんどんいけと母の檄　山田　耕治
弁解を重ねどんどん行き詰まる　村上　玄也
中国の網がどんどんでかくなる　新家　完司
どないしよどんどん迫る喜寿傘寿　江島谷勝弘
的を突く助言どんどん芽が伸びる　鈴木　栄子

佳

やりゃ出来るどんどん発破かけてやる　油谷　克己
通帳にどんどん消えてゆく未来　菱木　誠
復興へどんどん響く槌の音　松本あや子
快復期日増しに夢が近くなる　矢倉　五月
どんどんと地球壊れる音がする　能勢　良子

人

胎動へどんどんわいてくる母性　大内　朝子

地

物忘れ朝な夕なに進化する　澤井　敏治

天

笑顔ある方へどんどん運も寄る　吉岡　修

軸

ああ師走どんどん諭吉走り去る

兼題「真」　山田　耕治　選

真心のこもった嘘で見舞われる　北野　哲男
酒の席ぼろり真が顔を出す　飛永ふりこ
金釘流の追伸に嘘はない　緒方美津子
母の席いつも真ん中空けてある　今井万紗子
真剣な彼の眸に負けました　奥田みつ子
真っ新な下着揃えて年の暮　能勢　利子
真実を口に出さないのが女　細川　花門
健康でとても真面目な腹時計　石田　隆彦
真実をいって若いと笑われる　遠山　唯教
出直しのまん真ん中に置く日の出　菱木　誠
一合で真っ赤になれる安あがり　田中　章子
真贋がほんと分かるのピカソの絵　松浦　英夫
真面目顔で話されジョーク真に受ける　石田　隆彦
真ん中に俺が俺がが居る五輪　松岡　篤
生真面に生き最後までヒラのまま　村上　直樹
老老介護真の夫婦の味になる　石田ひろ子
妻の顔真っすぐ見ない午前様　桝本　宏子
下手やけど真心込めて書く手紙　鈴木　栄子
真っ正直に生きて背中を子に見せる　松尾美智代
逆境で掴むものこそ真の愛　北村　賢子
真心に触れると胸の鈴が鳴る　太田扶美代
ボブディランの真意を計りかねている　西出　楓楽
同期会まだ真ん中にマドンナが　柿花　和夫
真実より優しい嘘を恋う女　出口セツ子
お年賀に真心ちょっと書き添える　山根　妙子
真に受けて体一つで嫁にやり　山本　進
迫真の演技オレオレ詐欺の闇　村上　直樹
真相は闇へトカゲの尻尾切り　細川　花門
金婚の二人が抱いてきた真　栃尾　奏子
疑いをもたぬ嬰児の瞳のまこと　柴本ばっは
真相を知っているから黙秘権　堀　正和
抱きしめて真心そっとくれました　出口セツ子
心技体揃い褒美の金メダル　内田志津子
真剣な目つきに膝を崩せない　前　たもつ
真っ直ぐに目を見て本気悟らせる　矢倉　五月
真実は一つだなんてつまらない　吉村久仁雄
真心介護お免状はないけれど　太田扶美代

佳

恋だってほんまばっかりです　ほんと
真っ新な命を抱いた日の涙　吉岡　修
迫真の演技　夫は常習犯　大内　朝子
真心がほっこり温い介護の手　安土　理恵
趣味にはまり今青春のど真ん中　木本　朱夏

人

まっすぐに見てくれるから信じよう　松尾美智代

地

真相を聞いていたのは空徳利　上田ひとみ

天

子を叱る真っすぐ顔を見て叱る　澤井　敏治

軸

もう一軒いこかと真意聞くお酒　藤井　宏造

兼題「気　分」　河内　天笑　選

梅干しの一粒気分すぐれさす　青木　公輔
ドゥテルテになるトランプになる酒二合　新家　完司
あと一枚のカレンダーにも感謝する　内藤　憲彦
気分屋に振り回されている世界　加川　靖鬼
トラ勝ってパチンコ勝って妻は留守　太田としお
泣きたいだけ泣けば元気が湧いてくる　能勢　利子
気分屋のおやじが仕切る路地の店　柿花　和夫
気分転換ままよ冬の冷や酒　仁部　四郎
ありがとう一言だけで良い気分　山岡冨美子
ほろ酔いで気分上々ハワイアン　北野　哲男

気分屋のネコがあれこれ指図する　大久保眞澄
気分屋で妻の顰蹙買っている　丹後屋　肇
足湯では温泉気分わいてこぬ　木藤こみつ
先き酔うてあんたはさぞやいい気分　安土　理恵
男前の気分で髭を剃っている　谷口　義
上機嫌の笑顔にわたしまで笑う　奥田みつ子
気分屋で通し出世を遠くする　青木　公輔
気分よい呑み放題へ時間です　堀　正和
泥酔のたった一人に座が白け　中村　惠
一人住み猫の気分とたわむれる　萩原　狸月
後味の良いお開きをする幹事　清水久美子
目が合うと言葉にならぬ恋かしら　酒井　紀華
機嫌いい妻のまな板リズミカル　山崎　武彦
髪形を変えて気分はオードリー　石田ひろ子
宿六の気分は虎の星次第　坂上　淳司
得も云えぬロマンスグレーどないしょう　柴本ばっは
菌と呼ばれる子供の気分いかばかり　北村　賢子
もやもやを句帳にぶつけスッとした　吉岡　修
泥舟の気分年金目減りする　水野　黒兎
月と友達の気分で露天風呂　矢倉　五月
思いきり散財したい年の暮れ　木本　朱夏
アメリカの気分で動く日本株　村田　博
内定へ逆立ちしたい気分です　渡辺　富子
置き換えただけで整理をした気分　山田　耕治
初めての酒場でしばし異邦人　新家　完司
気分よく幼馴染と馬鹿話　山根　妙子
ハイな気に浸りに街へ行く聖夜　出口セツ子
にこにこと気分変えない凄い人　前　たもつ

佳

気分良い今日は新聞まだ読まず　中里はこべ
何をする気にもならない二日酔い　坂　裕之
気分屋に連れ添い気分屋になった　古今堂蕉子
気分よく飲んでいるから逆らうな　升成　好
俎板の音今朝の奥さん波高し　太田扶美代

人

凄まじい気合を入れて子が生まれ　山口　光久

地

気分屋の女課長に泣かされる　米澤　俶子

天

気分よく生きております自然体　西出　楓楽

軸

熟睡が出来た起きがけの鏡

兼題「見物」　小島蘭幸　選

世の中を天井桟敷から見てる　清水　英旺
見学にいや見物に議事堂へ　仁部　四郎
はとバスで首の運動して帰る　山崎　武彦
ＳＭＡＰの引き際見たい大晦日　内藤　憲彦
泣き相撲見る人みんな笑ってる　田中　章子
都議会の見物人がどっと増え　森松まつお
見ていない振りで見物してる猫　鴨谷瑠美子
高みの見物隣の庭の小競合い　安土　理恵
老いてゆく私を見物するわたし　西出　楓楽
火事見物一番前に僕の妻　古今堂蕉子
見物の席へ混じっていた悪魔　太田扶美代
遠い日の花火よ亡夫の肩車　北村　賢子

駆けつけ警護高み見物するカラス　海老池　洋
世界遺産の見物人の中にいる　山口　光久
見る物はない過疎だけどあたたかい　遠山　唯敎
見物人無いがスポーツです登山　矢倉　五月
路上ライブ徐徐にまあるく人だかり　宇都満知子
小京都を訪ねて季節確かめる　立蔵　信子
震災を忘れてはしゃぐルミナリエ　能勢　利子
見物に行くだけにする黄泉の国　鴨谷瑠美子
人間を観て飽きないと檻の猿　山岡富美子
見てるのは監視カメラだ野次馬だ　川端　六点
聞き覚えある見物の中の声　長浜　美籠
視野広く見たくて座る外野席　三宅　保州
新聞に載らぬ取組みてる親　緒方美津子
東京五輪テレビ桟敷は予約済み　山岡富美子
地獄とや見せたい人の中にぼく　前　たもつ
外国人を品定めする奈良の鹿　大久保眞澄
十年後が見もの投打の二刀流　藤井　則彦
酔ったなら人間らしくなる人と　関　よしみ
見物もせずに爆買いして帰る　鈴木いさお
見物のつもりで来たを恥ず摩文仁　山田　耕治
京都さえまだ半分も観ていない　新家　完司
傍観者から脱しきれない僕である　藤井　宏造
拝観料仁王もおいでやすの顔　海老池　洋
聖地巡礼どっと繰り込む君の名は　山本　進
見物人のままで誤字脱字のままで　谷口　義

佳

見物に行くなら天国より地獄　油谷　克己
ダンジリの曳き回しには近づかぬ　新家　完司

オリンピックのあとの東京みてみたい　遠山　唯敎
迷い道たったひとりの星月夜　能勢　良子
デモの数百万越すと爽快だ　川端　一歩
人
見物ですむかトランプのアメリカ　上山　堅坊
地
花火見ているいつか独りになっている　太田扶美代
天
猫の目で見ればこの世は万華鏡　木本　朱夏
軸
神ってるシーンはエンドレスである

○

平成28年本社句会皆出席者
（1月～12月）　（順不同）

油谷克己　榎本舞夢　上山堅坊　石田ひろ子
大内朝子　加川靖鬼　小島蘭幸　江島谷勝弘
坂　裕之　澤井敏治　島田誠一　榎本日の出
初代正彦　遠山唯教　能勢良子　居谷真理子
西出楓楽　内藤憲彦　藤井宏造　指宿千枝子
前田紀雄　桝本宏子　松岡　篤　太田扶美代
水野黒兎　三宅保州　村上玄也　緒方美津子
森　廣子　矢倉五月　山﨑武彦　奥田みつ子
山田耕治　山田葉子　山野寿之　片山かずお
山根妙子　山本　進　吉岡　修　久保田千代
渡辺富子　古今堂蕉子　鈴木いさお
飛永ふりこ　原田すみ子　松尾美智代
宮崎シマ子　山本希久子　山岡冨美子
（49名）

（記載漏れの方はご連絡ください）

句会燦燦

十一月句会を読む　岩崎　眞里子

佳句は血を綺麗にしてくれるとは俳人・夏井いつき氏の言葉だが、素敵な川柳は人間力をアップさせてくれると思う。

生きてるか回覧板が聞きに来る　武彦
振らないと打てませんねと解説者　憲彦
審判に打順が回る草野球　耕治

考えるよりも先に作品が飛び込んで来て、私のヒト科細胞に火がついた。ユーモア満点の作品は、省エネ効果大である。

ボディーは老朽ハートは青二才　完司
ぶつかって励まし合って青林檎　奏子
若さとは橋をいくつも持っている　楓楽

とうとう言われてしまったが、自覚している青二才は青林檎以上に頑張っている。励ましも傷つけ合うことも、解り合うための思い出橋作りかも知れない。老躯と感じている今も…。

礼服を脱いだら言葉まではだか　文代
私が許せぬわたくしの未熟　あきこ
まな板もつぶやく時があるのです　信子

礼服効果は脱ぎ捨てる迄の数時間だが、仕草や物言いはその人の心根を現す。自分が許せないのは、その垣根を越えた時か。台所に立つとまな板までが「あぁ～あ…」と呟いている。

後戻りしないと決めて渡りきる　ほのか
人間を脱げばはるかに花浄土　富子
まだ傘寿見たい聞きたい喋りたい　宏造

生を受けたからには後戻り出来ないと思ってはいるが、花浄土を思い描ける齢になると「渡りきる」という覚悟が現実味を帯びてくる。でも心配ご無用！まだまだ見たい聞きたいことは山のようにあり、喋りたいことは日々増え続けている。

柔地物語

毎月24日締切・35句以内厳守
掲載は原稿到着順となります。
楷書で誤字のないようにお願いいたします。
編集部

竹原川柳会（広島）　古田　太虚報

涼しさを求めスーパー梯子する　栄香
年金の懐涼しい風が吹く　慶子
涼しさをありがとう竹シーツしまう　京子
遣り遂げた瞳の涼しさよ表彰台　輝恵
涼しげな浴衣少女の裾捌き　淑子
砂時計何度も返し待っている　比呂子
待つ覚悟本と鉛筆持っている　千代美
解れる日静かに待って策を練る　汎美
手術台待つ沈黙の胸の中　弘子
誰を待っていたのか門灯が消えた　蘭幸
平成の女子は待ったりなどしない　白狐
石段の途中で何故か振り返る　規代
昨日迄元気印の友だった　宜之
余生なら途中下車でも出来ますね　節生
途中下車それが良かった今の幸　幸子
いくつもの途中下車ありかたつむり　笑子
途中っていいな希望がまだ残る　寛
人生の半ば足湯でリフレッシュ　敬子
見守って下さい羽化の途中です　昭紀
腕力がついた南瓜軽く切る　歩美
草取りで妻と見掛けたカマキリを　半徳
魂のバージョンアップして進む　厚子
キンモクセイ香るよやっと秋が来た　史子

川柳ふうもん吟社（鳥取）夏目　一粋報

のぼせ山だから煽ててから使う　洋々
信じれぬしかしこの場は目をつぶる　美恵子
沢山の死が九条の芯にある　無限
チェックインしたらすぐ出る繁華街　清信
もう一度見たい地佳平さんの笑み　天翔
いつだってだけどしかしに誤魔化され　一瑤
芯がなくふわりふわりと流される　美佐枝
まあしかし子の言い分も聞いてやれ　三千代
のぼせやま憎めぬ人で場が和む　幸子
はき心地良いぞおしめはチェック済み　真理子
神様がチェックする私の余命　悦子
千羽鶴平和の芯でツンと立ち　野蒜
褒められて直ぐ木に登るのぼせ山　回春子
のぼせ山人ごみ見ると走りだす　善平
白少し汚して仲間増やしてる　毅
鼻歌をうたえば軽くなるペダル　文香
冬の虹ひとつの芯は持っている　八郎
北風よ吹くな芯棒折れそうだ　房江
核芯をつけば見事にはぐされる　掻之助
栄転はしかしながらも妻の功　髙鷲
のぼせやまばかりで議事が進まない　節子
お世辞だと知らず良い気ののぼせ山　凱柳
菊一倫ああ友が逝く秋もゆく　とも湖
信頼で結ぶ手と手は離れない　みゆき
老いひとり自由と孤独かみしめる　昌鼓
しかしだね一寸考えさせてくれ　雅女
言い訳は通すがしかしおかしいな　蟹郎
芯のある黒幕だけに手が焼ける　金祥
川柳も年中チェック風の中　妻子
チェックするだけで果せぬ旅プラン　敏夫
才はあるしかしお金はありません　隆浩
福よ来いしかし我家は鬼ばかり　勲章
しかしまああれほど自慢出来る女　茂登子
東京五輪利益と打算交錯する　由美子
いい人にされて結構いそがしい　一粋

方言「のぼせ山」は調子者の意

和歌山三幸川柳会　武本　碧報

未知数を抱いて少年駆けていく　純子
まだ生きていますと噂流しとく　倫子
まあだだよの声一つ消え二つ消え　日出男
反対へ気色ばむのはまだ未熟　敏照
まだ逝けぬ気になる人が居てるから　章子

まだあった愛の化石が残る道　悦子
まだ余力あるうち畳む羽根の音　明子
まだ立てる歩ける明日は四股を踏む　昇
まだ生きて欲しい介護を苦にはせぬ　義雄
まだまだがいつの間にやらそろそろに　俶子
なぐさめのまだ伸び代という言葉　義泰
まだまだという根性に生かされる　弘子
人という字を食べ過ぎて食あたり　保州
苦楽食べ話尽きない夫婦碗　菜摘
満腹になるとやさしい顔になる　美枝子
冷やめしも食って広がる人の幅　准一
美味そうに食べる芸なら負けません　美羽
一杯のうどんに義理を流し込む　昭枝
夕焼けを一杯食べて赤トンボ　みつ江
かたつむり反省すると動かない　宏夫
ふる里のまつり囃しに詫びにいく　和子
反省を強制された団子虫　次根
反省のたびにロダンになるわたし　ひろ子
繰り返す反省背なが丸くなる　起世子
反省のくやし涙は明日の糧　富香
言いすぎた後で反省するばかり　当代
反省がまるい笑顔を準備中　あき子
飲み会はいつも反省会という　よしこ
恩返しせぬまま永久の別れとは　幸子
紆余曲折あって私が浮いている　碧
和解して二人で仰ぐ虹の橋　みね

男は土に女は風に火を埋める　智三
花に酔いそして私は蝶になる　絹子
ポリシーを失くしてからの鰯雲　幹子

城北川柳会（大阪）　近藤　正報

最高と今を思って生きている　たもつ
山男と島娘でも共白髪　北舟
口止めをされると泳ぎ出す内緒　和夫
手帳にあるオンリーワンのわが宇宙　堅坊
目張りして灯火制限した戦時　博
相談の出来ぬ悩みを三日月に　榮子
その話オチはなんやと関西人　俊雄
たっぷりと夢描いているクレヨン画　野鶴
男の美学つらぬき黒田グラブ置く　武彦
ざわわざわわ島の夕暮れ風騒ぐ　克己
ちっぽけな悩みを笑う秋の天　朝子
いただいた命悔いなく生き尽くす　賢子
たっぷりと癒してくれた母の膝　志華子
母恋し溜め息漏らす流れ星　星雨
新米に土の香りを添えて母　あさ子
大ジョッキほどの相談なら聞こう　郁夫
里帰り母が待ってるミカン島　千恵子
青春の記憶鮮明芋カボチャ　弘委智
ふるさとの島に豪華な橋がつき　寛昭
島巡り遊覧船に鷗飛ぶ　髙志
きっと良い相談だろう子が帰る　麗

早川遡行選

夜遊びに飽きた蝶々を飼い馴らす　ひとし
天候の豹変山は恐ろしい　克己
ふりむかず背中で聞いたさようなら　満寿恵
火葬場の煙になっていく秘密　重利
土壇場の武器はユーモアだと思う　あかね
生きている限りまだまだ未完成　なる子
山の日と海の日やはり家がいい　みどり
神前の誓いの何と脆いこと　理恵
乗り越える壁があるから頑張れる　武彦
忘れたい旅が逢いたい旅になる　郁夫

佳句地十選（12月号から）

斉尾　くにこ　選

渋いねと地味な男を慰める　実
火葬場の煙になっていく秘密　重利
土壇場の武器はユーモアだと思う　あかね
プライドをくすぐり合っているラベル　めぐみ
円いから三角四角寄ってくる　和夫
意気込みを打ち砕かれた日の歩幅　完次
ふたり一緒に雲の絨毯から落ちる　葉子
来し方のしみじみ滲む古手帳　正彦
怪獣の卵の頃に来た女房　道唱
時々は若くないこと忘れます　哲男

たっぷりの援助がほしい飢餓の国　一歩
ずっと休みに死んでいただくのはあなた　修
寄せ鍋を囲むと秋が深くなる　義昭
相談をしてみたくなる母だった　杁香
永観堂たっぷり秋がやってきた　縣筰
火種にはこと欠きません世界地図　洋志
明日という希望を夕陽から貰う　満洲夫
沖縄を土人と叫ぶ人がいた　勝弘
次々と記憶が漏れる古稀の脳　いさお
相談も喧嘩もします夫婦です　求芽
川の字で寝た子も何時か反抗期　五月
ＴＰＰ裏を話せるのは甘利　正

きゃらぼく川柳会（鳥取）成田　雨奇報

夏椿終わる一輪輝いて　あやこ
脱いだシャツあわてて捜す宅急便　雨奇
何事もやってやれないことはない　かね子
ニコニコと笑顔行き交う夏祭り　幹啓
ご先祖も暑い暑いと云うお盆　紀の治
ばあちゃんは五年前でも去年という　桐子
幸せも花の命も続かない　恵子
暑い夏そろそろこいと手を招く　正二
お言葉に頷くばかり正座する　千代
食祭り地場産グルメ珍味ある　治代
傘寿の会みんな口紅つけている　日枝子
日暮れ時カナカナぜみの声高く　ひろこ
読めませんかな漢文の書道展　宏之
胃カメラは喉越しくるし胃はきれい　美草
猿に破られ知能合戦焦る脳　美佐子
つくつく蝉鳴いて解放夏終わる　瑞枝
夏野菜たっぷり食べて涼を摂り　美智子
ベビー室ルーツを背負う児がずらり　美穂
目をこらし小さな秋をみつけよう　ゆき

川柳塔みちのく（青森）稲見　則彦報

男では軋む女が丸くする　隆樹
進む減反案山子も小屋で嘆いてる　初枝
雨垂れが軋む鎖骨にまたポトリ　則彦
引っ張りだこはやっぱり母の膝枕　のぶよし
月が出て案山子は別な貌をする　黙人
走馬灯を軋ませ笑顔五楽庵　花匠
軋むほど野次馬多くなる選挙　柳子
君となら楽しいことが倍になる　龍馬
五楽庵句碑好きで離れぬ蜻蛉たち　劦
定年後もてもてマンの免許数　井蛙
苦しんで苦しんで産む楽の種　霜石
信楽の狸に勝る太っ腹　洋子
裕次郎・健より凄いポケモンＧＯ　一呑
道沿いで声援くれる案山子たち　風来坊
善玉菌悪玉菌の夫婦です　和香子
楽の字を見れば師の影滲み出る　慕情
休耕田多く案山子も就職難　美鈴
多情多恨おんなの語尾にある軋み　芳生
日本の軋みは年金者にくるの　規子
錆びついたブランコ揺らす一人っ子　ひとし
終戦日ちちの背骨が軋み出す　ふさゑ
死ぬまでは案山子と呼ばれたくはない　重虎
もてもての出来る老舗の隠し味　呑舟
掛合いの話上手に軋みなし　京子
パラリンピック応援してる田の案山子　きよし
案山子には　かかしとしての涙壺　夕香
十三夜缺けているのもおつなもの　小とみ
秋の夜長ホタルと遊ぶコップ酒　花峯
退職し一坪野菜玉の汗　つとむ
薫風師のお供した日の弘前城　氏加子
ご亭主がもう止められぬ女ぐせ　一花

川柳塔打吹（鳥取）野口　節子報

洗濯機ガラガラ硬貨が喚いてる　玲坊
ガラガラの金庫ひとつが捨てられず　滋
すすき野で愛が崩れる音がした　三津子
ビール缶ガラガラ鳴って鳥を追う　久芽代
一言が吐けずガラガラ喉の奥　美知江
神様が出ておわすまで鈴鳴らす　芳光
ガラ空きのバスを赤トンボが嗤う　完司
朝寒に明日は我身の枯ススキ　公恵
七草が揃わなくても粥啜る　美美子
そよ風に乗ってススキが腰を振る　龍枝

お返しに亡母にたんまりお供を　悦子
オートファジーノーベル賞で恩返し　貴恵
大きくなれと海に返した釣った雑魚　重忠
ウインクを返した縁で結ばれた　清
薔薇に棘引き返すなら今だろう　重利
年金の通知一応裏返す　妻子
言い訳を受け取れないと返される　くにこ
正月と盆と祭りの繰返し　石花菜
微笑みを返してからの微熱かも　美ッ千
トラブった背中合せが笑い合う　たけ代
仲良しの根にトラブルの花が咲く　久江
トラブルの盛りたくさんの東京五輪　瑞子
一円玉足る足ら無いがトラブルに　道子
トラブルの糸も解けて秋日和　照彦
トラブルがあって一日完成し　義人
赤青黄ぜんぶ点滅信号機　野蒜
トラブルは私のよく喋る口　紀美恵
トラブルは金一封で治まった　節子

川柳塔すみよし（大阪）　森松まつお報

青空へ自由自在の車椅子　朝子
現実と夢の間でもがいてる　満作
星になり世界平和を降り注ぐ　舞夢
夢のよう宇宙ただよう星になる　廣子
竜宮に住んで愉快な認知症　ゆみ子
空想から覚めないうちに逝くつもり　昌紀

地図広げ行ったつもりの旅をする　敏晴
反抗期外で他人のふりをして　直子
曼荼羅の世界極楽ええもんや　里子
人前は他人行儀で云うてくれ　かりん
他人には優しい嘘が要るのです　安代
他人には言えるゴメンが夫婦では　公平
美人から他人の空似と煽てられ　舞蹴
失礼を承知で叱る他人の子　日の出
つまずいて他人の温み身に沁みる　半銭
捨案山子どこか他人と思えない　ひろ介
他人にはこの人の良さ分からない　芳香
御曹子他人のメシで知る世界　満知子
予告などなくて人生幕が下り　満寿恵
定位置に陛下座って幕が開く　隆昭
師の声が聞こえたような句碑序幕　由一
幕が開き切ない喜劇演じ切る　雅美
一幕を三幕にして小池劇　重信
煙幕を張っても尻尾のぞいてる　萌
ひと幕のドラマの中を生きている　いさお
五分五分はこちらの負けで幕にする　俊雄
幕引きはバイバイそしてありがとう　志津子
靴脱いで靴下脱いでああ我が家　ばっは
脱皮中しばしご無沙汰致します　(矢)五月
威勢よく諸肌脱ぐも染みだらけ　宏造
頭打つ度にちょっぴり脱皮する　大子
うろこ脱ぎ新たな海へ挑みます　ふりこ

盛り過ぎ売れなくなれば脱ぐ女優　福貴子
制服を脱ぐ定年の幸せよ　シマ子
脱皮してから吉運が加勢する　美籠

川柳塔なら　大久保眞澄報

秋日和子規の愛した花の咲く　朝子
転害門つわものどもの置き土産　和夫
子規の縁奈良に柿生り鐘も鳴る　萌子
古都散策ガイドも客もお年寄り　眞澄
大仏殿背景に柿子規の庭　博一
大仏の裏の辺りの迷い人　將文
晴れおとこおんな吟行古都の秋　倫
晩秋の古都の冷気に身を正す　辰雄
子規の庭柿ももみじもお出迎え　ふりこ
天平の文化を愛でる古都の秋　満作
鐘を聞き庭を愛でつつ食べる柿　崇明
霜に染まる桜紅葉の秘めた恋　文聡
霜降って鍋の野菜は丸くなる　甚之市
ひと振りのタクトに身構える楽器　寿之
冬将軍いよいよ毛皮にカイロです　すみれ
長旅へ靴もいよいよ草臥れる　成子
参道の静寂破る砂利の音　盛隆
修羅の道越えていのちの話する　妙
現世との別れ火葬の戸が閉まる　薫
落葉ふみ今日は嬉しい退院日　紀子
真っ直ぐな道真っ直ぐに来た無冠　國治

達人は道の遠さを語らない　蕉子
躓いた道で他人の手の温み　大子
獣道何度か避けて定年日　貫一
大中小霜に子供の靴の跡　敬子
振り返るそれでも前を向いている　ダン吉
地図にない道踏み分けて夢を追う　富子
苦難道乗り越えやっと幸の道　賛郎
この胸に夢を抱かせてくれた道　恵美子
おっとっと踏み外せない人の道　柾子
みんな行く道誰も戻って来ない道　理恵

南大阪川柳会　津守　柳伸報

代行がメダルをしのぐ感動を　弘委智
老いた母まだ代行はいらないと　直子
ラブレター代筆無用スマホあり　篤
ピエロ役代わりにやって止められぬ　郁夫
代行のはずが本人来て邪魔や　東風
愛妻の代行からの後妻業　克己
名刺もち僕が参列する葬儀　栄子
腹からの声カラオケは清涼剤　柳右子
冬野菜種蒔き終えてすっとする　ルイ子
すっきりと吐けと机を叩くデカ　歌留多
脳活パズルすっきり解けた事がない　恭昌
通帳はあるけどみんな0ばかり　修
わだかまり解けて見上げる空高く　純子
ほなさいなら縁切り寺ですっきりし　あさ子
物忘れ頭すっきりする余感　たもつ
遺産ゼロ父はすっきり逝きました　楓楽
足スロー口が達者でよく揉める　タカ子
何事も手早い人にくらべられ　なぎさ
よめはんもレジの前ではグズである　勝弘
ワンテンポ遅れたギャグに座は白け　忠昭
政活費でわが屋リフォームする議員　いさお
警官の暴言かばう松井知事　和雄
事故現場ルールマナーを見せつける　柳伸
負け犬の自分自身に腹が立つ　志華子
携帯の修理一万買えばタダ　博
待ち呆け顔がだんだん歪み出す　更紗
日本の米が水より安いとは　一歩
京言葉後でじんわり腹が立つ　昌紀
父からもらう苦い飴だってある　シマ子
初恋の手の温もりのリンゴ飴　弘子
おばちゃんは飴が手形のおつきあい　俊雄
飴一つしゃぶりたかった火乗るの灯　国和
飴なめさされたか蛍帰らない　あや子

川柳ささやま（兵庫）　北澤　稠民報

柚子風呂で心のゆとりとりもどす　かほる
人生のつまづき坂はたんとある　勇
田舎から四季折々の荷を送る　哲男
酒飲んでためいきついてる罰あたり　稠民
調節がきかぬ心の空模様　真由
年毎にためいきもらす数が増え　開子
ハッとするため息ついてた人前で　幸子
カラス群街の中での食事会　照代
忙しい言いつつ遊びも忘れない　美智子
秋空に一投一打の泣き笑い　善輔
田舎っぺ今なら素敵個性的　さゆ子

ブラザ川柳（大阪）　梶原　弘光報

ぬけぬけとまじでうそ言う知事がいた　修
棚田にも休耕田が増えてきて　和代
山村に苔生す岩に荒れる棚　政夫
貧しくて斜面削った千枚田　正子
黄金色棚田の稲穂首垂れ　悦夫
神技が棚田縁取る曼殊沙華　淳司
飯粒を大事に拾う喜寿米寿　久美子
呱呱の声天使誕生過疎の町　一彌
老い四人天使も鬼も居る暮らし　清乃
遣らずの雨天使の粋なお計らい　弘光
どちらさん天使になった母介護　克三

川柳塔唐津（佐賀）　仁部　四郎報

変化する時代の岸で淀んでる　蜂朗
目に見えぬうねりとなるを自覚して　實
町内で積みたて金で井戸を掘る　四郎
はなやかな世から消えてて今孤独　節子
歓声が天まで届く金バッチ　高明

川柳同友会みらい（鳥取）吉田　陽子報

残り火を消さぬ老後の薄化粧　澄　子
猫よりもましか気まぐれお手伝い　和　之
知らぬ間に休日増えている暦　和　代
ゴーサイン出して不安と板挟み　あゆみ
来年の作付け迷うＴＰＰ　菜　美
変調のサイン怖くて認めない　みどり
ロボットと暮らす明日が見えだした　美恵子
口が堅いと言ったのは私です　みちこ
急がねば氷河の滑り止まらない　章　子
恩ばかり増えて返せる日が遠い　和　郎
行き先知らず流れのままに船を出す　亜　矢
今になりあなたのサイン読めてきた　安　子
駆け抜けてった夏誰もいない海　真　帆
慣れ過ぎたデフレ別れが惜しくなる　陽　子
愛という港が狭くなってくる　華　蓮
丸投げをしたくせ後に文句言う　葵
無言のサイン　ナイフのように突き刺さる　遊　子
感動のない毎日が良いのです　公　弘

川柳茶ばしら（愛知）　関本かつ子報

村起し地酒販売活気づく　雅　美
おしゃべりもアンヨも上手でもオムツ　まみ子
歩いても歩いてもまだ遠い夢　遡　行
国会の論戦躱す古狸　三樹夫
張り切って三日で終わる万歩計　美千代
丸形のポストにほっとする温み　かつ子

京都塔の会　山田　葉子報

常備菜働くママを助けてる　弥　生
胸ドキドキときめきでない心不全　円　笑
突き詰めず枯山水の無に浸る　ふりこ
断捨離をクリアしました我が書斎　泰　夫
うっかりの違反切符をまた貰う　肇
スマホにはクリア出来ないもどかしさ　弘　子
総菜の残りで作る新メニュー　忠　子
一坪の菜園ながら四季を生む　欣　之
レシートの長さに無駄を叱られる　昭
味噌汁にプランターからミツバゼリ　英　旺
いい顔の野菜がずらり朝の市　保　子
足るを知らず余るも知らず増えるゴミ　文　代
天狗だったと自分の無知を思い知る　光　久
語りべの話で知った沖縄戦　満　子
終章になってようやく知る理由　紀　乃
心に秘めた人にときめく最期の日　則　彦
ひと夏の恋にときめく百日紅　千　代
温度差を脱いだり着たりしてクリア　洋　志
大笑い健康長寿クリアする　義　昭
トンネルを抜けたのですね秋麗ら　美　春
ときめいた日花マル上げる日記帳　宏　子
お互いに車椅子でも恋は恋　北　舟
ときめきは忘れたなどと手酌酒　美津子
クリアした今日へまっ赤な陽が沈む　哲　子
辛い日は笑いとばして前を向く　朝　子
クリアした過去から重い荷が届く　福　子
ときめいてメールを見たらコマーシャル　弘　之
古老から教えてもらう生きる知恵　かずお
ときめきを花から茶からもらう朝　求　芽
クリアした目標次が見えてくる　葉　子
妻の声昔ときめき今びびる　正　彦

富　柳　会（大阪）　関　よしみ報

汗かけばとにかく答だす大地　常　男
夫婦だなとにかく似てる不器用さ　伸　雄
だんだんと痩せてしまった好奇心　登　子
新春に幸多かれと筆はじめ　清
遠吠えも出来ぬ草食系男子　慶　子
狼が少年だった頃の罪　田鶴子
一匹のウルフ孤高の一本気　壽　峰
墨をする心で凛と筆の跡　髙　鷲
風穴を開ける心の旅続く　澄　子
古に辿る墨跡人の慧　朋　子
筆圧が遺恨の過去をぶちまける　仁
青空にコスモス揺れて秋の唄　深　雪
筆跡でわかる名無しのラブレター　武　人
火の章を閉じるあなたを見送って　恵
古稀過ぎてあとの人生旬の味　一　文

絶滅は人災忘れてはならぬ　奏子
秋霖へ苦もなく溶けていく私　寿之
まだ白いページがあって頑張れる　扶美代
ひたすらに真面目に生きてきた尻尾　アキ
一瞬に狼達が囲む膳　よしみ
茶柱が今日のやる気をそそのかす　晴美
墨痕の句碑鮮やかに読めぬ筆　欣之
毛筆の墨字に自尊心がある　森子

長柳会（大阪）　辻村　ヒロ報

安売りの旗逃がせず空財布　ヒロ
記念日に国旗出す家稀になり　洋二
天使抱くまわりの人は皆笑顔　弘美
介護される身天使のように介護する　靖博
やんわりと小遣いねだる孫諭す　たけし
やんわりと断り上手京おんな　旅人
自信なく想定外の言い逃れ　辰男
自己尊重ばかりで融和置き忘れ　和代
厳しいが尊く沁みた師の教え　孝代
近頃の男子厨房から出でず　淳司
想定外老いに苦しい台所　隆彦
フル回転の頃懐かしい台所　ともこ
拝むうち石ころだって神になる　正美
頬笑んだマザーテレサの天使の目　幸子

川柳塔さかい（大阪）　村上　玄也報

第一線で歩いた華を懐かしむ　唯教
夫婦して六本脚で散歩する　富夫
そのうちに歩けなくなる今歩こ　さくら
舞台裏はどんでん返しうろたえる　世紀子
歩き慣れた道で小石に躓いた　若芽
よく歩く脚だとクツがぼやいてる　月子
利己主義を背負って歩く民主主義　敏治
歩かねば今日という日が無駄になる　ひろ子
歩く夢ばかり見ている車椅子　ヨシ枝
外出へ空の機嫌がちと悪い　かりん
母さんの機嫌で献立が変わる　シルク
ここからは歩くべきだという景色　扶美代
たまに来て今昔探る御堂筋　清晋
機嫌良い母を見てると疲れとれ　舞夢
手術後にイケメン医師を杖がわり　澄空
寝酒して休めた脳が二日酔い　素頓馬
ここにきてわたくしなりと言う歩幅　五月
期限よく飲んでいるのにイチゴ出す　愿
長寿国一億人のウォーキング　志津子
脳少しこわれて夫婦仲が良い　ゆみ子
肩書きがとれたら実に酒うまい　憲彦
おばちゃんの口は足より先を行く　和夫
夫の事脳裏に浮かぶ一周忌　八千代
徘徊と言われぬようにポチと行く　清憲
日本をよくぞ歩いた伊能地図　大造
よちよちでも一人歩ける幸せよ　時雄
動機付けしないと散歩にも出ない　好
身の丈に合った歩幅で転ばない　俶子
免許返納自前の足にチェンジする　みつ江
さようなら女は前を見て歩く　誠一
地に足をつけて余生は亀の足　としお
空っぽの脳にもあった私利私欲　妙子
鰤しゃぶと土鍋ごはんで旨い秋　みつこ
脳の錆こそげてくれた落語会　玄也
パソコンに任せて脳はさぼりだし　仁

はびきの市民川柳会（大阪）永田　章司報

先人の生き様真似て破る壁　いさお
百歳が溜める百年分の灰汁　登志子
良い事は真似しなさいと子の躾　美代子
そっくりに真似ても無理な氏素性　高鶩
骨太でちょっと灰汁あるマイペース　シルク
児が真似る迂闊な事は出来ぬママ　六点
すねる真似泣く真似もして蝶になる　泰子
孝行の真似ごとをする旅行券　アヤ子
方言で買物をしてる老夫婦　美籠
幸運に恵まれ灰汁が目立たない　喜久子
真似るから始まる画家の卵達　かつ美
あきまへん大阪弁がぬけまへん　一文
名人を真似てみたが所詮真似　千鶴子
野の花に思いを寄せる秋の朝　真一
補欠選野党協力実るかな　美喜
柿を剥く冷たさ冬の味になり

方言で話せる友がいるわたし　フジ
悪いとこ全ておやじの模倣です　光男
灰汁抜きすぎてしょうもない奴になり　遠野
ひっそりと広島弁にあこがれる　雄太
連れ合って似たもの夫婦半世紀　洋一
京女まねてしゃなりとにじり口　みつこ
居酒屋で大阪弁がよう弾む　ひろ介
人間の灰汁を抜いたらみんな猿　清
暖簾くぐればお国訛りで旨い酒　ちづる
合言葉もうかりまっかあきまへん　壽峰
値切るなら大阪弁に限ります　まつお
方言の酒は心の丸裸　欣之
同窓会お国言葉に癒される　章司

川柳大阪　山崎　珠生報

どんよりの空が仮設を覆う人　克己
持ち帰る空弁当に感謝入れ　かよこ
城崎は空出張の名所です　まつお
まっすぐに歩きたくなる青い空　芳香
青空にこどもの洗濯泳いでる　温子
きれいな空似合いませんよオスプレイ　美世子
どん底から抜ける希望と言う翼　朝子
アメリカに負傷の翼たんといる　一歩
人情の味はたっぷり染みている　信酔
趣味だけに没頭できる身の軽さ　堅坊
人柄に教養という隠し味　俊雄
うす味の利いた男の生き上手　美籠
味音痴昨日と今日と違う味　珠生
アイハバベンアイハバアブーピコ太郎　勝弘
年金日軽い財布が活気づく　福貴子
老いらくの恋軽い気持ちで火傷する　紀雄
軽い嘘抜き差しならぬ事になり　(矢)五月
政治家の言葉の軽さ世の乱れ　美濃
ギリギリの年金保険むしり取る　司
過去は過去未来に生きる明日よ来い　(中)功

岩美川柳会（鳥取）　山下　節子報

父の火を見送り母の火は消えた　完司
老いの足ガイドの旗が遠くなる　重忠
ターミナル夢追う人と抜け殻と　茶子
達筆でさっぱり読めぬ軸の文字　公子
厄介な口が油に火を注ぐ　一粋
さっぱりと過去を流していい握手　一瑤
味酣干し火加減とても難しい　天翔
傷口を癒しに降りる故郷の駅　美恵子
火遊びのつもりが火事になっちゃった　蟹郎
ストーブの火を消し猫へ詫びて出る　たぬ
火が消えた過疎に移住者犬もつれ　菖子
父の中にすべての過去を放り込む　幸安
遠くまで一人で行ける今が幸　敏子
遠いから黄泉路の旅は遠慮する　雅女
都合よく聞き分けてます遠い耳　弘子
駅名もローマ字あってやっと読め　節子

川柳花の輪（大阪）　岡本　薫報

立ち話犬は我慢を強いられる　泰子
食べたいを我慢したのに2キロ肥え　正太郎
洗剤が隣の工事我慢料　風
こと勿れ主義で我慢が身につかず　みちる
引き際が大事総理も横綱も　勇太朗
これまでと我慢の糸がブチ切れる　笑子
ドラフトのクジを引く手も震えてる　昭好
病院へ行くと決意の眉を引く　敬子
我慢など知らない親が子を育て　薫
あご引いてそれだけなのに首捻挫　あや乃
口数をがまんしながら和を作る　やすの
おしゃべりが手持無沙汰の通夜の席　克茂

川柳あまがさき（兵庫）　大浦　初音報

チョットアンタ妻の一言背筋ピン　修平
落とすよう拾うよう授受医者の礼　英坊
やっと来た私のモテ期は八十歳　佐紀子
飽食のカラス見過ごす木守柿　歌留多
愛うすくリンゴ二つが仲を持つ　柳明
ほめて子を育てるはずが積もりだけ　健二
叱るより煽てて諭す祖母の知恵　紀恵
スーパーに並ぶ松茸見てるだけ　初音
叱られた拳骨いまは父の愛　紀華

黒豆煮やっと出番の錆びた釘　り こ
断酒月やっと終って美酒に酔う　純
よく出来た妻だ叱った事がない　まつお
忘れずに書いておきます今日の事　芳 香
半音を下げて明日を模索する　雪 菜
雨音が素直にさせる今夜です　洋 子
リンゴ落ちて腕組み解いたニュートン氏　比ろ志
三日月がひょいと覗いた露天風呂　靖 鬼
もうあかんファイト一発言うたかて　祐 康
沢庵とお茶漬け旨い音がする　哲 男
ピンポーン代引き届く妻はルス　正 和
叱られて覚えた叱り方のコツ　かずお
伸び代があるから叱る抱きしめる　ヨシヱ
教育は叱るだけでは身につかぬ　奮 水
高齢化やっと八十青二才　耕 治
レモンからデコポンへと妻の膝　宏 造
十指して静かに語る手話の音　千賀子
立ちすくむ仔犬も君も叱れない　ひとみ
頑張れる今日へ感謝のスクワット　美 籠

八尾市民川柳会（大阪）　土田　欣之報

落ち葉踏む確と私をたしかめる　か こ
父の剛母の慈愛の丸い仲　高 鶩
斜に構えいつも疑惑の猜疑心　壽 峰
欲望を使い果たして雲に乗る　森 子
なんでやねん都構想の再論議　紀 雄
セピア色に移る昭和にある未練　常 男
一本の思想を通し抜く美学　朋 子
追いつけず僕はガラ系妻スマホ　安 男
中傷に真っ直ぐ上段の構え　慶 子
スラスラと作句している夢の中　清
豊州五輪小火で済まぬ東京都　一 文
一つずつ構えを外し月静か　両 文
尽くすだけ尽くして逝った愛介護　寿 之
躓いて空が斜めに落ちてくる　惠
晩秋を懐に入れ気まま旅　耀 一
じっくりと構えた竹刀隙がない　千 里
斜に構え耐えて敵の戦意削ぐ　仁
弱い者いじめになってないか舌　欣 之

あかつき川柳会（大阪）　山本　昌代報

賽銭箱に無駄な祈りが溜ってる　瑠美子
博多陥落ワシントンは崩落　樹
不器用に雲行き読めぬまま生きる　英 夫
無駄になって欲しいと思うすべり止め　隆 昭
当時国長崎の鐘どう聞いた　克 己
秋の雲軽く絵筆で掬い取る　穏 夫
なぜ生きるか問うて分からぬ秋夜長　惠美子
老婆にも爪にマニキュア若く見せ　善 之
難民の行方気遣う白い雲　たもつ
生かさずに殺さずに鳴る鐘二つ　のぶ久
神楽鈴すくすく育て巫子が舞う　満知子
夫とは攻守交代来世では　福貴子
長寿者を祝うどころか死ねという　堅 坊
七十年平和憲法底光り　義 泰
軍事費が無駄になる世にしたいもの　喜代志
黒田節物価上がらず調子落ち　康 信
いわし雲駅伝の子を追いかける　哲 男
空見上げ雲に叱られ励まされ　直 子
どきどきと高鳴る胸の久しぶり　朝 子
山削る山の呻きが耳の底　ばっは
無駄死にをさせてはならぬ冬の蝶　哲 夫
無駄遣い異口同音に政活費　篤
凛として男嫌いの女史がゆく　俊 雄
声援をまた無駄にする四番打者　和 雄
浮気する夫だけれど秋刀魚焼く　(櫻)秀 夫
木枯しに絵馬がかたかた明日受験　一 志
無駄話しながらヒント探してる　(松)秀 夫
ため息がこれ程あると検査院　行兵衛
無駄でない無駄捨て石が置いてある　浩 子
断捨離の中に混じっていた夫　高 鶩
女房が陰で私を支えてる　一 文
八十路来て懲りぬ女の厚化粧　壽 峰
古稀過ぎてセーラー服が捨てられん　久美子
象の形の雲がほどけて鳥になる　廣 子
隠れんぼしたまま秋が戻らない　栄 子

翠　洋　会（大阪）　佐々木満作報

シュレッターにかけて密約飲み込まれ　弘 子

内緒やでと言われて押した削除キー　桃花
河川工事消えた僕等の秘密基地　恭昌
秘密には帽子被せておきました
妻の鼻どんな秘密も嗅ぎ付ける　義
秘密なし緊張もなし老夫婦　浩二
僕だって明かせぬ女がひとりいる　公平
かくして悔い打ち明けて悔い夜の底　げんえい
秘密無い大人はきっとのっぺらぼう　希久子
秘密だと言えば真剣に聴いてくれ　すみ子
どうだった息子遠くで円描く　千歩
マンネリのシステム伸び悩む企業　舞夢
システムが狂って核が飛ぶ怖さ　満作
長く生き路傍の石のまま終る　捷也
金縁眼鏡近寄りがたい学者肌　照子
格差社会泣くのはいつも弱者たち　正雄
野放しにされてコスモス逞しい　昭
晩秋に渋柿甘く北の風　良子
思ってもない事口がしゃべり出す　善之
ネジ巻いたら踊り始めたおばあちゃん　敬子
老いらくの夢路に恋を描いてみる　眞澄
めんどりが鳴かず喜ぶ民がいた　志華子
アメリカの女性トップはいつの日か　和夫
加速つく忘れ上手と手をつなぐ　紀子
七五三遠く離れた子よ孫よ　富子
ひらひらと浮かぶ面影濃く淡く　理恵
花から花へひらひら蝶は生き上手　みつ子
　　楓楽

川柳塔まつえ吟社（島根）相見　柳歩報

今一つ味方に数えまた迷う　注湖
こじんまり生きて味方も敵も減る　知恵子
味方へとゆっくり流す肩のこり　輝山
味方からもらう大きなにぎりめし　ちえこ
ヒグラシを味方に一人旅に出る　堂太
庭先のカエル私に指示を出す　あきら
山村の家の灯りの暖か味　瑞人
やっかみがコロコロ迷信がポロリ　芳山
迷信を包んだ父の防寒着　たけし
迷信をかなり気にする葬儀場　弘充
迷信もたどり着いたら神がいた　久絵
出る時はいつも右足玄関を　孝子
迷信もときに心のささえだね　ひすい
隣国のゆれるニュースに立てる耳　幸子
嘘を書くペンはかすかに揺れている　桂子
しばらくはガラスの城で揺れている　寿代
いい話揺れる心を諌めつつ　ゆき
揺れ動き喝一言に眼を覚ます　左余
ひと言で揺れが止まらぬ胸の内　雪代
いい話揺れる心をどうしよう　涼子
素粒子の世界鼻毛を抜いている　柳歩
極小の粒でもダイヤ威張ってる　妙子
兵糧米なくなりそうな粒一つ　哲子
粒つぶが顔じゅうに出た悩んでる　俊子
粒揃い選んだ粒がこれなのか　みちを
ピリオドのように煎り豆噛みしめる　美智子

倉吉川柳会（鳥取）　竹信　照彦報

飛んで跳ね今日一日を闊歩する　紀美恵
疲れたか夏飛ばして本を読み　風露
うたた寝に震度六弱飛び上がる　雄大
大地震とんぼも飛ばず秋さみし　智恵子
飛べる日を夢みて毛虫這っていく　萩江
思いこみ時間が来ても誰も来ず　英子
地震にはてっきり強いちさい家　けいこ
仏顔ネコババしたかあの顔で　次男
惚けたのはてっきり貴方そうですよ　酔芙蓉
人間の値打ちは死んでから分かる　石花菜
苦学した人の話はよく分かる　重忠
あの人は分かる分かるといつも言う　瑞子
地震予知誰も出来ないのが分かる　茂夫
柄になく口にチャックし元気なし　由紀子
大臣の柄でないから軽い口　鬼一
ヒョウ柄のおばさん来たら譲る道　野蒜
顔忘れドレスの柄で思い出し　日出子
川柳の外に取柄はない老後　妻子
人柄が良いから顔は我慢する　玲子
弾道弾飛ばして威嚇北の国　照彦

川柳さんだ（兵庫）　田中　章子報

空の青紅葉の赤とハーモニー　哲男

ふぐてっさ三田青磁が引き立てる　恭子
青空を信じて歩む予後の杖　武彦
ほちほちよさんだ句会で青二才　富夫
青春を謳歌している長寿会　花門
方言で道教えられなお不安　徹
方言で招集かかるクラス会　好文
同郷の妻と外では関西弁　勝正
悪口も平気で言える国なまり　隆
転校の孫が悩んだ土地ことば　キヨミ
休養をせよと動悸の出すサイン　迪
赤ちゃんのサイン読み解くママの勘　光久
トラファン熱気みなぎるサイン会　順子
悔しいな気づかなかったラブサイン　ちあき
子のアザをいじめと見抜く親の勘　雅尚
ハート型しているみたいわたしの瞳　ひとみ
見落とした吾が子のサイン悔いばかり　加代子
人間のサインひとつに運不運　一子
曲がったことしていませんと天仰ぐ　ヨシエ
へソ曲げたらしい一皿少ないぞ　正和
ブーメラン風の囁き見逃さず　靖鬼
折り曲げる傘持ち歩く秋の空　野薫
ゆるやかなカーブ終章ステップで　淑子
週刊誌面白おかし筆曲げる　つな子
曲がらねば蛇は前には進めない　修平
神の手に祈るカテーテルの曲がり　耕治
居心地のよい便座ですどっしりと　祐康
目標にしてきた広い父の背　美籠
どっしりと構えていたら置いとかれ　健二
絶え間なく仕事をくれる落葉樹　宣子
スーパームーン今夜甘えていいですか　周三
その内に銃をかつげと煽られる　晃
食前のくすり食後と飲み違え　歳子
落し物届けた場所で忘れ物　雄太郎
スーパームーン見たく露天の人となる　哲夫

西宮北口川柳会（兵庫）　藤井　宏造報

何もせず三回食べて日が暮れる　正和
わずらってそれから強くなった女　千代
指一本怪我してさえも気がめいる　光子
わずらわしい時は遠くの海を見る　光久
認知症予備群と言う位置にいる　千賀子
退院し妻の手料理ほれ直す　りこ
息継ぎの目標果たし夏終える　宣子
平凡の中から首を出す個性　利子
直線を引くこの平凡がむつかしい　美津子
オール3卒業しても変わらない　和宏
かあさんにほめられたくて走ったよ　ひとみ
平凡を望んだはずが玉の輿　文香
生きるとは死ぬとは友の見舞終え　わこ
遺言を書いてしまえば終りそう　一徳
ありがとうこの一言で頑張った　盛夫
信じてる明日の風に身を任そう　弘子
これからの余生たのしむ白い地図　紀華
盆栽の生前退位済ませてる　勝弘
強がりはよそう淋しさ募るから　宏造
向い風当って強く生きてます　順子
雑念が名鏡止水のじゃまをする　じろう
年重ね想いわずらう身の置き場　キヨミ
煩いの種は団子の汁にする　恭子
百歳を目指す女の果し状　哲子
夢果たせず帰る故郷は暖かく　浩司
代役を拍手で終る紙吹雪　千津子
同じ月ながめているか里の母　洋次郎
月となら切ないことも話せそう　武臣
望郷の月を見上げている遺骨　哲男
平凡な暮らしに突如まご嵐　みつ子
転嫁せず責任果すは自らに　正彦
妻の待つ家路を急ぐ月あかり　敦子
平凡という幸せをつい忘れ　千恵子
平凡が何より老いの侘び住まい　秋果
八十路にて孫がドクター夢果たす　健彦

岸和田川柳会（大阪）　佐藤　幸子報

渋ちんと村中みんな知っている　清
指触れただけで頬染め恋心　カズ子
年輪を重ねてにじむ渋い芸　喜代志
攻防の妙味満喫岡目席　一子
十指でも足りぬ亭主のいい所　和美

沖縄の千の祈りが指笛に　和夫
渋抜きの樽に入れたい永田町　信二
逃げ道を設けて敵を攻めまくる　愿
孫とした指切りいつも高くつく　忠太
攻めている時には見えぬ人の情　大輔
渋ってはならぬ難民への支援　隆昭
青春をリュックと共に謳歌する　珠子
裁縫にダイヤの指輪さまたげに　幸子
鶴彬戦に挑むあの一句　ダン吉
勝負事守るは攻めの基本なり　のぶお
非常用リュックは出番望まない　ふさゑ
指切りをすればするほどホントかな　白水
白鵬の張手かちあげ興を削ぐ　英夫
幼な子の背負うリュックに夢あふれ　益男
老いること攻めのかたちで待ち受ける　みつ江
愛用のリュックが還る登山事故　義泰
三つ指を着きたいけれど腹が邪魔　洋二
出番無いリュックでいいよ避難用　律雄

川柳ねやがわ（大阪）　籠島　恵子報

血筋だなビールが並ぶ冷蔵庫　かすみ
生きざまに限界などは持ち込まぬ　鈍甲
憲法の古希を祝うか安保法　眞澄
ここ一番妻の横槍防ぎ切る　弘委智
欲望という名の箱に底がない　洋
まだいける限界忘れ救急車　高志
一転無罪の死刑のある怖さ　堅坊
杯が揺らぐ裏切りかもしれぬ　祥昭
諭吉にはとんと無縁の血筋です　仁
母笑う苦労が刻む深いしわ　信子
アルバムに刻んだページ皆笑顔　麗
フリーサイズにも限界あるらしい　りえこ
墓は別よ裏切る訳でないけれど　弘一
裏切りの少し手前ですみません　柳弘
若者に限界は無い可能性　賢子
夢よりも今満つる日を刻む齢　一
限界を知っているから昼寝する　郁夫
限界を目指せば夜が白みだす　恵子

豊中もくせい川柳会（大阪）藤井　則彦報

もうでなく未だと信じて前を向く　ヨシエ
装ったつもりを誰も振り向かぬ　求芽
トランプにアベノミクスが慌て出す　肇
幸せな人にはエール送らない　美津子
はっけよい背中で観てるガードマン　健二
もうええと閻魔に託すも検査台　武彦
明日咲くと耳うちをした紅椿　美佐子
金利ではもう操れぬこの不況　堅坊
曲がったこと嫌い痩身が証　靖鬼
ふる里を守ってくれる桜島　武臣
もう一人の私が駄駄をこねている　葉子
毎日の元気に感謝神の守護　美智代
言い訳を止めぬと進まない一歩　則彦
ゆっくりでいいよと言われ腕捲り　正彦
装うと主婦解放の羽がはえ　(岩)玲子
サギ横行脳に乾燥注意報　黒兎
地球とは難儀やなあと見える月　見清
向こう三軒両隣とは守り合う　宏子
駅前のティッシュが欲しい風邪を引き　耕治
子守り歌亡母の声する冬の夜　満子
読みながら光源氏は嫌なやつ　(居)真理子
守れないかも思いながらも小指出す　(永)玲子
限界を過ぎて本気が顔を出す　(上)真理子
自販機が並ぶ寂しい駅に立つ　千鶴子

六甲川柳会（兵庫）　市坪　武臣報

復興はリンゴの歌で始まった　忠貞
負けず嫌い黙って努力が実を結ぶ　弘
お言葉を返すと妻の機関銃　武彦
トランプがまさかの坂を駆けのぼる　盛夫
許せない自分に負けている自分　文香
丸かじりしたくて前歯よく磨く　利子
ニュートンがりんごと地球抱き締めた　和宏
昨日今日りんごの色にみる平和　洋次郎
信頼は鏡のように映し合う　芳江
お出かけは鏡のぞいてほほ笑んで　英子
見上げれば月が照らしてついて来る　正彦
秋の空イワシやサンマおよいでる　邦子

背比べ孫に二センチまけた春　洋一
通勤の席で仕上げる車内化粧　武臣
貴方には負けてもいいの好きだから　夏子
花好きが庭に種まく野菜高　敏夫
老いと戦うまけん気だけは自負してる　加寿子
こんなにも言ってほとんど食べ尽くす　浩司
おばさんがまけよまけよとジャブを打つ　和郎
つくり笑いのおはよに鏡笑ろてくれ　美穂
加齢かな負けじ魂消えてゆく　じろう
勝ち組じゃない私でもつぼみ持つ　道子
人生に誇れる母という鏡　千賀子
可能性信じて今日もペダル踏む　光久

川柳藤井寺（大阪）　鴨谷瑠美子報

壊せない壁を壊して強くなる　雄太
信任を壊されまいとまっすぐに　一文
安倍総理何でも壊す多数決　紀雄
披露宴連れの一言ぶち壊し　光男
雰囲気を壊さぬように泣く笑う　扶美代
夢壊す格差社会がひたひたと　フジ子
未来への地球を壊す温暖化　キーキー
さばさばと元の他人になると言う　美代子
愛妻は元他人とは思えない　雅枝
血族も他人面する親介護　絹子
他人の中に同じ自分が住んでいる　彦弘
他人かと思う時あり倦怠期　シルク
他人の目気にし過ぎては生きられぬ　喜代子
親切な妻だがどこかしら他人　瑠美子
株券がボーナスくれる配当金　真一
わたしには縁ない株主優待券　みつこ
人生の縮図見て来た馬券売り　一歩
乗車券無くても乗れる道の駅　信二
診察券ポイントつけばよう貯まる　まつお
半額券二枚でタダになりますか　いさお

大山滝句座（鳥取）　新家　完司報

品行方正学業優秀糞真面目　蟹郎
一秒で君を殺せる目の動き　熊四郎
サスペンス中盤あたり匂い出す　七七
居る気配するが見えない福の神　たえこ
気配など無いのに指にからむ風　らんまん
わが一生スーパームーン見ずじまい　大鯰
エロスだと思う靴下脱ぐ気配　寿代
サバ缶は僕の好物グルメです　寛
大化けをしそうな株と妻と孫　正人
山茶花が咲いた隣に冬が来る　芳光
スリッパを持てばゴキブリ身構える　紀の治
リサイクルしたいなこんな上機嫌　くにこ
お隣は空家その横嫁が無い　照彦
ご近所に灯りがついた異常なし　楓花
大物の気配見せてる児のメタボ　雄大
グルメとは無縁な母のいなり寿司　幸子
町内会区長班長ゴミ奉行　石花菜
ちょっとした段差にいつも狙われる　美ッ千
梅干を持ってグルメの旅に出る　麦青
食材を知らねば旨い蛇蛙　規雄
我が国のお隣さんは不気味です　コスモス
酒あればメザシ漬物それでいい　道唱
母白寿耳は遠いがよくしゃべる　正男
山猿が近所の屋根で跳び回る　重忠
飲み食いのなれのはてだよ胃潰瘍　久子
里山が枯れ闊歩する獣たち　希楽良
お月さま見えるがパリの灯は見えぬ　完司

ほたる川柳同好会（大阪）水野　黒兎報

青春は夜行列車のスキー旅　郁子
不整脈夜は明けるのか心配に　信男
真夜中の目覚め来し方友の事　守啓
独り居の秋の夜長の長電話　奈津子
家族の歴史つなぐ柱の傷の跡　桂子
世界中手を繋ぎたいテロ封じ　堅坊
手をつなぎ母の速度で散歩する　宏造
国なまり言葉でつなぐ酒の席　長一
旅先で不安横切る火の始末　順子
俄雨急にどしゃ降り傘がない　柳童
猫の目を避けたい秋刀魚足はなし　美佐子
お座敷に来て靴下の穴気付く　黒兎
月並の言葉嬉しい年賀状　春代
スーパームーン兎もデカく育ってる　正子
存外な金食いそうな老い暮し　勝

句会名	日時と題	会場と投句先
川柳塔 打吹	14日(土) 13時30分締切 大根・望む・ムクムク	倉吉市上灘町9　上灘公民館 〒682-0034 倉吉市大原637－3　牧野芳光 方 川柳塔打吹　事務局
川柳 ねやがわ	15日(日) 12時開場 新しい・運・作戦	寝屋川市産業会館　3F 〒572-0063 寝屋川市春日町9－9 高田博泉 内　川柳ねやがわ
川柳 藤井寺	15日(日) 14時締切 宴　共選	藤井寺市立生涯学習センター・シュラホール 3F 近鉄南大阪線「藤井寺」駅下車南へ徒歩10分 〒583-0023 藤井寺市さくら町2-2-201　高田美代子
豊中 もくせい 川柳会	16日(月) 13時50分締切 意地・追う・のびのび 自由吟	豊中市中央公民館　3F 阪急宝塚線「曽根」駅　徒歩5分 〒569-0073 高槻市上本町5－26　初代正彦
川柳 さんだ	17日(火) 13時30分締切 新鮮・輝く・ラジオ うきうき・自由吟	JR「三田」駅前　キッピーモール6階 〒669-1545 三田市挟間が丘5－10－19　谷　祐康
川柳 たちばな	18日(水) 14時締切 印象吟・耳(互選)・入る 自由吟	立花公民館（尼崎市塚口町3－39－7） 〒661-0953 尼崎市東園田町3－49－5　藤井宏造
岸和田 川柳会	21日(土) 12時30分開場 誕生・守る・詳しい フレッシュ	岸和田市立福祉総合センター 南海電車「岸和田」駅より徒歩5分 〒596-0067 岸和田市南町9－17－818　藤井康信
川柳塔 みちのく	21日(土) 17時締切 栄える・ゆったり・初夢	弘前市松森町73「レストラン・セーブル」℡0172-36-6614 〒036-8275 弘前市城西1-3-10 川柳塔みちのく事務局 稲見則彦 宛　℡0172-36-8605
はびきの 市民 川柳会	22日(日) 14時締切 旅・つぶやく・するり	陵南の森公民館 近鉄「高鷲」駅北東　徒歩10分 〒583-0864 羽曳野市羽曳が丘1-11-8　徳山みつこ
川柳 ふうもん 吟社	22日(日) 13時30分開場 エキス・濁る・封じる	開発ビル　2F　ホール 〒689-0202 鳥取市美萩野2－171－3　中村金祥
南大阪 川柳会	23日(月) 18時開場 昭和・したたか・格差・雑詠	大阪市立住まい情報センター　5F　研修室 地下鉄谷町線・堺筋線「天神橋6丁目」駅③号出口 〒540-0004 大阪市中央区玉造1-16-13-304 前たもつ
川柳塔 すみよし	28日(土) 13時開場 空想・決める・ほいほい	住吉区民ホール 〒558-0054 大阪市住吉区帝塚山東2－4－9 古今堂蕉子
和歌山 三幸 川柳会	28日(土) 12時30分開場 拝む・スタート	和歌山商工会議所　4階　第3会議室 〒640-8570　ニュース和歌山編集部 「和歌山三幸川柳会」宛
京都 塔の会	30日(月) 14時締切 スタート・もがく・直	京都ハートピア　地下鉄丸太町駅⑤出口すぐ 〒607-8231 京都市山科区勧修寺堂田70－16 桝本宏子

★日時・会場などが変更になる場合は、本社事務所（06-6779-3490）へご連絡ください。

1月各地句会案内

（開催日順）

句会名	日時と題	会場と投句先
城北川柳会	7日(土) 10時50分締切 増える・サプリ・虚ろ・自由吟	錦城閣（キャッスルホテル3F） 地下鉄・京阪「天満」駅 〒536-0001 大阪市城東区古市1-8-14　江島谷勝弘
富柳会	7日(土) 14時締切 とり・予定・自由吟	富田林市立中央公民館 近鉄南大阪線「富田林」駅南口から西へ200m 〒584-0043 富田林市南大伴町4－1－10 川柳とんだばやし富柳会　池　森子
川柳塔わかやま吟社	7日(土) 14時10分締切 兼　題＝屠蘇・集める・まぶしい 課題吟＝間	和歌山ビッグ愛　〒640-8319 和歌山市手平2-1-2 兼　題　〒649-6253 岩出市紀泉台366　藤原ほのか 課題吟　〒592-8349 堺市西区浜寺諏訪森町東2-208-5 桒原道夫
倉吉川柳会	7日(土) 14時締切 御神酒(おみき)・すっかり 湧く	倉吉市明倫公民館 〒689-2221 鳥取県東伯郡北栄町由良宿2072－17 谷口次男
川柳塔まつえ吟社	7日(土) 12時30分開場 足・いろいろ・美しい・演歌	松江市雑賀公民館 〒690-1223 松江市美保関町笠浦222－1　相見柳歩
八尾市民川柳会	8日(日) 14時締切 童話・けったい・焦る・雑詠	八尾市渋川町・安中町集会所　1F JR「八尾」駅から徒歩5分 〒581-0083 八尾市永畑町2－1－7　土田欣之
西宮北口川柳会	9日(月) 14時締切 宇宙・扇ぐ・たった今 自由吟	西宮市立中央公民館　6F 阪急「西宮北口」駅南出口徒歩3分「プレラにしのみや」 〒663-8112 西宮市甲子園口北町27-4-602 梅澤盛夫
ほたる川柳同好会	10日(火) 13時30分締切 和・進む・厚い	豊中市立蛍池公民館 阪急・モノレール　蛍池駅前ビル　5F 〒561-0813 豊中市小曽根2－4－1　水野黒兎
川柳あまがさき	10日(火) 14時締切 頼む・腹・以外・自由吟	尼崎市女性センター・トレピエ 〒661-0953 尼崎市東園田町3－49－5　藤井宏造
川柳塔なら	11日(水) 14時締切 干支・ずばり・巫女	奈良市立中部公民館　4F 奈良市上三条23-4 近鉄奈良駅④番出口徒歩5分 〒633-0054 桜井市阿部787　松本方　安土理恵
あかつき川柳会	13日(金) 14時締切 光る・風・生命・時事吟	大阪保育運動センター（新谷町第1ビル2F） 地下鉄「谷町六丁目」駅③番出口南へ3分(道路向い側へ) 〒581-0014 八尾市中田2－312　前田紀雄
川柳塔さかい	13日(金) 13時開場 それから・ニッポン 折句：いのち	堺市総合福祉会館 〒590-0016 堺市堺区中田出井町3-4-31　村上玄也
川柳大阪	14日(土) 14時締切 挑む・飛躍・日帰り	地下鉄・長堀鶴見緑地線　京橋駅「研修室」 〒534-0021 大阪市都島区都島本通4-11-6 山崎珠生

明けましておめでとうございます

西宮北口川柳会

例　会　毎月第２月曜日　午後１時　西宮市立中央公民館
（阪急電鉄神戸線西宮北口下車　南出口徒歩３分）
プレラにしのみや６F

投句先　〒663-8112 西宮市甲子園口北町27-4-602　梅澤盛夫

亀岡哲子　金川宣子　片山忠　筧靖夫　加川靖鬼　奥澤洋次郎　大矢伸　大坪一徳　長川哲夫　緒方美津子　江島谷勝弘　梅澤盛夫　上田ひとみ　上垣キヨミ　井上じろう　市坪武臣　石原歳子　足立茂　浅野房子　秋元て　奥田みつ子　西口いわゑ

難波　七反田伯備　長浜順子　中西美籠　冨山豊子　冨山ルイ子　都倉恭子　寺杜求芽　寺井富次　田中秋果　竹山章子　白川千賀子　酒田淑子　酒井浩司　小林紀華　黒田わこ　蔵田能子　久保田光子　北野千代　北島哲男　北川邦男　河合美香　敏夫

両川　山本無限　山田義子　山田婦美子　山田昭九朗　山田耕治　崎武彦　山口光久　丸山一之　松村輝彦　松下比ろ志　松井文香　牧渕富子　堀　正和　古川奮水　藤原みよし　藤本直　藤岡り　藤井こ　福島宏造　萩野弘子　能勢忠彦　野口利子　晶子

新年明けましておめでとうございます

川柳あまがさき

会長　長浜美籠

石川きよみ　足立つな子　長川　哲夫
上垣キヨミ　入江　修平　加川　靖鬼
江見　見清　上田ひとみ　河津　正治
大岸　和子　大浦　初音　木山歌留多
岡部　美浪　奥村　五月　酒井　健二
片山かずお　川端　蔦子　竹林千代子
北川　純　北野　哲男　玉村　幸子
九鬼　洋子　小山　紀乃　中井　楓花
坂本　晴美　酒井　紀華　野口　晶子
谷　祐康　鶴田　遠野　平井　富夫
都倉　求芽　藤田　雪菜　藤岡　りこ
永田　紀恵　堀　正和　松下比ろ志
藤井　宏造　松村　里江　三好　京江
古川　奮水　溝端　利夫　山田　耕治
前川千津子　山本　幸香　森松まつお
宮崎　咲貴　新井つね湖　森松　芳香
山口ヨシヱ　市坪　武臣　小山　聖也
渡辺　柳明　内田美也子　細川　花門

例会　毎月第二火曜日
場所　尼崎女性センター・トレピエ

あけましておめでとうございます

サークル　檸　檬

浅野　房子
井丸　昌紀
太田　扶美代
奥田　みつ子
片岡　智恵子
久保田　千代
古今堂　蕉子
長浜　美籠
西口　いわゑ
西出　楓楽
西村　哲夫
前　たもつ
松尾　美智代
山口　光久
山本　加お里
山本　希久子
山本　義子
吉村　久仁雄

謹賀新年

川柳塔さかい

会長　河内天笑

石田ひろ子
内田志津子
榎本日の出
太田としお
奥　時雄
河内月子
小林若芽
小山永久
澤井敏治
島田誠一
田中ゆみ子
津田シルク
玉瀬富夫
内藤憲彦
中林佳子
日野　愿
増井ヨシ枝
宮本かりん
村上玄也
山岡冨美子
山根妙子

出海素頓馬
梅木澄空
榎本舞夢
太田扶美代
柿花和夫
源田八千代
小森大造
齋藤さくら
柴本ばっは
高木世紀子
谷川　憲
遠山唯敎
徳山みつこ
中野健吾
原　清晋
伏見雅明
升成　好
向井　清
矢倉五月
山本半錢
米澤俶子

明けましておめでとうございます

川柳ふうもん吟社

会長　両川洋々

会員一同

事務局：〒689-0202　鳥取市美萩野2丁目171-3
中村金祥
TEL 0857-59-1056

月例会：毎月第4日曜日　13:00～

会　場：砂場隆浩事務所（鳥取市片原1丁目107）

おめでとうございます

河内長野川柳協会

顧問　板尾岳人

長柳会・プラザ川柳

会員有志

水谷正子
山岡冨美子
村上直樹
坂上淳司
黒岩靖博
山室光弘
木見谷孝代
石田隆彦
梶原弘光
谷久美子
松岡篤
辻村ヒロ
大島ともこ
藤塚克三

川柳葦群

■主な内容
同人作品「葦群抄」
近詠作品「葦の原」
作品鑑賞　新家完司・大西泰世
柳論　エッセイ　句会報　ほか

■A5版　45頁　季刊（年4回）
年間 4000円（〒込）
発行人・編集人　梅崎流青

〒832-0087 福岡県柳川市七ツ家426　TEL.0944-72-6046
振替口座　01760-2-120254
E-mail　house7@cello.ocn.ne.jp

新年おめでとうございます

全国の主要書店で発売中。
購入希望、お問い合わせは、
072・772・3655　延寿庵野鬻（編集部）

文芸社
定価1,800円＋税

あけましておめでとうございます

きゃらぼく川柳会

会　員　一　同

事務局　〒683-0804 米子市米原5−1−3−304
竹　村　紀の治

あけましておめでとうございます

竹原川柳会

会長　小島蘭幸

会計　岩本笑子

石原淑子

土井輝恵

若年幸子

六田半徳

ほか会員一同

あけましておめでとうございます

川柳塔鹿野みか月

会員一同

〒689-0423 鳥取市鹿野町中園180

森山盛桜

謹賀新年

和歌山三幸川柳会

主幹　三宅保州
理事長　古久保和子
副理事長　喜田准一
副主幹　磯部義雄
〃　川上智三
理事　田中みね
〃　玉置当代
〃　楠見章子
〃　武本碧
〃　森口美羽

事務局　〒640・8111
和歌山市新通七―一七
古久保和子方
TEL073・423・8930

例会　毎月第四土曜日　12時30分
和歌山商工会議所
「バス停　和歌山市役所前」

謹賀新年

和歌山県川柳協会

会長　三宅保州
副会長　川上大輪
事務局長　古久保和子

［お問い合せ先］
〒640-8111 和歌山市新通7丁目17
TEL 073－423－8930

謹賀新年

川柳塔唐津

岩崎實
吉冨節子
坂本蜂朗
仁部四郎
山口高明

明けましておめでとうございます

豊中もくせい川柳会

会員一同

あけましておめでとうございます

いずも川柳会

会長　竹治　ちかし
会員一同

事務局　〒693-0006　出雲市白枝町４２３　伊藤玲子方
TEL 0853－23－3200

大阪川柳の会

事務局　〒532-0025　大阪市淀川区新北野1-3-4-706　本田智彦方
TEL 06（6303）7297

代表
礒野いさむ

世話人
足立　淑子
井上かれん
池田　武彦
碓氷　祥昭
大堀　正明
竹森　雀舎
伊達　郁夫
内藤　光枝
藤井満洲夫
本田　智彦
森口　美羽

◎会場　駅前第二ビル５階（大阪市北区梅田1-2-2-500）　※開場　午後１時

あけましておめでとうございます

創立50周年吟行大会ありがとうございました

南大阪川柳会

会員一同

住まいの情報センター（地下鉄谷町線・堺筋線 天神橋６丁目駅③出口）
原則として第４月曜日・６時から

迎春

川柳ささやま 一同

代表　北澤稠民

川柳茶ばしら

謹賀新年

早川遡行
板山まみ子
脇田雅美
金子美千代
関本かつ子

あけましておめでとうございます
本年もよろしくお願い申し上げます

川柳塔わかやま吟社

同人一同

事務局　〒640-8482 和歌山市六十谷1188－14　川上大輪方
電話・FAX 073－462－7229

あけましておめでとうございます

ほたる川柳同好会

水野黒兎　藤沢長一
小牧信男　高嶋勝
宮田輝　田中螢柳
藤原桂子　栗田久子
寺井柳童　中山春代
多田契子　松尾美智代
池田純子　荒木郁子
樋口順子　貝塚正子
上田陽子　水森美佐子
斎藤奈津子

句会　第二火曜日　午後一時より
勉強会　第四火曜日　午後一時より
場所　豊中市蛍池公民館

あけましておめでとうございます

京都塔の会

会員一同

賀　　春

はびきの市民川柳会

会長　徳山みつこ　・　会員一同

おめでとうございます

川　柳　大　阪

会長　山　﨑　珠　生

会　員　一　同

季刊

「川柳展望」

A5版　一五二頁

誌代　四、九六〇円（年間）

☆見本誌進呈いたします。

TEL　072・649・5226

FAX　072・649・2334

〒567・0009

茨木市山手台4―6―3―101

川柳展望社

川柳塔なら

あけましておめでとうございます

事務局　〒633-0054　奈良県桜井市阿部787（松本方）

安土理恵
安福和夫
宇賀史郎
飛永ふりこ
大久保眞澄
加門萌子
高畑おたか
仲西賛郎
中堀優
長谷川崇明
森中博一
渡辺富子
江島谷勝弘
（会計監査）
中原比呂志
（顧問）

新年明けましておめでとうございます

城北川柳会

伊達郁夫
近藤正
江島谷勝弘
小林杁香
永井縣筰
綱島榮子
平嶋美智子
藤原千恵子

あけましておめでとうございます

川柳さんだ

会員一同

あけましておめでとうございます

岸和田川柳会

岩佐ダン吉　桐島カズ子
増田隆昭　井岡一子
雪本珠子　井上益男
藤原昭　柿花和夫
松崎大輔　久保田益祥
石田ひろ子　新海信二
瓦谷正幸　高橋律雄
岸井ふさゑ　立藏信子
小島笑司　出原誠夫
佐藤幸子　中里はこべ
助川和美　中原宏之
次井義泰　西田喜代志
中岡香代　不破仁緑
仲谷弘子　松浦英夫
藤井康信　向井清
宮野みつ江　三宅保州
飯田忠太　花篤洋二
田中文時　三宅白水

謹賀新年

わかあゆ川柳会

会長　松本　昌
和泉ハル子
菅田かつ子
永見安子
奥谷澄子
河原恵美子
松本英子
渡部好栄

事務局　松本はるみ
TEL　〇八五四・四二・〇二四三

明けましておめでとうございます

八尾市民川柳会

会長　土田　欣之　　会員一同

あけましておめでとうございます

川柳塔みちのく

主幹　福士　慕情

波多野五楽庵句碑建立のご支援に、感謝申しあげます。

年　賀

川柳藤井寺

川柳みささぎ

代表 髙田美代子　会員一同

謹賀新年

川柳塔まつえ吟社

主幹 石橋 芳山

同人一同

事務局　〒690-0001 松江市東朝日町206−7
TEL.090−2003−5846　石橋芳山方

あけましておめでとうございます

川柳塔すみよし10周年記念川柳大会

会長　鶴田遠野

と　き　**平成29年6月18日（日）**

開　場　12時　**閉　会**　17時

ところ　ホテル・アウィーナ大阪　３Ｆ　葛城の間

おはなし　「川柳こぼれ話」
（NHKぼやき川柳　選者）　大西泰世氏

兼　題　「期　待」　長島敏子選
「続　く」　川上大輪選
「　神　」　西出楓楽選

謝　選　「チャンス」　鶴田遠野選

事前投句　「住　む」　**5月20日必着**　小島蘭幸選

＊　各題２句・欠席投句拝辞（各題の「天」位に賞呈）
＊　出句締切　13時30分
＊　開　会　14時
＊　お　話　14時10分
＊　披　講　15時
＊　会　費　1,５００円　記念品　呈
＊　ご芳志はご辞退させていただきます

〈懇親宴〉

＊　同会場にて５時半～７時半（３Ｆ　葛城の間）
＊　会　費　7,０００円　先着申し込み50名様

賀　正

川柳塔社

名誉主幹　河内天笑

主幹　小島蘭幸

理事長　新家完司

副主幹　川上大輪

副理事長　木本朱夏

副理事長　鶴田遠野

常任理事　足立茂　石田隆彦

居谷真理子　江島谷勝弘

大久保眞澄　片山かずお

久保田千代　古今堂蕉子

坂裕之　島田誠一

鈴木いさお　内藤憲彦

藤井宏造　松原寿子

森松まつお　吉村久仁雄

川柳塔社常任理事会

柳界展望

★「第11回岩国市民川柳大会2016年」は10月22日岩国市民会館で開催。同人成績。

大会賞　坂本　加代
いつだってあなたに合わす予定表

★「第24回和歌山県川柳大会」は11月27日開催。総参加数302名。同人成績。

全日本川柳協会理事長賞　堀　冨美子
似通った癖に戸惑う血の絆

産経新聞社賞　宇野　幹子
血と汗を拾い集めた棒グラフ

★「第36回「川柳塔鹿野みか月川柳大会」は11月27日鹿野総合福祉センターで開催。同人成績。

第2位　木本　朱夏
命名の一字が限りなく重い

第3位　新家　完司
寒いのは季節などではなくこころ

第7位　松本　文子
ふるさとの空気昭和を思い出す

★「兵庫県川柳祭in加東」は12月4日開催。同人成績。

兵庫県知事賞　奥田みつ子
錦より平和を祈る紙の鶴

読売新聞社賞　伊達　郁夫
錦絵の祭りの音に手が踊る

兵庫県議会議長賞　奥澤洋次郎
日本の心をつくる四季の技

▽**柳界動向**△

○福士慕情（理事・弘前市）さんの「川柳塔」12月号巻頭句六句が木津川計先生の「NHKラジオエッセー」（12月14日放送）に紹介されました。

▽**ご芳志御礼**△

○故山崎君子さんのご遺族様より、金一封拝受しました。

▽**お詫びして訂正**△

▼11月号、P57上段5行目、お名前の訂正、山瑞なつみ→山端なつみ。

▼12月号、P48上段17行目、絶好→絶交。

▽**新誌友紹介**△

四万十市　**遠近　哲代**
紹介者　小島　蘭幸

伊丹市　**西川富士雄**
紹介者　澤井　敏治

大阪市　**堀田　温子**
紹介者　森松まつお

米子市　**池田　美穂**
紹介者　後藤　宏之

米子市　**伊塚美枝子**
紹介者　後藤　宏之

米子市　**吉川美千代**
紹介者　後藤　宏之

常任理事会＝12月7日(金)
①平成29年第23回川柳塔まつりについて②高野山合祀報告③定例確認事項
次回＝1月6日(水)AM10時～

新同人紹介

細川花門（ほそかわかもん）
―哲男・正和推薦

創立88周年記念　ふあうすと川柳大会
平成28年　年間賞発表

日　時　平成29年4月9日（日）　午前10時開場
場　所　兵庫県民会館　9Fホール　TEL 078-321-2131
神戸市中央区下山手通4-16-3（JR元町・阪神元町駅より北へ徒歩7分）
宿　題（欠席投句拝辞）

「たっぷり」	新貝里々子　選
「　米　」	大家風太　選
「生　む」	大西泰世　選
「時　代」	松代天鬼　選
「テ　ス　ト」	新家完司　選
「決　め　る」	矢沢和女　選
「雑　詠」	赤井花城　謝選

出句締切　12時（各題2句）
会　費　2000円（記念品・発表誌呈）
（昼食は各自でお済ませください。地下に食堂あり）
懇親会　5000円　17時15分～　当日受付
主　催　ふあうすと川柳社

第41回 全日本川柳2017年札幌大会

日　時　平成29年6月18日（日）午前9時開場
会　場　京王プラザホテル札幌2F　エミネンスホール
〒060－0005　札幌市中央区北5条西7－2－1
TEL 011（271）0111
交通機関
新千歳空港駅からJR札幌駅（快速エアポートにて約37分）
札幌駅より徒歩5分
主　催　一般社団法人　全日本川柳協会
全日本川柳札幌大会実行委員会
後　援　文化庁・北海道・北海道教育委員会・札幌市
札幌市教育委員会・北海道文化団体協議会
（公財）北海道文学館・北海道新聞社・NHK札幌放送局

宿題　第一部　4月15日締切（当日消印有効）
事前投句　一般（高校生も含む）部門
「領　土」尾藤一泉　選　「ジャンプ」鈴木　公弘　選
「牛　乳」長谷川酔月　選　「ちらちら」田中　新一　選
事前投句　ジュニア（小・中学生）部門
「熊　」髙橋みっちょ　選　「牛　乳」弘兼　秀子　選
「草　原」田中　螢柳　選

専用用紙のない方は2×16cmの句箋一枚に一句を記入、各題二句無記名。封筒の裏面に住所、氏名明記。
投句料　一、〇〇〇円（定額小為替・現金書留）を同封して左記宛に郵送または郵便振替口座へ送金のこと（当日消印有効）。
小中高生は投句料無料。
投句先　〒530－0041　大阪市北区天神橋2丁目北1－11－905
一般社団法人　全日本川柳協会　宛
TEL 06（6352）2210　FAX 06（6352）2433
郵便振替口座　00970－9－3575

講　演「現代を考える」　**講師・作家　小檜山　博　様**

宿題　第二部（当日投句・11時締切）
「運　河」橋爪まさのり　選　「大　衆」梅崎　流青　選
「のどか」菅原孝之助　選
各題二句、当日配布の句箋に記入。

第二次選者　本田　智彦　津田　暹　植木　利衛
浪越　靖政　森中惠美子
参加費他　四、〇〇〇円
（参加費二、〇〇〇円・昼食、記念品二、〇〇〇円）
表　彰　(1)文部科学大臣賞　(2)参議院議長賞　(3)川柳大賞
(4)大会賞　(5)ジュニア部門は賞状とメダル

全日本川柳札幌大会実行委員長　岡崎　守

〈表彰式典・懇親会ご案内〉
◎表彰式典＝平成29年6月18日（日）午後12時40分から
（川柳文学賞・功労者・大会連続参加者・平成柳多留入賞者）
◎懇親会＝大会終了後、同一会場で17時30分開催予定
会　場　京王プラザホテル札幌2F　エミネンスホール
〒060－0005　札幌市中央区北5条西7－2－1
TEL 011（271）0111

参加費　八、〇〇〇円（会食・アトラクション）
大会・懇親会のお問い合わせ先　北海道札幌市東区本町1条4－5－5
青柳　忠方
全日本川柳札幌大会実行委員会事務局　宛
TEL・FAX 011（785）2328
大会・懇親会の参加費の送金先　4月15日（必着）
郵便振替口座番号　02780－1－70899
全日本川柳札幌大会実行委員会　宛

〈宿　泊　の　ご　案　内〉
宿　泊（一泊朝食付きお一人様税込み料金、前日・当日泊）
A　ノースゲートホテル札幌（札幌市北区北6条西4丁目）
シングル　12、000円　ツイン　11、000円
B　ホテルルートイン札幌駅北口（札幌市北区北7条西4丁目）
シングル　11、000円
宿泊の申し込み、問い合わせ先
東武トップツアーズ㈱札幌支店　担当＝佐藤・近藤
TEL 011（221）0821　FAX 011（222）4357
※宿泊施設は4月15日までにFAXにて東武トップツアーズへお申し込みください。

編集後記

★金よりも銀ゴーイングマイウェイ　薫風

★暦一枚めくれば新しい年。昨日までバタバタ、ギスギスしていたのが嘘のように空気までスカッと澄んでいる不思議。子どもの頃のお正月を思う。餅つき、凧揚げ、羽根付き。何よりうれしかったお年玉に新しい洋服。お正月映画。

★現代の子どもたちのお正月事情は大きく変わった。年中きれいな洋服や靴を身につけ、別に映画館に行かなくともゲームがある。スーパーやデパートは休みなく開いている。ワクワクと待ちわびることもなくなったお正月。どちらが幸せ？　不幸せ？　と言う訳ではないが何となく寂しい。

★地球温暖化の影響で異常に暑い夏から秋、家計を預かる主婦を嘆かせたのは野菜の高騰。人参一本200円、キャベツ一玉400円、ジャガイモ一個90円！　おおかたの野菜が二倍！　富める人々には殆ど影響がないかもしれないが、一般庶民の懐には厳しい。

★今更温暖化の悪影響を云々するわけではないが、水やお茶を買うことに何のためらいもない現代、公平に吸っている綺麗な空気も、水も、何時かは富める彼らだけのものになるのではないか。「貧乏人は麦を食え」といった宰相を思い出す。

★イギリスは国民投票でEU離脱が決まり、アメリカではまさかのトランプ大統領誕生。そして国と国との格差も、私たち国民の貧富の差も果てしなく広がるばかり。世界は何処へ行こうとしているのか。今年は大変革の年になるのだろうか。

★名古屋市在住の方から川柳塔創刊号から数十冊を戴いた。創刊号は路郎師亡き後の昭和四十年十月一日発刊。戴いた塔誌は保存状態も良く、直原玉青画伯の表紙絵も美しい。今年の読み初めとして楽しみたい。（朱夏）

○米と韓の大統領問題を連日取り沙汰されていましたが、「いよ！大統領」の掛け声は大工の棟梁からきていると言っていましたが、どうなんですかね。

○大統領と言えば我が家にある花札、ちょっと思い出がありまして…信州へ旅行したのです、オッサン三人で…湯に浸かり夕食も済ませるとすこぶる暇でして「カブでもやりますか」となって、カラコロ下駄を鳴らしてカブ札を探しに街に繰り出し一軒の古いタバコ屋さんを見つけたのです。「すいません、カブ札下さい」「ハア？カブ札って何です？」店番のバア様は「カブ」自体をご存知無かった訳でして、長々とルール説明をすると「そんなら花札でやりなんしょ」と大統領を持ってきて下さったのです。

○勝負が始まったのですが「坊主って何月？」「アヤメって？」と聞きながらですので、なんとも締りのない勝負が夜ふけまで続きました。若かりし頃の一コマです。（まつお）

ひとこと

心の支え

平成28年10月21日午後2時7分鳥取に地震がありました。震度6弱。11月5日に開催予定の鳥取県川柳大会会場の鳥取県立倉吉未来中心ホールの天井が落ち、大会は中止になりました。この会場は我が家から徒歩7、8分のところにあり、町の避難所になっていましたが、余儀なく独り居の私は自宅で避難している有様です。

町中の屋根はブルーシートの花ざかり。お墓や灯篭がたくさん倒れています。自宅は屋根もお墓も無事でほっとしています。こんな中で一月提出の句作り。何もかも忘れて満ち足りたひとときでした。川柳をしていて良かった、川柳は心の支えです。心が落ち着きます。私の今の心境をどなたかに聞いて頂きたくてペンを取りました。（岡崎美知江）

川柳塔（同人）・水煙抄（誌友）投句用紙

◎8句を楷書で正確に書き、15日までに到着するようお送りください。

きりとりせん

種目「　　」発表（3月号）

地名　　市都道府県

姓雅号

同人・誌友　マルで囲んでください。

投句先　〒543-0052 大阪市天王寺区大道1丁目14番17号 花野ビル201

「川柳塔」への投句について

(1) 川柳塔欄への投句は同人、水煙抄欄へは誌友（誌代半年分以上前納の定期購読者）に限り、本誌綴込みの投句用紙を使用してください。

(2) 愛染帖・檸檬抄・一路集・インスピレーション・ナビ（印象吟）への投句は、同人・誌友に限ります。初歩教室は誌友のみとします。愛染帖・一路集・初歩教室は川柳塔柳箋（本社事務所取り扱い）、檸檬抄は本紙綴込みの投句用紙を使用してください。

(3) 各欄への投句は、必ず氏名と住所（県・市名）を明記してください。

(4) 各欄への投句数および**投句締切期日の厳守**をお願いします。ファックスでの投句は御遠慮下さい。

川柳塔本社事務所へのご連絡は、土・日曜、祝日を除く平日の10時から15時までにお願いいたします。

檸檬抄投句用紙

「手　頃」（1月15日締切）

3月号発表

安土　理恵 選 ――共選―― 北野　哲男 選

B　A

地名

市都
県道
府　姉雅
号

切らないで下さい

B　A

地名

市都
県道
府　姉雅
号

きりとりせん

◎楷書で正確に書き、15日までに到着するようお送りください。

左右に同じ句を書いて下さい

本社1月句会

とき　1月6日㈮ 13時開場・13時40分締切
―開場時間、締切時間を変更しています。ご注意下さい。

ところ　アウィーナ大阪　4階　金剛の間
天王寺区石ケ辻町19―12　電06・6772・1441

おはなし「四万十川川柳全国大会」小島蘭幸

席題「　　」長浜美籠選

兼題「父」山野寿之選
「マーク」大内朝子選
「触れる」山岡冨美子選
「余裕」村上直樹選
「めでたい」新家完司選
（各題2句以内）

会費　1000円　投句料　500円（切手可）

作品募集

3月号発表（1月15日締切）

川柳塔（8句）小島蘭幸選
水煙抄（8句）西出楓楽選
愛染帖（2句）新家完司選
檸檬抄「手頃」（2句）（北野哲男・安土理恵共選）
インスピレーション・ナビ（2句）大西泰世選
「わざわざ」吉村久仁雄選
「ブーム」紫しめの選
一路集（2句）
初歩教室「やれやれ」（3句）居谷真理子担当

4月号
檸檬抄「青」
一路集「曲がり角」「世話」
初歩教室「掴む」

本社2月句会

2月7日(火)　午後1時から

兼題「鶏」「ポイント」「とうとう」「傾く」「結局」

第35年度 夜市川柳募集

第8回「劇」雫石隆子選
ハガキに3句　**1月20日**締切

投句先　〒593-8305　堺市西区堀上緑町2-16-3
河内天笑方　**川柳塔さかい**

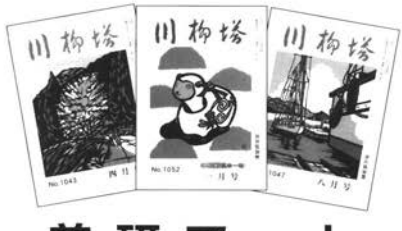
定価　八百円（送料94円）
半年分　五千円（送料共）
一年分　九千八百円（同）

二〇一七年（平成二十九年）一月一日発行

発行人　小島和幸
編集人　木本朱夏
印刷所　美研アート

〒543-0052
大阪市天王寺区大道一―一四―一七
花野ビル201号室
発行所　川柳塔社
電話（〇六）六七七九―三四九〇番
振替　〇〇九八〇―四―二九八四七九番

川柳・俳句・エッセイ・小説
新聞・広告・ポスター・伝票等
あなたの思いをかたちにします。



美研アート
〒530-0022 大阪市北区浪花町9-4
TEL (06) 6372―1178
FAX (06) 6372―1196
E-mail：bikenart@ea.mbn.or.jp

川柳塔のホームページアドレス　senryutou.net/html/index02.html

平成二十九年一月一日発行（毎月一日発行）
創刊大正十三年　通巻一〇七六号　川柳塔　一月号
定価　八百円（送料　九十四円）

川柳募集

「ごま」にまつわる
あなたならではの
一句を募集します。

・兼題　「ごま」川柳塔社主幹 小島蘭幸　選、
・応募要領　郵便ハガキに2句、郵便番号、住所、氏名、電話番号を明記してください。入選20句、準特選2句、特選1句に賞品。
・発表　本紙4月号にて発表いたします。
・締切り　2017年1月31日(当日消印有効)
・投句先　〒543-0052　大阪市天王寺区大道1丁目14番17号 花野ビル201号室
川柳塔社　ゴマ川柳係　宛

オニザキの
つきごま
手作りの味わいに
こだわり続けて
六十一年

株式会社 オニザキコーポレーションセールス
〒862-0951 熊本市中央区上水前寺1-6-41 OCOビルディング
TEL 0120-30-5050

心を尽くし　思いを尽くし　知性を尽くし
力を尽くして全人的に仕える医療と福祉

医療法人社団　湯川胃腸病院

消化器科　放射線科　脳神経外科
緩和ケア（ホスピス）
デイサービスセンター併設

大阪市天王寺区堂ヶ芝2-10-2　TEL 06-6771-4861
http://www.yukawa.or.jp

雑誌 05703－1